

令和2年度

(2020年度)

小学校編

上益城はびと

Build Back Better



(御船町恐竜博物館)

上益城はびと

熊本県上益城教育事務所



「みどりかわ」の活用について

新型コロナウイルス感染症による長期臨時休業をはじめ様々な対応により、大きな影響を受けた令和２年度となりました。各町教育委員会の教育長先生をはじめ、各小・中学校の校長先生を中心とし、様々な課題に対して迅速かつ的確にご対応いただき、心から感謝申し上げます。

そのような中であって、今年度は、新しい学習指導要領が小学校で完全実施となりました。また、中学校では、来年度からの完全実施に向けた準備が進められています。上益城教育事務所では、「学校にとって役に立つ教育事務所でありたい」という思いから、各事業等の見直しを進めて参りました。「みどりかわ」の作成に当たっても、この数年、「学校にとってすぐに役立つこと」をテーマに作成して参りました。

令和２年度（２０２０年度）「みどりかわ」のテーマは、「熊本の学び推進プラン実施のための参考資料」としました。熊本の学び推進プランは、新学習指導要領の趣旨を教室に届ける試みです。令和３年度（２０２１年度）から学習構想案を含め、すべての小・中学校で実施をお願いしているところです。すでに今年度から、管内の各地域や学校において、できる内容に取り組んでいただいたり、スタートアップ研修等で理解を深めていただいたりしています。

令和２年度（２０２０年度）「みどりかわ」が、熊本の学び推進プランを実践する際に、先生方の手元にあり、授業改善の推進において活用していただければ幸いです。最後になりましたが、「みどりかわ」の作成に当たり、貴重な情報を提供していただきました各町教育委員会の教育長先生、そして、該当小・中学校の校長先生方に厚く御礼申し上げます。

〈目次〉

- ◆ 「みどりかわ」の活用について P 1
-
- 「熊本の学び」推進プラン実施のための参考資料【小学校編】
- 1 スタートアップ研修会資料 P 3～ 21
 - 2 教科等における「見方・考え方」 P 22～ 36
 - 国語科 P22 社会科 P23 算数科 P24 数学科 P25 理科 P26
 - 生活科 P27 音楽科 P28 美術科 P29 技術 P30 家庭 P31
 - 保健体育科 P32 外国語科 P33 道徳科 P34
 - 総合的な学習の時間 P35 特別活動 P36
 - 3 学習構想案作成のポイント P 37～ 53
 - 本時 P37 国語科 P38 社会科 P39 算数・数学科 P40
 - 理科 P41 生活科 P42 音楽科 P43 美術科 P44 技術 P45
 - 家庭 P46 保健体育科 P47 小学校外国語科 P48
 - 中学校外国語科 P49 道徳科 P50 総合的な学習の時間 P52
 - 特別活動 P53
 - 4 学習評価のポイント P 54～ 79
 - 国語科 P54 社会科 P56 算数科 P58 理科 P60 生活科 P62
 - 音楽科 P64 図画工作 P66 家庭 P68 体育科 P70
 - 外国語科 P72 道徳科 P74 総合的な学習の時間 P76
 - 特別活動 P78
 - 5 学習構想案(例)ー小学校編ー P 80～135
 - 国語科 P80 社会科 P84 算数科 P88 理科 P92
 - 生活科 P97 音楽科 P101 図画工作科 P105
 - 家庭 P109 体育科 P114 外国語科 P118 道徳科 P122
 - 総合的な学習の時間 P127 特別活動 P132
 - 6 上益城教育事務所作成 学習構想案 P136～159
 - 小学校国語科 P136 中学校社会科 P140 小学校算数科 P144
 - 中学校理科 P148 小学校外国語科 P152 小学校体育科 P156
 - 7 上益城管内の取組【学習習慣形成の取組】 P160～162
 - (1) 管内の学習習慣形成の現状 P160
 - (2) 木山中学校区の取組 P161 (3)蘇陽中学校区の取組 P162
 - 8 教育諸計画等の作成に関するチェックリスト P163

＝熊本の学び推進プラン＝

～熊本の未来の創り手となる子供たちの学び～



熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何かができるようになるか

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

社会に開かれた教育課程

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）
の視点からの学習過程の改善



学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、子供の学びが進化します。新しい学習指導要領、スタート。

＝新学習指導要領改訂の基本方針＝

- 社会に開かれた教育課程を重視
- 育成を目指す資質・能力の明確化

・何のために学ぶのかという各教科等を学ぶ意義を共有

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

- ・これまでの授業改善の取組の蓄積を生かす
- ・主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点で授業改善を進める
- ・単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学びを実現させる
- ・深い学びの鍵として、「見方・考え方」を働かせる

- 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進
 - ・教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させる

＝熊本の学び推進プランとは＝

- 本県の課題をどう克服していくか…
- 本県の取組を継承し発展する形で示された提言
その提言の実現に向けたプラン…
- プランは、新学習指導要領の趣旨を教室に届ける試み…
- 子供たちを中心に、学校だけでなく家庭・地域・
行政の5者が同じ側に立ち…

『熊本の学び推進プラン』まえがきより

＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが
未来の創り手となるためには、
どのような力が必要だと思いますか？

＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが

を身に付けること

を目指します。

＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが

「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に
学び続ける力」を身に付けること

を目指します。

＝熊本の学び推進プラン＝

熊本の子供たちが

「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けた子供の姿とは、

どのような姿でしょうか？

【理念】と期待する学び【3つの提言】

【理念】

～熊本の子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、
「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指します～

熊本の未来の創り手となる子供たちに期待する学び(提言)

【提言1】

ふるさと熊本に根ざし、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、
能動的に学び続ける熊本の子供

【提言2】

問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、
学びを深める熊本の子供

【提言3】

自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、
自ら学ぶ熊本の子供

身に付けてほしい【カ】 目指す【姿】のために、 どのような取組が必要か？

- 「熊本の学び推進プラン」では…
- 学校では、学年では、先生方一人一人は…
- 子供たちは、家庭は、地域は、行政は…

【熊本の学び推進プランの概要】

第1章 「総説」

第2章 「教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進」

第3章 「子供が問いを発し、課題に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進」

第4章 「子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立」

第5章 「家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進」

第6章 「熊本の学び推進プラン」の実施

【第1章のポイント①】

「四つの基本方針」に基づく一体的な取組

【四つの基本方針】

1 教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進

⇒ 第2章（教育課程編成の手順、学校経営方針の共有の仕方等）

2 問いを発し、課題に主体的に向かい、学びを深める授業改善の推進

⇒ 第3章（学習者の視点に立った授業の在り方等）

3 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立

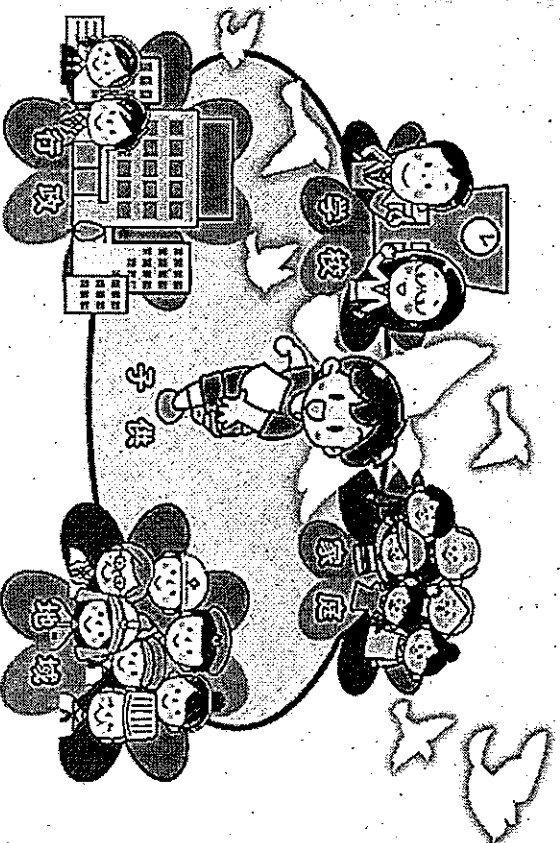
⇒ 第4章（県学力・学習状況調査の活用等）

4 家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進

⇒ 第5章（家庭と連携した家庭学習の在り方等）

【第1章のポイント②】

五者が連携・協働した取組



熊本の学びでは、子供を中心に、学校、家庭、地域に行政を含めた「五者」で連携した取組を大切にします。

【第2章のポイント①】

熊本の子供たちに、これからの社会を創り、
未来を豊かに生きていくための力を！

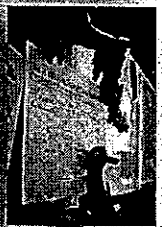
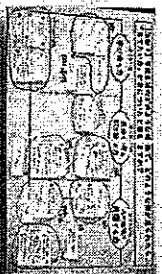
～教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進～

【重点1】すべての教職員が連携・協働し目指す子供たちの姿を思い描きましょう

育成を目指す資質・能力の設定を！

管理職だけでなく、全教職員が一つになつて学校教育目標や育てたい力について話し合い、学校のグラウンドデザインを作成することが大切です。

【教職員間の共有例】



※学校教育目標や育てたい力
についてのワークショップ。

目標や計画作成の手順

○調査(R) 学校、子供、地域等の実態把握及び分析



○計画(P) 学校教育目標等の策定及び教育課程の編成

①五者で共有できる明確な学校教育目標を設定

②重点的に育成を目指す資質・能力を設定

③学校のグラウンドデザインを作成

④教科等横断的な視点で教育課程を編成



○共有(S)

○実行(D) 目標達成に向けた教育課程の共有、実施

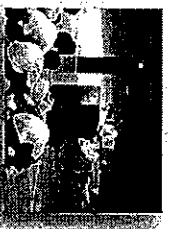
【第2章のポイント②】

【重点2】目指す子供の姿を五者で共有しましょう

分かりやすい表現で共有を！

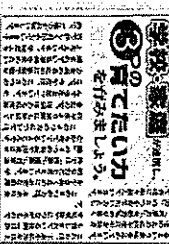
学校が目指す教育や資質・能力を示したグラウンドデザインを通して、家庭、地域、行政そして子供たちと共有することで、連携・協働することが大切です。

【児童生徒との共有例】



※生徒集会での発表。

【保護者・地域との共有例】



※通信を使っての発信。

【重点3】教育活動を定期的に振り返り、更なる充実につなげましょう

改善・充実を図り好循環へ！

学校評価の観点に教育課程に関する項目を位置付けたり、定期的に実施したりすることで、改善を見通し教育活動の充実につなげていきましょう。

学校評価の流れ

○評価(C) 実態に応じた学校評価



○共有(S)
○改善(A)

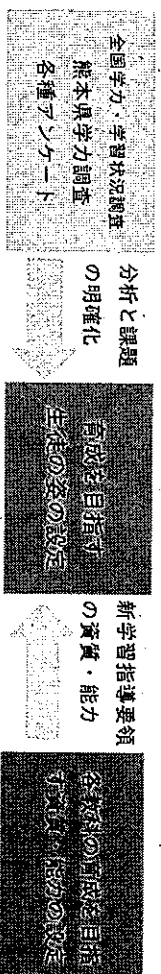
結果の共有(公表)・次への改善

①学校評価の結果の共有(S)

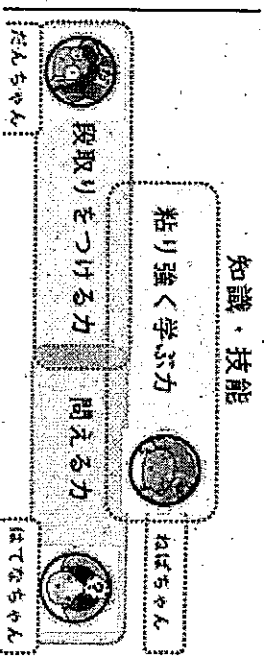
②次に向けての改善(A)



○調査(R) 改善に向けた調査、改善された計画
○計画へ(P)



水俣市立水俣第一小学校 校内研修より



【第3章のポイント①】

熊本の子供たちを、「学びの主体」として育てるために！

～子供が問いを発生し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

【重点1】子供の『わくわく』が連続し、『分かった』『できた』『もっとやってみよう』が生まれる授業を目指しましょう

「熊本の学び」における授業づくりのポイント！

- ◆ポイント (1) 子供の『わくわく』(知的好奇心や興味・関心等)が連続し、『学びを生かそう』とする姿が生まれる
単元デザインのエフェをしましょう
- ◆ポイント (2) 子供の『なぜ』『おそらく』(疑問や予想等)が生まれる導入のエフェをしましょう
- ◆ポイント (3) 子供の『やってみよう』『なるほど』『きっと』(挑戦や納得等)が生まれる展開のエフェをしましょう
- ◆ポイント (4) 子供の『分かった』『できた』『もっとやってみよう』(奥感や達成感、更なる意欲等)が生まれる
終末のエフェをしましょう
- ◆学びの深まりのために
主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用を図りましょう

熊本の子供たちを「学びの主体」として育てるために！

～子供が何を学び、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

【第1】「学びの主体」としての子供たち

学習者の成長に立った「熊本の学び」へ！

「熊本の学び」を実現していくには、「子供たちの学びの他がら育まれる」ということで、「子供を育て学びの主体として育て、子供たちが学ぶことその学びを自ら学ぶ人として社会のために活躍できる」という完成を掲げられることが大切です。

【熊本の学びにおける授業づくりのポイント】

ポイント1 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、



子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

【授業づくりの目標】

1. 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

ポイント2 子供の「学びたい」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、



子供の「学びたい」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

【授業づくりの目標】

1. 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

ポイント3 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、



子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

【授業づくりの目標】

1. 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

ポイント4 子供の「学びたい」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、



子供の「学びたい」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

【授業づくりの目標】

1. 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

学びの場づくりのために 主体的・対話的で深い学びへとつなげるために、



主体的・対話的で深い学びへとつなげるために、

【授業づくりの目標】

1. 子供が「わく」(学習意欲や興味・関心)が湧き出し「学びを心から学びたい」と思えるように、

※10月10日の授業改善に関する取り組みについて、熊本県教育委員会からのお知らせをご覧ください。

単元デザイン

導入では

展開では

終末では

効果的な活用を

「熊本の学び推進プラン」リリース

【第3章のポイント②】

【重点2】 「単元のゴールの姿」に向けて、「単元・題材のまとめ」で 授業を構想しましょう

単元のまとめで授業を構想する 「学習構想案」へ！

「熊本の授業づくりの理念」の下、「確かな指導観に基づき、『子供たちの学びの側』から学習を構想する」

～すべての子供たち一人一人の「学び」は、教師の「指導する(教える)」授業を子供たちの学びの側から「構想する」学習として捉え直す中で、見えてくる～

※ 「熊本の授業づくりの理念」

教師が基礎的な知識及び技能を徹底して身に付けさせ、子供自らが、課題解決に向けて能動的に学ぶこと

【大切にしていきたい3項目】

- ① 単元終了時の子供の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)
- ② 単元を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)
- ③ 単元で動かせる見方・考え方

県教育委員会では、これまでの一般的な「学習指導案」の項目・内容に、**【大切にしていきたい3項目】**を加えたものを「学習構想案」と称し、今後、県内において推進していきます。

【第3章のポイント③】

どう変わるのか！

- 項目・内容に関して「大切にしていきたい3項目」を追記していること。
- 表記の順序に関して、単元構想の中心となる大切な項目を「1 単元構想」としてまとめ、最初に明記していること。（「1単元構想」と「4本時の学習」で略案）

これまでの一般的な「学習指導案」	本推進プランで示す「学習構想案」
1 単元名	1 単元構想 ○単元名 ○単元目標 ○単元の評価規準
2 単元について (1) 単元観 (2) 系統観 (3) 児童(生徒)の実態 (4) 指導上の留意事項	○単元終了時の子供の姿(単元のゴールの姿・期待される姿) ○単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題) ○本単元で働かせる見方・考え方 ○指導計画と評価計画
3 単元の目標	2 単元における系統及び児童(生徒)の実態 ○学習指導要領における該当箇所 ○教材・題材における価値 ○本単元における系統 ○児童(生徒)の実態
4 単元の評価規準	3 指導に当たっての留意点
5 指導計画及び評価計画	4 本時の学習 ○目標 ○展開
6 本時の学習 (1) 目標 (2) 展開	

※令和2年度→移行期間

準備が整った学校から実践を！

【第3章のポイント④】

具体的な例(単元構想の一部)

単元の目標	<p>※単元・題材における目標を観点ごとに設定します。</p> <p>①..... ②..... ③.....</p> <p>※国立教育政策研究所から示された例を参照して設定します。 年間指導計画等も参照してください。</p>		
単元の 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>※学習指導要領に示されている目標(三つの柱で整理)を基に、「内容のまとめり」ことの評価規準が設定されます。そこから、単元・題材の評価規準を設定します。学習指導要領解説を基に、観点ごとに、具体的に評価規準を設定しましょう。(国立教育政策研究所から示されている例を参照してください。)</p>		
<p>単元終了時の子供の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)</p>			
<p>※単元で学んだ後の子供の姿を具体的に設定します。学んだことを次の学習や実生活で生かそうとする姿をイメージして設定します。 ※文末は「～している子供」～「～しようとしている子供」等で表すことが考えられます。 ※各学校で重点的に育成を目指す資質・能力と関連付けて設定することも考えられます。</p>			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
<p>※ゴールの姿の実現を図るために、単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題など)を設定します。問いかけや呼びかけになるように表記します。</p>		<p>※学習指導要領解説に示されている、各教科等における「見方・考え方」を基に設定します。</p>	

【第3章のポイント⑤】

【重点3】自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

「総合的な学習の時間」の充実を！

あなたの学校では「総合的な学習の時間」はどんな時間になっていますか？

例えば、

●先生、明日の「総合的な学習の時間」は何をしましょうか？



文化祭の展示物を貼る時間が無いから、来週の「総合的な学習の時間」を使おう！



先生、今日の「総合的な学習の時間」は、何をしますか？

あなたの学校で「総合的な学習の時間」に関して、こんな声が聞こえてきたら、総合的な学習の時間が充実している証拠です。



来週の「総合的な学習の時間」では、～について子供たちが集めた情報を整理・分析する時間をしましょう。



前回集めた情報を、同じ内容で仲間分けして整理してみよう。

熊本の地域のおさ(室)を生かした「探究的な学び」へ！

【第3章のポイント⑤】

【重点3】自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

「総合的な学習の時間」の充実を！

Q1 総合的な学習の時間の目標はどうやって決めたらいいの？

各学校が定める総合的な学習の時間における目標は、学校教育目標の実現につながるものとなっていることや、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力が示されていることが重要です。

Q2 総合的な学習の時間の内容はどうやって決めたらいいの？

内容については、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定めます。
目標を実現するにふさわしい探究課題とは、探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものです。例えば、「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」、「実社会で働く人々の姿と自己の将来」など、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特徴に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づいた課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定することが大切です。

また探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示すことが重要です。

【第3章のポイント⑥】

【重点4】安心と信頼におおられ、高め合う学級をつくりましょう

学級経営の充実を！

■「熊本の教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』くまもとの教職員～」の教育行動指標や「子供の居場所づくり推進ツール」を基に、学級経営における「熊本の教師の心がけ10か条」を示しています。

■この10か条を参考に、自分自身の学級経営を見つめ直し、安心と信頼にあふれた高め合う学級づくりを進めましょう。

熊本の教師の心がけ10か条

- 視点1 児童生徒同士のつながり
- ① まずはオーブンマインド
 - ② みんなが頑張って、みんないい
 - ③ 授業は全員参加・全員活躍
 - ④ ハードワークはチャンス
- 視点2 教職員と児童生徒のつながり
- ⑤ 子供の「良さ」を見付ける
 - ⑥ 自ら示す「方モデル」
 - ⑦ 評価はタイムリーに
- 視点3 組織体としての教職員同士のつながり
- ⑧ 学校は組織体
 - ⑨ 風通しのよい職場
- 視点4 学校と家庭、地域・関係機関のつながり
- ⑩ 保護者・地域は子育てのパートナー

【第4章のポイント】

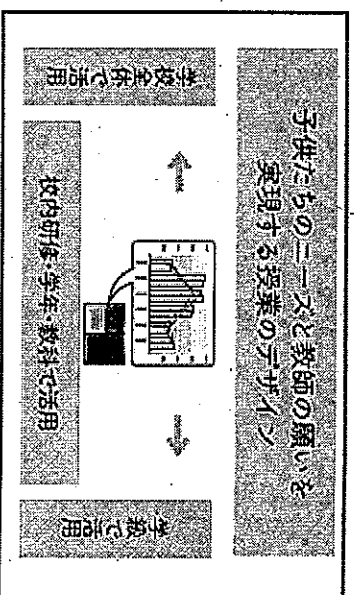
自らの学びを知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！

～子供と教師のための効果的な学カ向上検証改善サイクルの確立～

【重点1】子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザインにつなげましょう

学校総体で効果的な活用を！

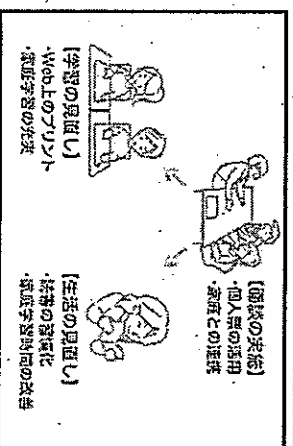
- 質問紙調査の充実
 - ・ 学習状況の学習習慣や生活習慣との相関
- 提供資料の充実
 - ・ 「どのように学ぶとよいか」まで指導することが可能



【重点2】子供たちが自らの学びをデザインしてできるようにしましょう

一人一人の学びに応じた活用を！

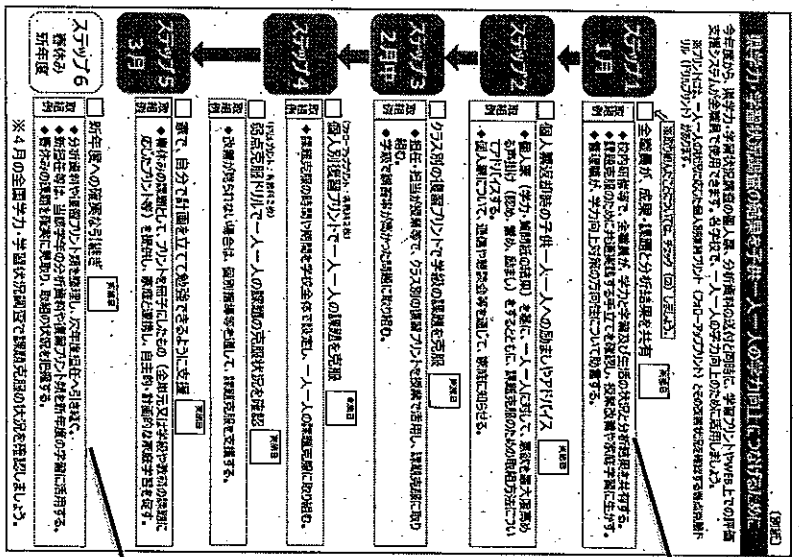
- 個人票の充実
 - ・ 教科別の結果が一览できる
 - ・ 学習のアドバイスが表示される
 - ・ 学習習慣や生活習慣からの課題が分かる
- 等
- ※教育相談や家庭との連携に活用を！



【第4章のポイント】

自らの学びを知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！
～子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立～

※取組の組み合わせについては、事例①(回)を参照。
実施①
 全職員が、成果、課題と分析結果を共有
 校内研修等で、全職員が、学力と学習及び生活の状況と分析結果を共有する。
 課題克服のために共通実践する手立てを確立し、授業改善や家庭学習に生かす。
 管理職が、学力向上対策の方向性について助言する。



例えば、県学力・学習状況調査を生かして

取組①
 新年度への確実な引継ぎ
 分析資料や復習プリント類を整理し、次年度担任へ引き継ぐ。
 新任等は、当該学年の分析資料や復習プリント類を新年度の学習に活用する。
 春休みの課題を確実に見取り、取組の状況を確認する。

【第5章のポイント】

自らの計画を立てて、自ら学ぶ熊本の子供たちに！
～家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進～

【重点1】学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するために！

夢・可能性に挑戦!

小学校(0～5歳)

- 読書(読み聞かせ)に親しむ
- 外で楽しく遊ぶ
- 家族の一員としてお手伝いする
- 早起き・朝ごはん
- 地域行事へ参加する
- 動物・植物を育てる

小学校(6～12歳)

- メディアをコントロールする
- 自分の体力や健康に関心をもって運動に挑戦する
- 地域に貢献する
- 自他の命を大切にす

中学校(13～15歳)

【重点2】家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

自らの計画を立てて学習できる子供を育成するために！

- 家庭学習のポイントやチェックリスト(例)の活用
- ・子供編、学校編、家庭編を作成



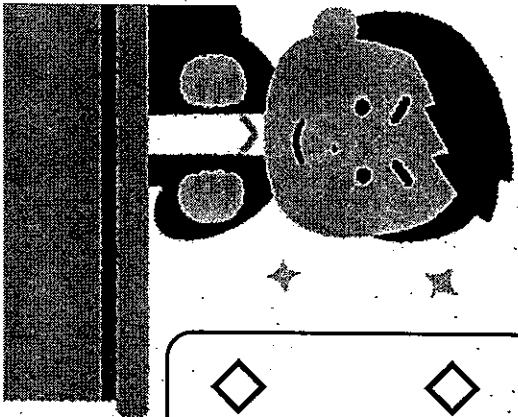
3

熊本の子供を、「学びの主体」として育てるために！
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

授業改善 演習の目的

- ◇改善のポイントの確認
 - 演習、学習構想案作成のポイント
- ◇改善することで得られる効果の理解
 - 演習、研修のまとめ・振り返り
- ◇各学校で、推進する意欲の向上

※研修の最後に振り返ります。



3

熊本の子供を、「学びの主体」として育てるために！
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

「熊本の学び」では、どのような授業づくりを目指すのですか？

なぜ、「熊本の学び」の授業づくりでは、「子供たちの学びの側」から考えるのですか？

「熊本の学び」における授業のポイントは何ですか？

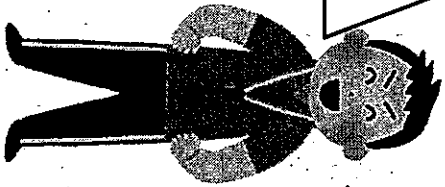
学習構想案では具体的にどのようなことを書けばいいのですか？

授業改善演習 演習題

放課後、経験年数の浅い先生から、学習構想案に関して次の質問を受けました。


先輩教師であるあなたは、その質問に対してアドバイスをします。次の条件に合わせてアドバイスの内容を作成しましょう。

【条件1】答えと納得できる(根拠のある)理由を書く。 「それはね、…だからだよ。」
【条件2】具体例を入れる。 「例えばね…。」

- 
- ①「子供の学びの側から学習を構想すると、子供たちにどんないいところがありますか？」
 - ②単元など内容や時間のまとまりで授業を構想すると、授業はどう変わりますか？
 - ③「単元終了時の子供の姿」や「期待される学びの姿」は、なぜ必要なのですか？
 - ④「本単元で働かせる見方・考え方」によって、子供たちの学びはどう変わりますか？

授業改善演習 ワーク

【条件1】答えと納得できる(根拠のある)理由を書く。 「それはね、…だからだよ。」
【条件2】具体例を入れる。 「例えばね…。」

- 
- ①「子供の学びの側から学習を構想すると、子供たちにどんないいところがありますか？」
 - ②単元など内容や時間のまとまりで授業を構想すると、授業はどう変わりますか？
 - ③「単元終了時の子供の姿」や「期待される学びの姿」は、なぜ必要なのですか？
 - ④「本単元で働かせる見方・考え方」によって、子供たちの学びはどう変わりますか？

自分の考え

グループの考え

「熊本の学び」の授業づくりで大切にしたい3項目

- 単元終了時の子供の姿
- 単元を通じた学習課題
- 本単元で働かせる見方・考え方

新学習指導要領から

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善のためには、単元など内容や時間のまとまりを見通して授業を構想すること

「熊本の学び推進プラン」から

子供たちが「学びの主人公」となる
(提言)期待される学びの姿

これまでの授業場面での振り返りから

学習をいくら工夫しても「活動あって学びなし」に陥ってはいけな
いそうならないために、「見方・考え方が必要
授業者が、単元を通して、子供たちが「見方・考え方」をどのよう
に働かせるかを考えることが重要

これらを1ページ目以示すことで、学習を構想した
姿が分かるようにしたい

学習指導要領改訂に向けて

○単元の目標及び評価規準の設定

国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1) 「知識及び技能」及び(2)「思考、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「〜できる。」として示す。
- (3) 「学びに向かう力、人間性」の目標については、いずれの単元においても当該単元の目標である「書意がもつ大きさを感じや考えを伝え合おうとする。」の部分を示す。
- 単元の評価規準は、次のように設定します。
- 「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の文末を「〜して示すこと」とする。「思考、判断、表現」は、「思考、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に指導する領域を「(領域名)」において、「〜と示し、文末を「〜して示すこと」とする。指導事項の一部を「主体的に自ら学習に取り組む態度」は、⑨⑩の2観点において重点とする内容⑩当該単元の具体的な学習活動の①から④の内容を全て含み、単元(や単元)の目標や学習内容等「単元(や単元)の姿」に明示する。

- ★「学びの場」を「単元の目標」に明示する
- 子供たちが単元を通して興味・関心をもち深く考えることができる学習課題ですか
 - 自分・考え方を動かして課題解決を図ることができるのですか
 - 子供たちが共有できる表現ですか
 - 単元のゴールの姿に迫るのですか

作品の魅力を推薦カードにまとめるという目標に取り組みむことを通して、「席のい」の作品の魅力を紹介していくことを通して、書き姿の例を示しています。

⑨「〜を」に、学習内容や指導事項に関する高さを示しています。

⑩「〜ように、言語活動を設定しています。」

熊本の子供を、「学びの主体」として育てる

子供たちがめめられる「読解力」を高めるためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構築しましょう。

小学校第6学年 国語科 学習構

単元名	熊本の魅力を推薦カードにまとめる
単元目標	1. 酒造りなど熊本の魅力を、熊本の歴史や文化を調べながら、自分たちなりに表現することができる。 2. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、自分たちなりに推薦文をまとめることができる。 3. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。
単元指導要領	3. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。 3. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。
単元指導要領解説	3. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。 3. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。

評価項目	1. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。 2. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。
評価規準	1. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。 2. 熊本の魅力を調べたことに基づいて、熊本の魅力を伝えることができる。

4 本時の学習
(1)目標達成カードにまとめるために、本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。

(2)展開

項目	時間	学習活動	評価項目	評価規準
導入	5分	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。
		2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。
		3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。
展開	30分	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。
総括	10分	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。	1. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 2. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。 3. 漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子を描写し、漢の姿を親したい気持ちから、漢のいちを大切にすることに繋げた本一の様子の移り変わりを観ることが出来る。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面で子供たちの姿と交わら「〜している(ようにしている)子供(児童生徒)が子供たちと共有できる表現になっていますか
- 単元を通して学習課題を解決するための見方・考え方がなっていますか
- 見方・考え方を動かされると深い学びになりますか
- 「〜するときに、実生活の場面を示しているか、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している高案を示しているか
- 「伝えようとする、実生活の場面でどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示している(ようにしている)か、日常生活で課題解決ができる(ようにしている)か

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

- 単元を通して学習課題を解決するための見方・考え方がなっていますか
- 見方・考え方を動かされると深い学びになりますか
- 「〜するときに、実生活の場面を示しているか、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している高案を示しているか
- 「伝えようとする、実生活の場面でどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示している(ようにしている)か、日常生活で課題解決ができる(ようにしている)か

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

- 単元を通して学習課題を解決するための見方・考え方がなっていますか
- 見方・考え方を動かされると深い学びになりますか
- 「〜するときに、実生活の場面を示しているか、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している高案を示しているか
- 「伝えようとする、実生活の場面でどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示している(ようにしている)か、日常生活で課題解決ができる(ようにしている)か

学習指導要領改訂に向けて

- ★「熊本の学びにおける授業づくりのポイント」から「チェエツウ」
 - 子供「おそろく」が生まれる導入の工夫はありますか
 - 子供「や」ってみよう「なるほど」が生まれる展開の工夫はありますか
 - 子供「分か」った「できた」も「や」ってみよう「おそろく」が生まれる終末の工夫はありますか
 - 期待される学びの姿には、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか

- ★「熊本の学びにおける授業づくりのポイント」から「チェエツウ」
 - 「本時の目標」「本単元の目標」は、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか
 - 「めあて」や「学習課題」は、評価する場面を適切に設定されていますか
 - 「めあて」や「学習課題」は、子供たちの主体的に学びに向かう姿を引き出すものとなっていますか
 - 「具体的評価規準」は、評価する場面を適切に設定されていますか

- Q&A
- Q 「熊本授業は引き継ぎ推進するのか。」
- A これまでの「熊本授業」の実践で構築されてきたことや成果を継承し、「熊本の授業」づくりの理念として大切に引き継ぎます。
- Q めあてや学習課題は必ず書かなければならないか。
- A 子供たちが主体的に学習に取り組めるようにすることが大切です。めあてや学習課題を何のために設定するのかを校内研究などで協議し、学校の実態に即して工夫・改善を重ねるようお願いいたします。
- Q 新たに「展開」などの項目を追加してもよいか。
- A 本様式はあくまで推薦モデルであり、大切にしたい3項目以外で、校内研究などで協議され、必要であれば追加させていただきます。
- Q まとめ、振り返りは必ず毎時位置置付けるべきか。
- A 必ず毎時位置置付けるものではなく、必要に応じて位置置けるようにしましょう。

3

熊本の子どもを、「学びの主体」として育てるために！
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

「熊本の学び」では、どのような授業づくりを目指すのですか？

推進プランP26

なぜ、「熊本の学び」の授業づくりでは、「子供たちの学びの側」から考えるのですか？

推進プランP3 提言2

「熊本の学び」における授業のポイントは何ですか？

推進プランP26、27

学習構想案では具体的にどのようなことを書けばいいのですか？

推進プランP45～50、別資料：作成のポイント

授業改善演習の目的

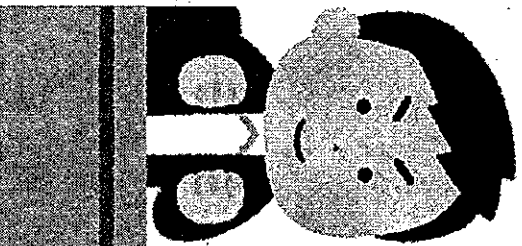
振り返り

◇改善のポイントは？

◇改善することで得られる効果は？

◇各学校で、推進する意欲の向上

学校に戻ったら、まず何から始めますか？



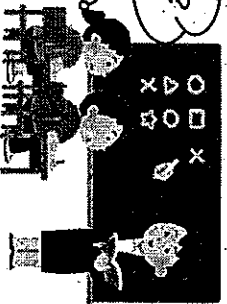
言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

例えば、小学校4年の教材「ごんぎつね」の登場人物の気持ちを考える学習では…

教材の冒頭で、登場人物の「ごんぎつね」について、「ごん」は「ひとりぼっちの小ぎつねで、(中略)あなをほって住んでいました」や「いたずらばかりする」ことが描写されています。そのうえで…

教員が「見方・考え方」を意識しないと…

どこから考えるのかな？
どうしたらいいの…



子供たちは、様々な見方・考え方で文章を読み、自分なりの考えで気持ちを想像していた。

例えば、「しゃがんで」の言葉に着目し、「ごん」の気持ちを考えている子供は…

子供の問い:「しゃがんで」に着目すると、どのような「ごん」の気持ちが考えられるかな…

ごんは、ひとりぼっちだからなあ。
さびしかったから、しゃがんでいたのかな？

主に登場人物の「状況(設定)」に着目して



「しゃがんでいいる」という言葉から、なんだか落ち込んでいいる感じがするな。
「すわっている」と「しゃがんでいいる」ではどう違うんだろう？

主に言葉の「使い分け」に着目して

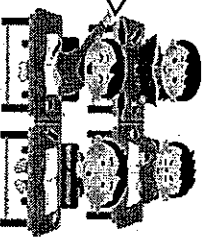
「ごん」の気持ち(さびしさ・不安・外に出たいなど)に迫っていく子供の学びの姿

例えば、授業の終末の「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

○「ごん」の行動・場面の様子(文脈)・人物の状況から、気持ち(や人物像)が分かったぞ。
○ほかの言葉から、気持ちを考えられないかな？

子供たちは、言葉による見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

本文を根拠に気持ちを考える
本文の「しゃがんで」から、「ごん」は、○○のような気持ちになっっていると思います。なぜなら…



めあてや学習課題、発問、指示などにより、子供たちが言葉に意識的に着目して、「ごん」の気持ちを考える姿を目指す。

ごんは、村にいたずらしによく出かけていたから、この場面では、早くいたずらしたいな…と考えていたのかな？

主に「文脈(展開)」に着目して



例えば、小学校3年「はたらく人とわたしたちのくらし」では…

なぜ、熊本のすいかは、日本一なのだろう？
農家の人たちの工夫や努力を調べて、熊本
サンプライズを探すくまモンに教えてあげよう。

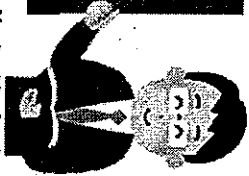
同じ事象に対してでも、子供たちは様々な見方・考え方を働かせることが分かります。



このすいかは、どの地域で作っているのかな。ビニールハウスの中で育てているから寒い地域なのかな。(空間的)



ハチが飛ぶ音だったけど、農家の人はビニールハウスの中に入って怖くないのかな。(相互関係)



すいかの実の横に、色分けした棒が立ってあるよ。何するのかな。(時間的・相互関係)

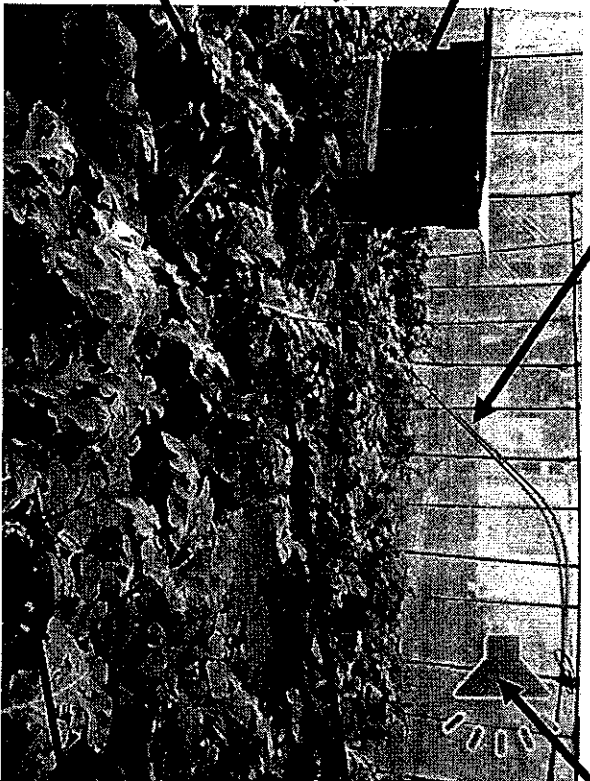
(相互関係)

この黒い箱は何かな。すいかづくりにどんな関係があるのかな。



(時間的)

葉も大きくて、よく育っているけど、すいかづくりを始めた時期は、いつかな。



このすいかは、小ぶりだけど、どのどんな人たちが食べるのかな。(空間的・相互関係)



社会的事象の見方・考え方(小学校)

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

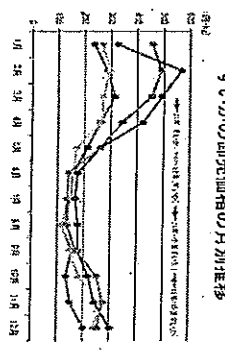
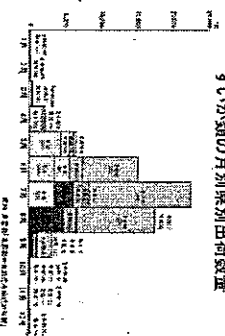
※参考【中学校】

- ・社会的事象を、一夜空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること(地理的分野)
- ・社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を員が営家などで関連付けること(歴史的分野)
- ・社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けれること(公民的分野)

「問い」が見方・考え方を働かせる方向を方向付ける

空間的	視点	問い
分布、地域、範囲 (位置や空間的な広がり)	どのような場所にあるかなど どのように広がっているかなど	なぜ始まったのか どのように変わったのか など
起源、変化、継承 (時期や時間の経過)		どのようなつながりがあるかなど なぜこのような協力が必要かなど
相互関係 (工夫、関わり、協力 事象や人々の相互関係)		

- ※ 教師が教材や資料を準備する際には、こうした視点や方法に基づいて、問いを意識することが大切です。
- ※ なお、問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものと考えられます。



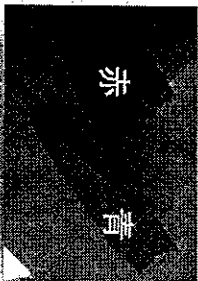
上の写真とともに、すいかの月別・果別出荷量や卸売価格の月別推移などの資料と関連付けて提示すると、更に見方・考え方が働きます。



事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

例えば、小学校6年「資料の調べ方」では…

どちらかを選んで、紙飛行機大会をします。



どちらの紙飛行機が長い距離を飛ぶか考えよう。

投げてみないと分からないな。

21m飛んでいる青の方が飛びそう。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

どちらの紙飛行機が飛びのかな。

子供が「見方・考え方」を働かせると…

資料の特徴や傾向に着目して、どちらの紙飛行機が飛ぶといえるか考えよう。

最長記録で比べると…。

平均で比べてみよう。

散らばり具合はどうか。

児童は、何に着目して、どのように考えるのかを意識しながら、問題解決に取り組んでいく。

例えば、**最大値、最小値、平均値、ちらばり具合等に着目した子供は…**

児童の問い：資料の特徴を調べてみると、どちらの紙飛行機が飛びそうだろう…

最長記録で比べると、青が26mで赤が22mだから、青が飛びそうだな。でも、最短記録では、青は5mで、赤が1.1mだから、赤が飛びのかな？ (最大値、最小値に着目して比べる)

ちらばり具合を調べてみると、赤は平均の近くに集まっているけど、青はバラバラで、範囲が広いな。(散らばり具合に着目して比べる)

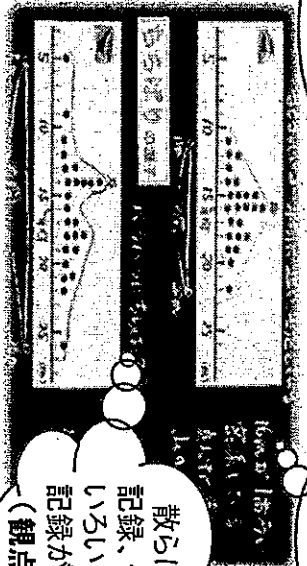
平均で比べると、どちらも同じだ。(既習事項(平均値)で比べる)

一番多く集まっている記録で比べると赤の方が飛びそうだな。(最頻値に着目して比べる)

赤の紙飛行機の結果

18	19	18	16	13
17	17	15	19	16
12	11	16	22	18
16	15	20	14	15
19	18	12	17	15

14	12	13	22	13
17	17	14	9	19
21	14	26	15	20
13	19	11	21	5
18	14	18	18	16



散らばり具合や最長・最短記録、一番多い記録など、いろいろ考えてみて、記録が安定した赤を選ぼう。(観点を整理する)

データの特徴や傾向(最大値、最小値、最頻値、平均値、ちらばり具合等)に着目し、見いだした特徴や傾向を基に、自分が選ぶ紙飛行機を判断していく児童の学びの姿

例えば、振り返りの場面で、自分の学びを振り返ってみると

「平均」だけでなく、最長記録や散らばり具合などで比べることで、資料の特徴や傾向が分かり、どちらの紙飛行機が飛ぶといえるか、自分で決めることができたぞ。他の資料についても調べてみたいな。

児童は、数学的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

前時の問題

例えば、中学校2年「連立方程式」では…

本時の問題

$$\begin{cases} 3x + y = 5 \\ x + y = 1 \end{cases}$$



$$\begin{cases} x + 2y = 4 \\ 4x + 3y = 7 \end{cases}$$

昨日習った問題だから、できるぞ。

今日の連立方程式は、昨日の問題と少し違うぞ。

連立方程式の解き方を考えよう。

子供が「見方・考え方」を働かせると…

文字の係数に着目して、等式の性質を利用して連立方程式の解き方を考えよう。

①+②をしても、
①-②をしても、
文字が消去できない。

どちらの文字も消去できないから、
解けないな。

昨日の式は、どちらかの文字の係数が同じだったから、すぐに解けたのか。

前時の問題と
比較する

どちらかの文字の係数を
同じにすれば、解けそうだな。

$\begin{cases} 3x + y = 5 \dots \textcircled{1} \\ x + y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$

$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots \textcircled{1} \\ 4x + 3y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

生徒たちは、何に着目して、どのように考えるのかを意識しながら、問題解決に取り組んでいく。

例えば、文字の係数に着目し、等式の性質や加減法を利用してしようとした生徒は…

生徒たちの問い: どちらかの文字を消去できないとき、どうやって解けばいいのだろうか…

昨日は、どちらかの文字の係数が同じだったから、その文字を消去すれば解けたんだ。じゃあ、係数を同じにすれば、解けそうだな。
(前時の問題と比較する)

今日の問題は、①を4倍すれば、xが消去できて、yだけの一次方程式になるね。

(係数に着目する)
(一次方程式に着目して考える)

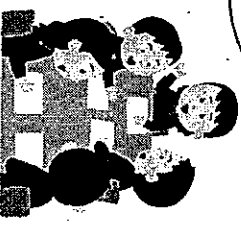
$$\begin{cases} 3x + y = 5 \dots \textcircled{1} \\ x + y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

前時との比較

$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots \textcircled{1} \\ 4x + 3y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

次の問題は、①を2倍、②を3倍すれば、xが消去できるね。どちらかの文字を消去するには、消去したい文字の係数に着目して、公倍数を見つければよさそうだな。
(前の問題と比較して考える)

$$\begin{cases} 3x - 4y = -15 \dots \textcircled{1} \\ 2x + 3y = 7 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$



文字の係数に着目し、等式の性質を利用しながら既習の解き方と関連付けて考え、自力解決していく生徒の学びの姿

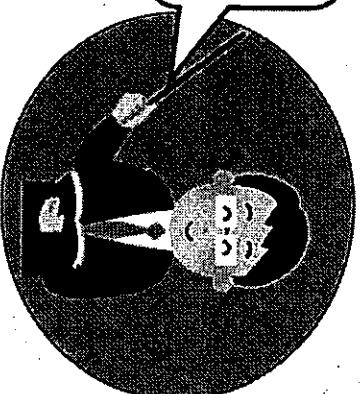
例えば、振り返りの場面で、自分の学びを振り返ってみると

文字の係数に着目し、今までの解き方と関連付けて考えると、いろんな問題が解決できるね。文字の係数が小数や分数になっても、同じような考えで解けるんじゃないかな。

生徒たちは、**数学的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。**

生活の中でいろいろなものを燃やすことがありますね。先日のキャンプで、すぐに、まきの火が消えてしまったのはどうしてでしょう。

●同じ事物・現象に対しても、子供たちは、さまざまな見方・考え方を働かせていることが分かります。



口から送る空気の量が少なかったからだよ。
(量的・関係付ける)

まきが湿っていたからじゃないのかな。乾いている方が…。
(質的・比較する)

山の上は、火がつきにくいんだよ。山頂ではお米がすぐに炊けなかったし…。
(空間的・多面的に考える)

まきとまきのすき間がなくて、酸素が届かないのかな。(実体的・関係付ける)

花火で使うロウソクに火をつけるとき、手をそえてつけたけど、それがなかったからだよ。(原因・関係付ける)

息は、うちわであおぐ空気と違うから…。
(質的・比較する)

燃えやすいまきがあると聞いたことがあるよ。木の種類で違いがあるんだよ。
(多様性・比較する)

●それぞれの子供たちがどのような見方・考え方を働かせているのか、教師側が見取れるようになることが大切です。
学習課題の設定や、課題解決をしていく探究の過程にも影響してきます。

まきが燃え続けるためにはどうしたらよいでしょうか。

※解決可能なもの、解決すべき課題への焦点化既習事項や生活経験による根拠ある予想を取り上げる

それでは、○さんと○○さんの発言を基にして、空気中の酸素の量の割合が燃えることにどのように関係するのか、考えていきましょう。



【理科の見方・考え方】

【見方】様々な事象等を捉える各教科ならではの視点

<それぞれの領域における特徴的な視点>

- ・エネルギー 主として量的・関係的な視点
- ・生命 主として多様性・共通性の視点
- ・粒子 主として質的・実体的な視点
- ・地球 主として空間的・空間的な視点

【考え方】例えば、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

※この「考え方」は、物事などのように考えていくのかということであり、質的・能力としての思考力や態度とは異なる。

- 小学校理科での【考え方】
- ・第3学年 比較する
 - ・第4学年 関係付ける
 - ・第5学年 条件を制御する
 - ・第6学年 多面的に考える

(量的・関係的、条件を制御する)

身近な人々、社会及び自然を自分との関りで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする



例えば、内容(2)家庭と生活の自分ができる家庭での仕事の実践発表会の場面では

教員が「見方・考え方」を意識しないと...

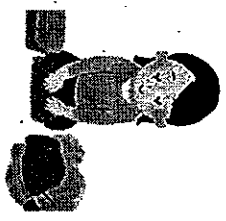
友達に家で頑張ったことを教えてもらいましょう。

上手に発表しているな。

家で頑張ったんだな



「100名」になるためのコツはどんなところだろう。
しわを伸ばしながら
たんんでいるな。
自分が頑張ったこと
をやってみせると
わかりやすいな。



子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを意識せず、聞いて、見て、考えていた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを意識して、発表を聞く(見る)ことができる。

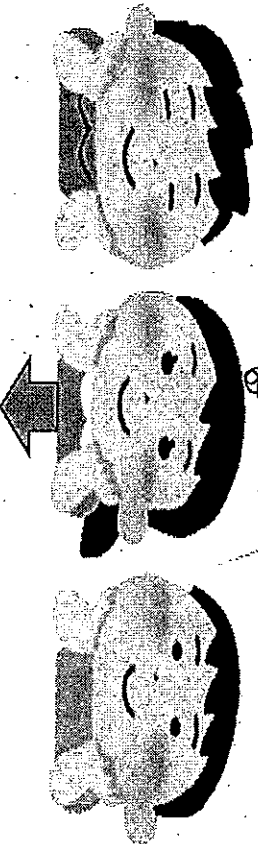
身近な生活に関わる見方・考え方とは...

子供たちの問い:「100がうまくできるようになるためのコツはなんだろう。」

「しわを伸ばしながらたんんでいるな。ほかにもコツがあるかな。コツを聞いてみようかな。」
(コツを発見することに着目して)

「ただむ順番がわかったぞ。ほくのたみ方と違うな。どちらがきれいにたためるかな。」
(コツを発見し、自分と比べている。)

「服のはしっこをそろえてたんんでいるな。私もやってみたいな。家でも役に立ちたいな。他に、コツはないかな。」
(自分との関わりを考えている)



友達の発表から「100のコツ」だけでなく
自分との関わりを考える子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

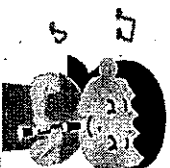
コツについて発見したことだけでなく、「自分もうまくやりたい。」「挑戦してみたい。」「家庭でも役に立ちたい。」等の意見が出てくる。

子供たちは、身近な生活に関わる見方・考え方をより意識して生かせるようになる。

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化(【中】生活や社会、伝統や文化)などに関連付けること

例えば、小学校4年の題材

「曲のとくちようをとらえて演奏しよう」
(「A表現」器楽)では...

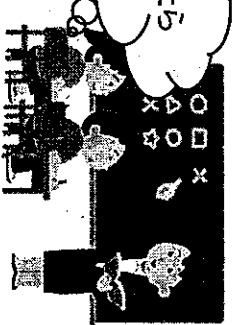


「エーデルワイス」の曲の特徴を捉え、
表現を工夫してリコーダーを演奏する。

教員が「見方・考え方」を意識しないと...

表現を工夫して演奏しよう

どのように工夫したら
いいのかな...

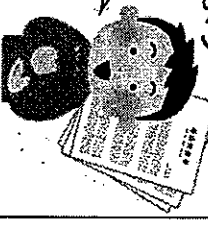


子供たちは、それぞれの見方・考え方で曲の特徴を捉え、漠然と表現を工夫していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

「エーデルワイス」の特徴を捉えて、
リコーダーの表現を工夫しよう

3段目のはじめは、リズム
が変わって、はずんだ感じに
なるな...



子供たちは、音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを捉え、どのように工夫したいかについて思いや意図をもつ。

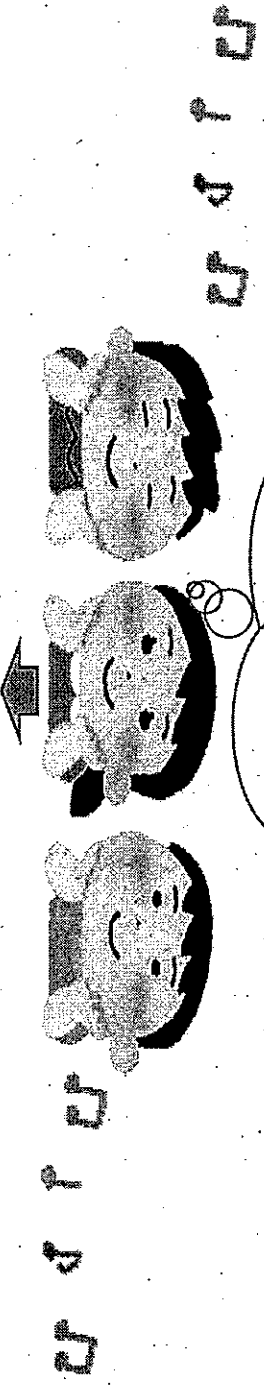
どのような音楽的な見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い: 「エーデルワイス」の特徴を表すにはどのように工夫して
リコーダーを演奏するといいいかな...

4小節で上がって下がる旋律が繰り返しているから、4小節のまとまりを大事にして、音と音をつなげるように吹こう。
(主に「旋律」に着目して)

2段目と4段目は旋律が同じだけど、4段目は終わりに向かうから、「ずつときれいに咲いてほしいな」という思いを込めて優しい音色で吹きたいな。
(主に「反復」「音色」に着目して)

3段目で(リズムが変わって)はずんだ感じに変わるから、2段目までと吹き方を変えて、音を短く切ってはつきりと吹きたいな。(主に「変化」「リズム」に着目して)



音楽を形づくっている要素とその働きに着目して楽曲を捉え、
表現したい思いや意図をもつ子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の表現の工夫を振り返ることで

音楽を形づくっている要素とその働きで音楽を捉えて工夫すると、「エーデルワイス」の曲想に合う演奏をすることができた。他の曲でも、同じように工夫して演奏したいな。

子供たちは、音楽的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、(【小】形や色などの)造形的な視点で捉え、(【小】自分のイメージをもちながら)(【中】自分としての)意味や価値をつくりだすこと

例えば、中学校2年生の題材「情報をわかりやすく伝えよう(ピクトグラムをつくらう)」では...

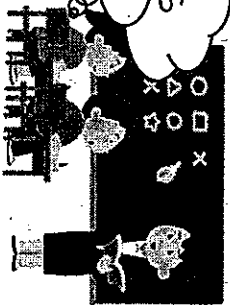


伝えようとする情報を文字に代わって視覚的な図で表現する。

教師が「見方・考え方」を意識しないと...

伝えたい内容を多くの人にわかりやすく伝えることを考えて構想しよう

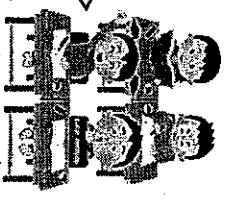
どのように工夫したらいいのかな...



子供が「見方・考え方」を働かせると...

図籍や年齢を問わず、伝えたい内容が一目でわかり、形や色彩が見る側にとどのようなイメージや効果をもたらすかを考えて表現しよう。

実際の形よりも単純化した形にした方が伝わるかも...
さわやかな配色にすれば、より印象深く効果的に見る人に伝わるかも...



子供たちは、これまでの経験を基に、それぞれの見方・考え方で、図を考え、配色していた。

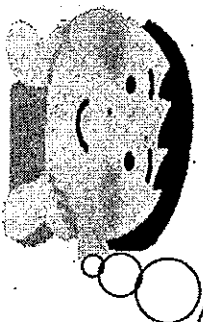
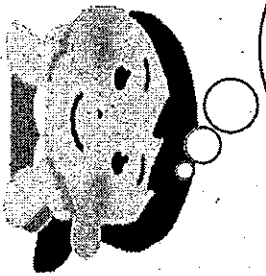
子供たちは、伝える相手や内容、設置場所、社会との関わりなどから工夫して考える。

どのような美術的な見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い: 伝えたい内容を一目で印象深く伝えるには、形や色彩をどのように表現するといいいかな...

実際の形よりも単純化した形にした方が伝わると思う。
角をまるくした方がやさしいイメージになりそうだ。
(主に「形」に着目して)

さわやかな配色にすれば、やさしい印象に伝わるだろう。
色の面積も、見る人の印象に大きく影響しそうだなあ。
設置する場所、情報に合う色はどんな色がいいかな。
(主に「色彩」に着目して)



見る人にただ単に伝えるだけでなく、見る人が抱く印象や感情などの心の動きを考えながら、発想や構想を繰り返していく子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

見る側の視点で図案を発想することで、より印象深く伝わるような図案ができたぞ。
実際に、街のどこかで使ってほしい! そのためには、どうしたらいいのかな。先生に相談しよう!
他の図案も考えてみたいな。

子供たちは、美術的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

生活や社会における事象を、技術との関わりでの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること

例えば、「A材料と加工の技術」
技術による問題の解消では...

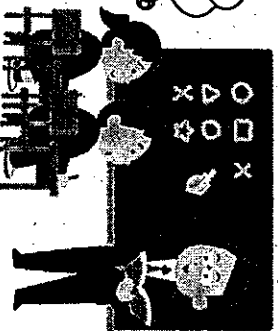


製作品を作り上げることや
道具等の使い方の習得が
重要視されました。

教師が「見方・考え方」を意識しないと...

問題を発見し、課題を設定し、
ものづくりで解決しよう

上手に作れるかな？
何を作ろうかな？



子供が「見方・考え方」を意識すると...

問題を発見し、課題を設定し、機能性、生産
効率、安全性、環境への負荷、経済性等に着
目してものづくりで解決しよう。

経済面と環境面を両立させたいな...

子供たちは、様々な視点から多面的に課題の解決
法を考え最適解を見いだそうとする。



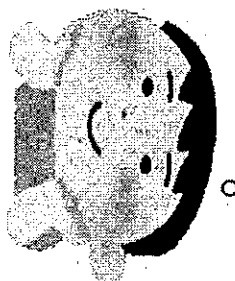
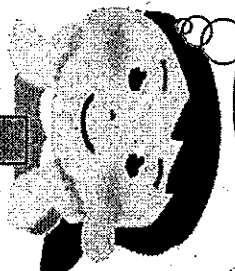
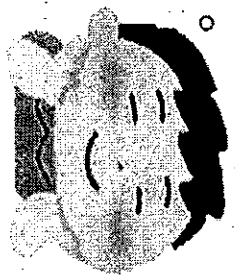
どのような技術の見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い:どんな点に気を付けながら、解決策を考えていけば
最もよい課題の解決法になるだろう。

とても丈夫で使いやすいものを作りたいけれ
ど、材料費はできるだけ安くできないかな。
【社会からの要求(機能性)と経済性
の比較】

見た目が格好しいものを作りたいけれど、あ
まり時間が無いから、作りやすさも重要だな。
どうすれば、作りやすくなるだろう。
【社会からの要求同士(デザインと作業性
の比較)】

ずっと使い続けるものを作りたいけれど、
もし捨てる時には、簡単に捨てたいな。
そのために、気を付けることは何だろう。
【社会からの要求(丈夫さ)と環境負荷
との比較】



課題の解決法について様々な視点や側面からものづくりを捉え、
自分の考えに沿った最適な解決法を計画することができると子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、他の生徒の考えに触れ、自分の考えや設計・製作品を振り返ることで
そうか！そんな解決法(視点)もあったんだな。真似してみたいな。
今度、他の問題も「ものづくり」で解決してみよう。

子供たちは、技術の見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること



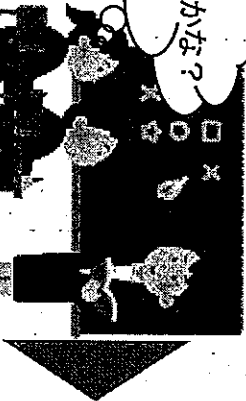
例えば、「地域の食文化と和食の調理」では…



教員が「見方・考え方」を意識しないと…

地域の食材を生かして和食の調理をしよう

調理実習ができるのかな？
何を作るのかな…

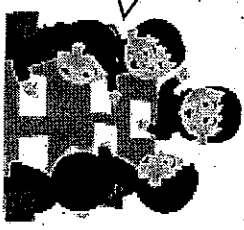


子供たちは、「調理をする」ということだけを考えていた。

子供が「見方・考え方」を働かせると…

地域の食材や食文化の特徴を踏まえ、和食作りを工夫しよう

地域の食材を生かすために、
農家の方に話を聞いてみたい
です。



子供たちは、食材を調理しておいしく食べることでなく、地域でとれた食材を利用することの意味を考えようとする。

どのような生活の営みに係る見方・考え方をしているのか…

子供たちの問い：地域の食材を生かすとはどういうことだろう。

地域の食材は生産者と消費者の距離が近いから、より新鮮なものが食べられるし、生産過程も確かめられるね。環境への負荷も少ないね。地域の食材を買うことで、地域の生産者の方々に応援することになるんだ。
〔健康・快適・安全〕、
〔持続可能な社会の構築〕の視点

家族や近所の高齢者の方に地域のおすすめ
の食材について聞いてみたよ。今度は郷
土料理の作り方を教えてもらおう。
〔協力・協働〕の視点

自分の住んでいる地域や日本の各地でその
地域の食文化があることがわかったよ。私たち
の食生活に生かしていきたいね。
〔生活文化の継承・創造〕の視点



「和食の調理」(調理技術や栄養価)だけでなく、
食事には文化を伝える役割があることを理解し、
持続可能な食生活を目指して課題解決に向かう子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

地域で生産される食材には、私の知らないものもあったな。
地域の方々の取組や私たちの工夫をいかして、地域の食文化を受け継いでいきたいな。

子供たちは、生活の営みに係る見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

(例) 第1学年及び第2学年
球技 ゴール型 サッカー



ゴール前の攻防を練習や
ゲームで取り組む中で...

教員が見方・考え方を意識しないと...

ボールが来てもどうしたら
いいか分からない...

どこに動いたらいい
のかわからない...



子供たちは、漠然とボールが来たらボール操作をするといった意識で活動していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

例:ゴール前での攻め方について、パスをもらってシュートをするためには、ボールを持たない時にどう動いたらいいか、仲間と考えながら2人対1人で練習しよう。守備者の後ろに走り込んだらよさそうだな。これまでは止まって待っていたことが多かったな。



子供たちは、自分の課題に気付いて解決に向け、仲間と協力して活動したり、学んだことを次に生かしたりしながら自分に合った多様な関わり方をして活動する。

例えば「球技 ゴール型 サッカー」ではどのような見方・考え方をしなければいいのか。

運動の楽しさや喜びを感じる

・負けたけどいっぱい汗をかいたし、チームで協力できたから楽しかった。
・ねらったところにパスができたし、攻め方も分かったから嬉しかった。

「する」

・ボールを持たない時に空いたスペースや守備者を意識して動くことができた。
・話し合う中で、自分たちのつまずきに気付いて練習することができた。
・ゲームでは、作戦を生かして友達と協力できた。
・よいところを友だちに伝えられたからよかった。

「見る」

・〇〇君は、顔を上げて空いたところを探している。僕も真似しよう。
・ちゃんと動きができていないか、タグリットで確認しよう。
・練習したことが生かされているか、ゲームをお互いにチェックしよう。
・今度からサッカーの番組を見てみよう。

考え方

見方

関連して高まる体力を知る

・授業を重ねる中で、スピードや敏捷性、それに全身持久力がついてきたようだ。
・ボールタッチも柔らかくなってきたから巧緻性も高まってきたな。

「支える」

・みんなができるようにアドバイしたり、動き方を教えたりすることができた。
・〇〇君が審判をするなら、僕は得点係をするね。
・△△君もできるように、～して練習しよう。
・□□さんは相手チームだけど、素晴らしいプレーだったね。

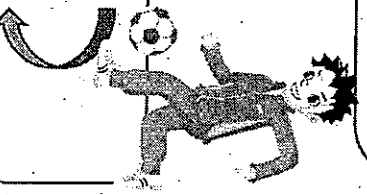
「知る」

・空いたスペースに走りこんだらフリーでシュートが打てることが分かった。
・守備者がいないところを見つけて走りこめばいいことが分かった。
・ゴール前での攻防の仕方が分かった。
・自分たちに合ったルールや練習の工夫の仕方が分かった。

運動の楽しさに触れ、体力向上とのつながりに着目しながら
自己の適性に応じて、「する」みる」支える」知る」といった
運動やスポーツとの多様な関わり方について考える子供の学びの姿

休みの日や休み時間に、みんなでサッカーをして遊ぼうかな。他の球技もしてみようかな。
リーグの試合をテレビで見よう。地元である大会も見に行ってみようかな。

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現



「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に依りて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」
(中学校学習指導要領より)

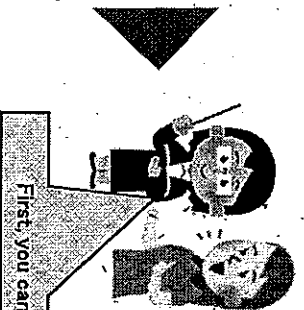
◎例えば、熊本について紹介する場面では・・・「話すこと 〔発表〕」

教員が「見方・考え方」を意識しないと・・・

子供が「見方・考え方」を働かせると・・・

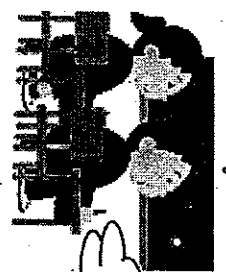
熊本の紹介は次のようになります。
I'm going to tell you about Kumamoto.
Kumamoto is famous for ~
It's ~
I like it very much.
I hope you'll like it, too.

～に、何を入れようかな。



Today, let's tell Ms. Green about Kumamoto.
I've just come to Kumamoto, so I don't know very much about it.
Please tell me what Kumamoto is famous for.
First, you can ask some questions.

覚えられるかな・・・



グリーン先生の趣味は何かな。
「学校紹介」の経験が生かせそう。



◎例えば、熊本について紹介する場面では、どのような「見方・考え方」をしているのか・・・

子供たちの問い：どうやったら相手にわかりやすく興味をもって聞いてもらえるか？

～特定の話題について～

※情報を整理し、考えを形成、再構築

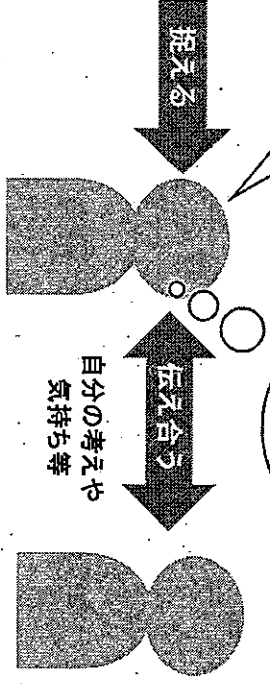
ここで働く「見方・考え方①」

ここで働く「見方・考え方②」

目的・場面・状況に応じて
・伝えたい「内容」※
・伝えるための「英語表現」

活動前にトピックや目的を示しますが、英語でどう表現すればよいかは示しません。

外国語
言語の背景にある文化



まずは取り組ませ、その後英語でどのように表現するかを考えさせます。気付きの体験を多く積みまします。

【自分自身の考えや思いを主体的に表現しようになるために大切なこと】

- ①教員が自身の思いを英語で表現すること
→感情豊かに英語で話し、そのことについて子供とやり取りしましょう。
- ②内容を大切にすること
→子供が表現した内容を受け止め、共感したり驚いたり、一緒に笑ったりしましょう。

「見方・考え方を働かせる」授業改善の視点

- ①場面や状況を工夫し、文脈の中で外国語を捉えさせる。
- ②相手の状況を踏まえ、伝えたい「内容」とそれを伝えるための「英語表現」の双方を考えさせる。

道徳科における「見方・考え方」は、道徳科の目標に示された学習活動「様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方について考えること（※括弧内は中学校）」のことです。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となります。道徳科における「見方・考え方」を働かせるとは、教師にしてみれば、そのような学習過程を大切にた指導の工夫をすることであり、子供にしてみれば、そのような学習活動を行うこととなります。

道徳教育

道徳科における「見方・考え方」を働かせている状況

道徳的諸価値の理解を基に…

道徳的価値の理解に当たっては、3つの理解を深めることが大切です。
 ○人間としてよく生きる上で大切なことである理解すること（価値理解）
 ○道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること（人間理解）
 ○道徳的価値を表現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ（他者理解）等

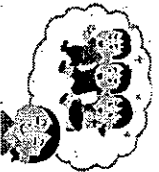
自己を見つめる
（自分との関わりで考える）

【これまでの道徳の時間の課題】
 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導



【学習活動の工夫例】

・授業の導入、展開、終末で、子供たちが日常生活の経験や学校における共通体験を想起できる工夫を行う。
 ・読み物教材等の登場人物の気持ちに共感することにより、読み物教材から表現できるような発問を工夫する。 など



自己の人間としての生き方について考える

【学習活動の工夫例】
 ・授業の中で、子供がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもたせられるような時間と場を確保する。
 ・学習過程や成果などの記録を集積し、学習状況を自ら把握し振り返ることができるように工夫する。 など

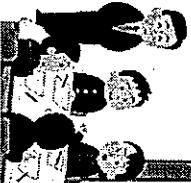
多面的・多角的に考える

【これまでの道徳の時間の課題】
 特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを概念的に理解させたりする学習に終始する指導



【学習活動の工夫例】

・ペアやグループでの話し合い活動で交流することを通して、子供同士の対話を促す。
 ・教師はもちろんです、保護者、地域住民、専門家等に授業に参加してもらい、人との対話を促す。
 ・教材を通じて先人の考え方や思いに触れる。 など



各教科・外国語活動
 補充・深化・統合

道徳科
 補充・深化・統合

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

目的

※道徳性とは、人間としてよりよい生き方を目指して行われる道徳的な行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの

【道徳性を構成する諸様相】

- ・道徳的判断力 …… それぞれの場面で善悪を判断する能力
- ・道徳的心情 …… 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的実践意欲 …… 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
- ・道徳的態度 …… 道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

※ 道徳的諸様相には、特に序列や段階はなく、一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出てくるであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味します。



探究的な見方・考え方を働かせるとは

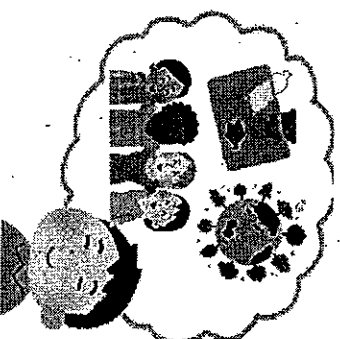
探究的な見方・考え方の2つの要素

- 各教科等における見方・考え方

例えば、

- ・言葉による見方・考え方を働かせること
(対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直ししたりして、言葉への自覚を高めること)
- ・数学的な見方・考え方を働かせること
(対象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統一的・発展的に考えること)
- ・理科の見方・考え方を働かせること
(自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係など科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること)

※ 教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が、総合的に活用されたり、繰り返し活用されたりすることが考えられる。



- 総合的な学習の時間に固有な見方・考え方

- ・特定の教科の視点だけでは捉えきれない広範な対象を、多様な角度から俯瞰して捉える。
- ・実社会・実生活の中の課題の探究を通して、自己の生き方を問い続ける。

例えば、環境問題に関する学習場面において、
どのような探究的な見方・考え方ができるだろうか……

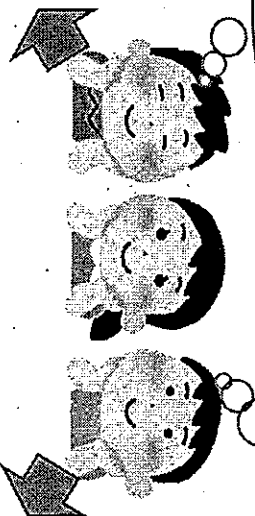
「酸性」は、ものを溶かしていたから、
森林にも影響があるのではないかな。
(理科の見方・考え方を働かせて)

人々が排出する車の排気ガスや工場からの
煙が増えたから、枯らしているのではないかな。
(社会の見方・考え方を働かせて)

探究課題：酸性雨による森林減少を食い
止めることはできるのだろうか……

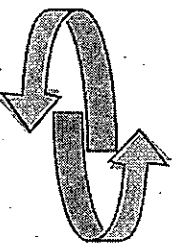
人が住んでいないような所も、森林
が減少しているのだろうか。酸性雨の
原因は、どんなことが考えられるかな。
(総合的な学習の時間に固有な見方・
考え方を働かせて)

物事を俯瞰して捉えたり、
自己の生き方を問い続け
たりする子供の学びの姿



扱う対象や解決しようとする方
向性などに応じて、教科等の特
質に応じた視点や捉え方を意識
的に活用する子供の学びの姿

各教科等の特質に応じた見方・考
え方を総合的な学習の時間で総合
的・統合的に活用



教科等の学習と、横断的・総合的な学習との往還

子供たちが 探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習
に取り組むことで、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための
資質・能力を育成することにつながる。

特別活動

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるとは

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」とは・・・

- ◇特別活動の特質が、学級・学校生活における課題を見いだし、解決に向けて取り組む実践的な活動であるということ
- ◇特別活動と各教科等とが往還的な関係にあり、各教科等における「見方・考え方」を働かせて各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践すること

を踏まえたもの

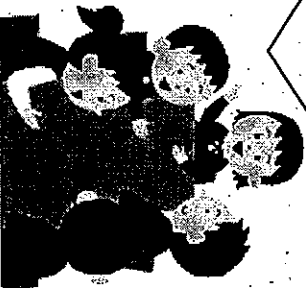
「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということとは・・・

- ◇子供たちが各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること

例えば、学級活動(1)に沿って、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることについて考えてみると・・・

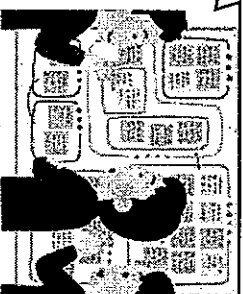
必要感のある議題の選定

◇提案者の思いや願いをしっかりと踏まえ、学級生活の充実や向上のために、計画委員会において、「話し合う必要性が高いものか」「学級全員で話し合うべき内容であり、学級全員で協力して解決できるものか」「自分たちで解決できる問題か」などの視点で整理し、望ましい議題を選定したり、決定したりする



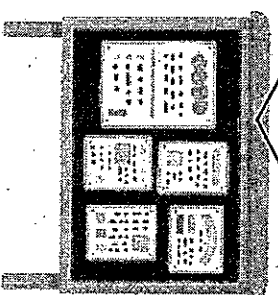
意見の可視化・操作化・構造化

◇よりよい合意形成のために、短冊を活用して意見を分類・整理したり、短冊の色を変えて意見の内容を捉えやすくしたりする



自分の考えを持たせる手立て

◇事前に「議題」「提案理由」「話し合うこと」「決まっていること」などを学級会コーナーに掲示して話し合いの全体的なイメージをもたせ、学級全員で共通理解を図ることができるようになるとともに、一人一人が議題について学級会ノートに自分の考えを書くようにする



このような実践を積み重ねること・・・



集団や社会をよりよく形成する人間を育むことにつながる

学習構想案作成のポイント（本時）

Q&A

Q 「めあて」と「学習課題」とは何か。

A 「めあて」は、目標やねらいを子供たちと共有できるように示すものです。「学習課題」は、目標の達成に向けて子供たちが解決する課題として示すものです。（※推進プランP30参照）教科によっては、「めあて」の中に「〇〇は必要なのかについて考えよう」のように、課題を含めた設定も見受けられます。

Q めあてと学習課題は必ず両方書かなければならないか。

A 必ず両方書かなければならないというわけではありません。大切なのは、子供たちが、目的意識や意欲を持って主体的に学習に取り組めるようにすることです。そのためには、板書等で明示することは一つの手立てとなります。「めあて」や「学習課題」の名称についても教科等の特質に応じて「ねらい」「活動目標」「Today's Goal」などにしても構いません。何のために設定するのかを校内研究などで協議し、校内で共通理解のうえ、児童生徒の実態に応じて工夫・改善を重ねていきましょう。

Q 新たに「発問」などの項目を追加してもよいか。

A 本様式はあくまで推奨モデルです。大切にしたい3項目以外で、校内研究などで議論され、必要であれば追加されて構いません。

Q まとめ・振り返りは必ず毎時間位置付けるべきか。

A 必ず毎時間位置付けるものではなく、必要に応じて位置付けるようにします。

4. 本時の学習

(1)目標 推薦カードにまとめるために、太一の様子描写について着目し、瀬の主を殺したい気持ちから、海のいのちを大切にすることに変わった太一の心情の移り変わりを読むことができる。

(2)展開

過程	時間	学習活動 (＜予想される児童の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ。 ①表現の工夫の意図など、これまでの作者の書きぶりを振り返る。 ◇これまでの色彩描写により登場人物の様子を詳しく取りまわす学習をした。	○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。
		【めあて】太一の様子を表した描写から、太一の心情の移り変わりを読もう。 ◇「めあて」の書きぶりを振り返る。 ◇どうして、ここだけに太一の表情が書かれているのだろう。	【問い】書きぶりを手立て。 ○出場の場面の太一の描写について、挿絵を基にどのような表情なのかを問う。
展開	30分	【学習課題】 太一の表情の変化によって、太一の心情はどのように移り変わったのだろう。	【見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け】 ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉の理解について、近隣の児童同士で確認する。
		2 課題の解決に向けて活動する。 ①自身の考えをもつ。 ◇表情が「泣きそう」から「えがお」に変わっているから、最後は心情が変わっているようだ。 ②他者との対話により、考えをまとめる。 ◇「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きっと太一は、ここで「海の命」を守ることに本当に気付くことができると思う。 ◇「作った」ということは、さっきの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。	【課題解決に向けた見通しを持つ手立て】 ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉を取り出し、それぞれにどのような心情が表されているのかについて自分の考えを書くようにし、移り変わりを捉えやすくする。
終末	10分	【期待される学びの姿】 太一の表情の描写に着目し、表情の変化に沿って、海のいのちを大切にしようとして移り変わる心情を想像している。	【到達していない児童への手立て】 ○場面最初と最後の心情の違いを確かめ、場面の途中でどのような心情になったのかを個別に問い、考えを確かめていく。
		3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。 【まとめ】太一の心情は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て)海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。	○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。

★「熊本の学び」における授業づくりのポイントからのチェック

子供の「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫はありますか

子供の「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫はありますか

子供の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫はありますか

【期待される学びの姿】には、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか

★これまでも大切にされてきた授業づくりのポイントからのチェック

「本時の目標」「めあて」「具体の評価規準」の整合性は図られていますか

小学校国語の例

目標→心情の移り変わりを読むこと
めあて→心情の移り変わりを読もう
学習課題→どのように移り変わったのか
具体の評価規準→心情の移り変わりを捉えているまとめ→「敵を討ちたいから、いのちを大切にしように変わった」
振り返り→心情の移り変わりを読むための学習活動を振り返る

めあてや学習課題は、子供たちの主体的に学ぶに向かう姿を引き出すものとなっていますか

「具体の評価規準」は、評価する場面を適切に設定されていますか

※「まとめ」「振り返り」の場が設定された場合

「めあて」や「学習課題」に対応した「まとめ」となっていますか

何をどのようにふりかえるのが、ねらいをもった「振り返り」となっていますか

○単元の目標及び評価規準の設定

国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつよさを～思いや考えを伝え合おうとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。

◆「思考・判断・表現」は、「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に指導する領域を「(領域名)において、」と示し、文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、<①粘り強さ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容④当該単元の具体的な言語活動>の①から④の内容を全て含め、単元(や題材)の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

作品の魅力を推薦カードにまとめるという課題に取り組むことを通して、「海のいのち」の作品の魅力を見つけていくことを狙って、書き表した例

①「～を」に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。

②「～しよう」に、言語活動を設定しています。
※学習指導要領解説の言語活動例の活用も考えらえる。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 国語科 学習構想案

1 単元構想

単元名	作品の魅力を推薦カードに書いて伝えよう「海のいのち」(発行著者「数研教育」p.39-40)		
単元の目標	(1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 (2) 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。		
単元の評価規準	知識・技能 ①語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ②比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。	思考・判断・表現 ①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(オ)	主体的に学習に取り組む態度 ①進んで登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、考えたことを推薦カードにまとめようとしている。

単元終了時の児童の姿

⑦ 物語を読むときに表現の工夫など、言葉に着目して場面の様子や心情の変化を読み、作品の魅力を伝えようとする児童

単元を通じた学習課題
 「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合う。
 本単元で働かせる見方・考え方
 登場人物の行動や会話、情景描写などの言葉に着目し、心情を考えることを通して言葉への自覚を高めること。

指導計画と評価計画(10時間取扱い、本時7/10)

単元	時間	学習活動	評価の観点等
一	20	○ 作品の魅力を推薦カードに書く体験を通して、推薦する言語活動を行うために必要な学習について見通しをもつ。 ○ 単元の学習計画を立て、物語の構成や内容を確かめる。	【意①】(ワークシート) 【意②】(ノート)
二	60	○ 父の人物像から、太一の心情を読む。 ○ 与吉いぶりの人物像から太一の心情を読む。 ○ 母の会話から太一の心情を読む。 ○ ケエの描写から太一の心情を読む。 ○ 太一の表情の描写から太一の心情の読み取りについて読む。(本時) ○ あと語り場の効果について読む。	★【意①】(ノート) ○ 地の文にある色彩表現、会話文にある比喩などの表現の工夫に気づいている。 ★【意②】(ノート) ○ 登場人物の行動や情景を描写した語句の工夫や変化について理解している。 ★【意③】(ノート・発言) ○ 太一自身やほかの登場人物の描写などから、人物相互の関係や太一の心情を捉えている。 【意④】(ノート・発言)
三	20	○ 作品の魅力を伝える推薦カードを書き、相手の求めに応じた推薦カードを紹介し合う。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。	★【意①】(ワークシート) ○ 読んで理解したことを基に、自分の考えを推薦カードにまとめている。 ★【意②】(ノート) ○ 描写を基に、登場人物の関係や心情についての自分の考えを、進んで推薦カードにまとめようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は読書生活)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～するとき」に、実生活の場面を示しています。
- ①「～を読む」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ②「伝えようとする」に、実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「日常で読書談義ができる」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ①「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
(※国語の場合は、言葉への着目)
- ②「～する」に当たる文言に、どのように考えるのか(この場合は、心情を考えることを通して)に関する内容を示しています。
(※国語の場合は、言葉への自覚を高めること)

○単元の目標及び評価規準の設定

社会科の場合、学習指導要領における「内容のまとまり」を「単元」と置き換えることが可能です。そのため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとまり＝単元」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができます。

単元の目標は、このように3つの柱で示して設定します。ただし、単元の目標は、箇条書きにせず、一文で示されることもあります。

解説には、内容のまとまりごとに単元の目標が示されているので、しっかり読み込みましょう。

「知識及び技能」：下線部②
「思考力、判断力、表現力等」：下線部③
「学びに向かう力、人間性等」：下線部④

単元の評価規準は、次のように設定します。
※(A)を「内容のまとまり」における学習の対象に置き換えて作成する。

◆「知識」は、「2内容」の「知識」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～を理解している」とする。

「技能」は、「2内容」の「技能」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～調べたりして、まとめている」とする。

◆「思考・判断・表現」は、「2内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～着目して、～を捉え、～考え、～表現している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「2内容」の「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項に示されていないことから、学年目標や観点の趣旨を基に評価規準を設定する。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第3学年 社会 学習構想案
1 単元構想

単元名	「はたらく人とわたしたちの暮らし」		
単元の目標	(1) スーパーマーケットやコンビニエンスストアの仕事について、販売の仕方や他地域との関わり、他地域や外国との関わりなどを調べ、販売に携わる人々は、消費者の願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して販売していることを理解することができる。⑦ (2) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を探え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。① (3) 主体的に学習課題を追究し、解決しようとする態度を養う。⑧		
単元の評価規準	①販売の仕事は、消費者の多様な願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりについて、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ②販売の仕事と消費者の願いを関連付けて販売の仕事に見られる工夫を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追究し、主体的に問題解決しようとしている。 ②地域の人々の販売の仕事と、自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。

単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)
販売に関わる仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるように工夫して行われていることを理解し、買い物をするとときなど地域の消費者の一人として社会を見ようとする児童。⑧

単元を通した学習課題
地域のお店ではたらく人の仕事の様子や工夫を調べ、仕事とわたしたちの生活とのつながりを考えよう。
本単元で働かせる見方・考え方
販売の仕事に携わる人々と消費者との相互関係に着目して、販売の工夫について比較・分類したり、地域の人々の生活と関係付けたりすること。④

指導計画と評価計画(1.3時間取扱い 本時2コマ/1.3)

単元	時間	学習活動	評価の観点等 ※1)知識・技能・思考力・判断力・表現力等(2)主体的に学習に取り組む態度
課題発見	3	○家庭の買い物調べの結果から買い物の様子について話し合い、単元の学習課題を立てる。 ○買い物の経験や店内のイラストから、スーパーマーケットではどんな販売の工夫が見られるかを予想し、スーパーマーケット見学の計画を立てる。	【思-①】(方法:発音・ワークシート) ★【能-①】(方法:発音・ワークシート) ○学習課題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持つようとしている。
	8	○発表、働く人、販売の工夫の3つの視点に分かれ、スーパーマーケットを見学、調査したり、店員やお客さんにインタビューしたりして、販売の工夫等について調べる。 ○それぞれのグループで、見学、調査したことやインタビューしたことをまとめ、発表する。 ○スーパーマーケットについて、販売に携わっている人々の仕事の様子を探え、それらの仕事に見られる工夫をまとめる。	【知-①】(方法:観察・ワークシート) ★【知-②】(方法:発音・ワークシート) ○調べたことを、適切な写真や資料を使って、相手に伝わりやすいようにまとめている。 【思-②】(方法:発音・ワークシート)
新たな学習課題	2	○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について考える。【本時】 ○コンビニエンスストアの店長にインタビューすることを通して、実際に取り組まれている販売の仕方などの工夫について話し合う。	★【思-②】(方法:発音・ワークシート) ○買い物の経験やスーパーマーケット、資料などを参考にしながら、コンビニエンスストアを利用しやすい理由について考えている。 ★【能-②】(方法:発音・ワークシート) ○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について、既習事項や生活経験を生かし、意図的に質問したり発表したりして、コンビニエンスストアにおける販売の工夫を考え、自分の言葉で表現しようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有したい場合、できる表現になっていますか

小学校の社会科は、社会のしくみを「多角的」に考察することが必要。「生産者」と「販売者」の工夫を追究する際も、社会で生きる「消費者」の立場で社会的現象を捉え、自らの日常生活の中にどのように生かしていくかを想定して設定した例

- ⑤「～を理解し」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑥「見ようとする」に、実生活の場面でのどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています。(この場合は、「消費者として社会を見ようとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

※ 単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑦「～に着目して」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
- ⑧「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。

★「単元を通した学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

※ 身近な地域にあるお店で働く人の仕事の様子や工夫を追究するとともに、販売に携わる人たちの仕事と自分たちの生活とのつながりを考えられるように設定した例

○単元の目標及び評価規準の設定

算数科・数学科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)「知識及び技能」の目標については、基本的に学年目標の該当単元に関する部分の文末を「～できる」「～を身に付ける」と示す。

(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に学年目標の該当単元に関する部分の文末を「～できる。」として示す。

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「数学的活動の楽しさや～とする態度を養う」の部分を示す。

※単元の「内容のまとめ」を踏まえた記述も可

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆「知識・技能」は、単元の「内容のまとめ」[知識及び技能]の文末を「～している」「～できる」とする。「内容のまとめ」の説明部分等を加えて示すこともある。

◆「思考・判断・表現」は、単元の「内容のまとめ」[思考力、判断力、表現力等]の文末を「～している」「～できる」とする。「内容のまとめ」の説明部分等を加えて示すこともある。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、＜①粘り強さ、②自らの学習の調整、③他の2観点において重点とする内容、④当該単元の具体的な数学的活動＞の①から④の内容を含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

※算数科の場合、「内容のまとめ」をそのまま単元とするには適さない場合があることに注意する。

★「単元の中心的な学習課題」のポイント

□「単元終了時の生徒の姿」に迫るような具体的な課題(問題)になっていますか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

※「単元を通した学習課題」として示す場合は、子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題になっていますか

2種類の食材を使って副菜を作るとき、条件に合うような食材を連立方程式を用いて的確に求めていくことをねらって、書き表した例

※「単元の中心的な学習課題」を設定する場合は、教科書や果学力・学習状況調査問題等を参考に設定する。

※「単元を通した学習課題」を設定する場合は、単元全体に関わる学習活動(課題)を設定する。(小学校構想案を参照)

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第2学年 数学科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「連立方程式」(移行科目「数科」名)○○～○○		
単元の目標	(1) 連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。 (3) 連立二元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。		
単元の評価規準	知識・技能 ①二元一次方程式とその解の意味を理解している。 ②連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意義を理解している。 ③簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ④加減法や代入法による解き方を理解している。 ⑤考察中の数量やその関係に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる。	思考・判断・表現 ①二元一次方程式と関連づけて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ①連立二元一次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ②連立二元一次方程式について学んだことを生活やその後の学習に生かそうとしている。 ③連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。

⑦ 単元終了時の生徒の姿
 全体的に求めたい姿(意図) 粘り強さを、本単元に着目して数量の関係を図り、連立方程式を見出し、もとめて活用し、数量を求めようとしている生徒

単元の中心的な学習課題 ⑤ 本単元で働かせる見方・考え方のポイント
 求めたい数量の数に着目し、数量の関係を図り、連立方程式を見出し、もとめて活用し、数量を求めようとしている生徒

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★上記欄に示す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○求めたい数量が二つある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、連立方程式の必要性を認識する。	【知D】(ノート分析・行動観察)
二	1	○二元一次方程式・連立方程式とその解の意味を知る。	【知①②】(ワークシート分析)
三	3	○文字の係数の絶対値が等しい二つの式を比べて、一つの文字を消去する方法を考える。 ○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式を解く。【本時】 ○具体的な問題で、一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考える。	【思①】(ノート分析) ★【思①】(ノート分析・行動観察) ○等式の性質を利用して、加減法を用いて連立方程式を解く過程を式に表し、説明することができる。 【知③④】(ノート分析)
四	3	○()を含む連立方程式、係数に小数や分数を含む連立方程式を解く。 ○()の形をした連立方程式を解く。また、係数に文字を含む連立方程式に解を代入し、その文字の値を求める。 ○連立方程式とその解き方を確認する。	【知⑤】(ノート分析・小テスト) 【知⑥】(ノート分析・小テスト) ★【知①②③④】(ノート分析・小テスト) ○本単元の学習内容を身に付けている。

★「単元終了時の生徒の姿」のポイント

□目標や評価規準等を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
 (文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)

□子供たちと共有したい場合、共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は生活場面や数学の問題)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

⑦「～があるとき」に、生活場面や数学の問題場面を示しています。

④「しようとしている」に、本単元の目標や評価規準を要約している言葉、生活場面や数学の問題でどのように活用したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「求めたい数量を連立方程式を用いて求めようとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

□単元の中心的な学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか

□見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元の中心的な学習課題(単元を通した学習課題)を踏まえて、どのような視点で物事を捉え(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

⑦「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
 (※算数・数学の場合は、数量や図形及びそれらの関係などに着目。単元内容に応じて記述。)

④「～考える」「～検討する」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。
 (※算数・数学の場合は、論理的・統一的・発展的に考えること)

※単元時数が少ない場合は、1時間ごとの見方・考え方を記述してもよい。

○単元の目標及び評価規準の設定

※小理の例になります。「内容のまとめり」の捉えが小理と中理では異なるため
 小学校理科の場合、学習指導要領における「内容のまとめり」を「単元」と置き換えることが可能です。そのため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとめり＝単元」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができます。

小学校理科の場合、単元の目標を、次のように設定します。単元の目標は3つの柱で示すことも可能ですが、解説に単元のねらいが示されているのでそれを用いて示します。

- 「知識及び技能」：下線部㉑
- 「思考力、判断力、表現力等」：下線部㉒
- 「学びに向かう力、人間性等」：下線部㉓

単元の評価規準は、次のように設定します。
 ※(A)を「内容のまとめり」における学習の対象に置き換えて作成する。

- 例：(A)植物の体のつくりと働き
- ※下線部は、学年によって表現が異なる場合があります。下線部例参照
- ◆「知識」は、「内容のまとめり」の知識に関する内容である(ア)、(イ)などの文末を「～を理解している」とする。
 - ◆「技能」は、「(A)」について、(省略)記録している」とする。
 - ◆「思考・判断・表現」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)」について、(省略)表現するなどして問題解決している」とする。
 - ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「(A)」についての事物・現象に(省略)、(省略)問題解決しようとしている」「(A)」について学んだことを学習や生活に生かそうとしている」とする。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

植物が生きていくために必要なものが、体のつくりと働きとどのように関わるのか課題解決していく中で生命の神秘や植物の存在意義について気付かせること狙って、書き表した例

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 理科 学習構想案
 1 単元構想

単元名	「植物の養分と水の通り道」		
単元の目標	植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、植物の体のつくりと働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 ②根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 ③植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①植物の体のつくりと働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を案想し、表現するなどして問題解決している。 ②植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	①植物の体のつくりと働きについての事物・現象に連なって関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②植物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
植物の体のつくりと働きを理解し、生命の神秘を感じるとともに、生物としての関わりや植物の存在意義について考える、環境の保全などに生かそうとする児童			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
植物が生きていくために必要なものは、植物の体のつくりや働きとどのように関わっているのだろうか。		植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べ、植物の体のつくりと働きを捉えること。	
指導計画と評価計画(1:0時間取扱い、本時7/1:0)			
巻数	時間	学習活動	評価の観点等
1	1	○日当たりのよい場所の植物や日かげの植物のようすを観察する。 ○学校の高い樹木(イチョウなど)のようすやしおれた植物に水を与えたときのようすなどを観察する。 ○観察したことから各自が気づいたことや問題を見いだす。	【思①】(記述分析)
2	4	○各自が見いだした問題を基に、学級共通の問題を設定する。 なぜ植物は日光が当たると、よく成長するのだろうか。 ○日光によって、養分(でんぷん)ができるかどうかを調べる方法を考える。 ○日光と葉にできる養分(でんぷん)の関係を調べる。 ○日光を当てた葉と当てない葉の違いの結果から比較し、結論を導き出す。	★【思①】(記述分析) ○日光と葉にできるでんぷんの関係を予想や仮説を基に、条件を比較する等の解決の方法を案想し、表現している。 ★【知②】(行動観察・記録分析) ○日光と葉にできるでんぷんの関係について、得られた結果を適切に記録している。 ★【知①】(記述分析) ○植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 【操①】(行動観察・発表分析)

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有したい場合、共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は環境への保全)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ㉑「～を考え」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ㉒「生かそうとする」に、実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「環境の保全などに生かそうとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ㉑「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
(理科の場合は、自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉える)
- ㉒「～する」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。
(理科の場合は、比較したり、関係付けたりする方法を用いて考える)

○単元の目標及び評価規準の設定

生活科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

生活科の各内容には、一文の中に「児童が直接関わる学習対象や実際に行われる活動等」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の四つが構造的に組み込まれている。具体的な学習対象や活動を入れて、3つの資質・能力につなげて作成する。一文で示す場合もある。

単元の評価規準は、次のように設定します。学習指導要領解説生活編において示された各内容の資質・能力に関する記述等を参考に具体的な学習対象や活動を入れる。

◆「知識・技能」は、文末表現を「分かっている」「気付いている」などとする。気付きなどの知識の基礎や生活上必要な習慣、技能を記述する。

◆「思考・判断・表現」は、「～考えている」「～している」などとする。具体的な学習活動において期待する思考と児童の姿を記述する。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「～しようとしている」などとする。①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信、に関して具体的に表したものの、児童の姿を記述する。

★「単元を通した学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

家庭の中で、自分ができることについて考え取り組んでいくことを通して、自分の役割に気付き積極的に役割を果たしていくことを狙って、書き表した例

④「どんなことだろう」という問いかけにして単元のゴールの実現を図る。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第1学年生活科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「ひろがれ えがお」		
単元の目標	○家庭生活に関する活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。 ○家庭生活に関する活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができる。 ○家庭生活に関する活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での生活は、互いに支え合っていることが分かり、家庭での自分の役割に気付いている。	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での家族のことやそのよさ、自分でできることなどについて考えている。	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。

⑦ 単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
 家庭生活をよりよくするために取り組んだことを生かして、家族の笑顔が増えるように自分ができること続けたり、挑戦したりしようとする子供

単元を通した課題（単元の中心的な課題）	本単元で働かせる見方・考え方
家族のみんなが笑顔で生活できるように、自分ができること、どんなことだろう。	家庭生活において、それぞれのよさや果たしている仕事、役割があること、それらと自分との関わりに関心を持ち、互いに支え合っていること、自分も家庭を構成している大切な一人であることがわかる。

指導計画と評価計画（10時間取扱い 本時 7/10）		学習活動	具体的評価規準
一	3	○家族を笑顔にするために、自分ができることについて考える。 ○家庭での生活を振り返り、家族がしていること、自分がしていることについて調べる。 ○家庭生活で、家族や自分がしていることについて絵や文で表現する。 ○家庭生活の中で、自分でできることや家族が喜んでくれるようなことについて考える。	【知】ノート・発言 ○家庭生活では、それぞれ果たしている仕事や役割があることが分かっている。 【思】ワークシート・発言 ○家族のことや自分がしていることについて表現している。 【知】ノート・発言 ○自分でできることや自分の役割に気付いている。
二	4	○自分でできることや挑戦したいことを、友達同士で教え合う。 ○自分でできることや挑戦したいことを決めて、計画を立てる。（家庭で実行）	★【思】ワークシート ○家庭生活における役割を考え、自分でできることや挑戦したいことを計画している。 ★【主】発言・活動 ○家族を笑顔にするために、うまくできるように計画をし、練習をしたり、コツを聞いたりしている。
三	3	○家で取り組んだ自分でできることや挑戦したことを発表する準備をする。 ○家で取り組んだことや挑戦したことを実演や絵、文等で表現し友達に伝える。 ○これからも続けていくための計画をする。	★【知】ワークシート ○家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。 ★【思】ワークシート・交流 ○家庭で取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。 ★【主】ワークシート ○自分でできることを続けることや生活リズムや健康についても気を付けて生活しようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
 （文末は「～している（しようとしている）子供（児童生徒）」）
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 単元で取り組みながら学んだこと（思いや願いを実現する過程）を示しています。
- ④ 単元を通して考えていく課題につながる言葉を示しています。
- ④ 「続けたり挑戦したりしようとする」に実生活の場面でどのように生かしていくかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて（見方）、どのような考え方で思考していくか（考え方）を想定して、書き表した例

- ④ 家庭生活において自分がどのように関わっているのか、身近な生活に関わる見方を示しています。
 （※生活科の場合は、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えること）
- ④ 家庭における大切な一人であり、自分にはできることはどんなことか等の考え方を示している。
 （※生活科の場合は、自分自身や自分の生活について考えていくこと）

○題材の目標及び評価規準の設定

音楽科の場合、題材の目標を、次のように設定します。

- (1)「知識及び技能」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～について理解するとともに～身に付ける」として示す。
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、指導事項の内容に応じて、それぞれの具体的内容に置き換え、文末を「～する」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、当該学年の目標(3)を参考にし、必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて示す。

題材の評価規準は、次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している」とする。
- ◆「思考・判断・表現」は、「評価の観点の趣旨」を踏まえ、児童生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択し、「(音楽を形づくっている要素)を覚し、」と示し、文末を「～している」とする。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「評価の観点の趣旨」をそのまま設定する。文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童生徒に興味・関心をもたせたい事柄を示す。

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

歌唱共通教材の表現の工夫に取り組むことを通して、我が国で長く歌われている歌曲のよさに触れ、魅力を味わうことをねらって、書き表した例

- ①「～の」に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ②「～しよう」に、学習活動を設定しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 音楽科 学習構想案

1 題材構想

題材名	歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう (教材:「荒城の月」「早春賦」)		
題材の目標	(1)「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 (2)「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知見し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 (3)「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に「学びに向かう力、人間性等」		
題材の評価規準	知識・技能 ①「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思考・判断・表現 ①「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知見し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。	主体的に学習に取り組む態度 ①「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

題材終了時の生徒の姿(題材のゴールの姿:期待される姿)
 これから出会う日本の曲についても魅力を味わい、工夫して表現しようとする生徒。

題材を通した学習課題	本題材で働かせる見方・考え方
我が国で長く歌われている歌曲の魅力を味わおう。	音楽に対する感性を働かせ、歌詞、リズム、速度、旋律、強弱等とそれらの働きとの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連付けること。

時間	学習活動	評価の観点等
1	○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。 ○二つの曲を聴き比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。	【態①】ワークシートの記述・観察
2	○「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知見し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。 ○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽の特徴と歌詞の内容とを聞かせる歌う。	【態②】ワークシートの記述・観察 【態③】ワークシートの記述・発言
3	○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 ○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知見・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。	★【知①】ワークシートの記述 曲の雰囲気や心情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを言っている。 ★【態④】ワークシートの記述・発言 感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、どのように感じているのかについて、自分なりの思いや意図を書いている。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

今後の学習や実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 今後の学習や実生活の場面を示しています。
- ⑧ 本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑨ 「～しようとする」に、実生活の場面でどのように生かしたり、活動したりしようとしているかを示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑩ 教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
(※音楽の場合は、音楽を形づくっている要素とその働きへの着目)
- ⑪ 教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。
(※音楽の場合は、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること)

○題材の目標及び評価規準の設定

美術科の場合、題材の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～(す)。」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性」の目標については、いずれの題材においても当該学年の目標である「～美術の創造活動の喜びを味わい、～」の部分を示す。

題材の評価規準は次のように設定します。

- ◆「知識及び技能」は、「知識及び技能」の「知識」は、共通事項の内容を示している。文末を「～理解している」として示す。「技能」は「A表現」(2)の内容を示している。文末を、「～表している」として示す。
- ◆「思考、判断、表現」は「思考力、判断力、表現力等」は、「A表現」(1)及び「B鑑賞」の内容を示している。文末を、「～している」として示す。指導事項の一部を用いて示すこともある。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、<①粘り強い取組 ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該題材の具体的な言語活動>の①～④の内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 美術科 学習構想案

1. 題材構想

題材名	魅力が広がるパッケージ ～地元商店街の包装紙をつくる～ (『日本文芸出版 美術2・3下』P32～33)		
題材の目標	(1) 包装紙や配色及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現する。 (2) 商品を受け取る人の気持ちのイメージなどから主題を生み出し、形や色彩などが対称にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。 ・構成や装飾の調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、自身のイメージが多くの人に伝わるように、魅力的な包装紙や配色などを考えることなどを基に表現したり建設したりする活動に取り組もうとする。		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 ②材料や用具、表現方法の特性などから、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現している。	①構成や装飾の目的や条件などを基に使用する色の立場、社会との関わり、認知やユーモアなどから主題を生み出し、包装紙やパッケージの統制と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ②目的や統制との調和のとれた洗練された美しさなどを感知し取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、統制と美しさとの調和などを総合的に考え表現を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとしている。 ②美術の創造活動の喜びを味わい、包み込む包装紙の調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める意図の学習活動に取り組もうとしている。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿と なっていますか (文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は表現活動)の場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～するときに」に、実生活の場面を示しています。
- ⑧本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑨「表現しようとする」に実生活の場面どのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています。(この場合は「日常の表現活動の中で自分の表現方法を追求できる」ことを想定)。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考してくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑩「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(※美術の場合は、造形的な視点)
- ⑪「～する」にあたる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。(※美術の場合は、自分としての意味や価値をつくりだすこと)

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

地元商店街のオリジナル包装紙をつくるという課題に取り組むことを通して、商品を受け取る人の気持ちをイメージすることをねらって、書き表した例

- ⑫「～を」に学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ⑬「～しよう」に表現内容を設定しています。

⑫	題材終了時の生徒の姿(題材のゴールの姿・期待される姿) 自分が表したいことに合わせて形や配色等の表現の構想を練るし、商品を受け取る人の感情にもたらす効果などをイメージし、自分の表現方法を追求して表現しようとする生徒
⑬	題材を通した学習課題(題材の中心的な課題) 商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら、地元商店街のオリジナル包装紙をつくる。
⑭	本題材で働かせる見方・感じ方 造形的な視点を捉え感性や創造力を働かせ、商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら、生徒自身が深く表したいことを表現する意図や価値をつくりだす。

過程		時間	学習活動(問いを設定しても可)	評価の観点等
★は目標に秀でた場面での「主体的評価規準」				
鑑賞	1		○包装紙の参考作品を鑑賞する活動を通して、作者の心情や意図、表現の工夫に気づき、対話を通してそのよさを味わう。	【知①】(観察)【感①】(観察) ○造形的な視点をもちに、参考作品の工夫点に気づき、作者の心情について感じ取っている。
発想構想	2		○商店街で販売されている商品を知り、主題を基に、形や色彩などが感情にもたらす効果や美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。	★【思①】(ワークシート・観察) ○形や色彩の効果を生かして、構成や装飾を考え、企画書に表現している。
知識技能	4		○決定したデザインを基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって創造的に表現する。	★【知②】(作品・ワークシート・観察) ○イメージした色調で、リズムを考えた配置で下描きをしている。 ○背景と同系色を使い繰り返し、色による強弱を加えるなど、工夫して着色している。
鑑賞	1		○でき上がった生徒作品を鑑賞し、それぞれがデザインした作品についての見方や感じ方を深める。	★【思②】(ワークシート・発言) ★【感②】(観察) ○造形的なよさや工夫点について簡単に言いながら鑑賞し、児童の作品のイメージを味わっている。

○題材の目標及び評価規準の設定

技術・家庭科(技術分野)の場合、題材の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」の目標については、基本的に各内容A～Dの指導事項アの文末を「～について理解する。」「～できる。」として示す。

(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に各内容A～Dの指導事項イの文末を「考える。」として示す。

(3)「学びに向かう力、人間性等」は基本的に学習指導要領解説に例示されている文章(A(1)ではP27, 6行目～)やP60「技術分野 資質・能力系統表」を参考に「～の態度を育成する。」として示す。

題材の評価規準は、学習指導要領解説P60「技術分野 資質・能力系統表」等を参考にしながら具体的に作成する。

◆「知識・技能」は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について(を)理解している」、「～ができる技能を身に付けている」として作成する。

◆「思考・判断・表現」は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置付けに基づき「～について考えている」として作成する。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は基本的には、分野の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

また、この観点の評価規準は、一連の学習過程で育成される資質・能力の関連に配慮し整理することが大切である。例えば、各内容における(1)で身に付ける「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力は、各内容における(2)及び内容の「D情報の技術」の(3)の「技術による題の解決」の学習に生かされるものであることから、各内容の(1)では「主体的に技術について考え、理解しようとする態度」について評価することが考えられる。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 技術・家庭科(技術分野) 学習構想案

1 題材構想

題材名	D情報の技術 「プログラムを用いた栽培管理システムを作ろう」	
題材の目標	(1)計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 (2)前題材で実施した栽培活動から問題を見いだして課題を設定し、その解決のために計測・制御システムを構想して具体化し、最適なプログラムの制作やデバッグ、結果の評価、改善及び修正について考える。 (3)、自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度や、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度の育成する。	
題材の評価規準	知識・技能 ①生活や社会で利用されている基礎的なプログラミングの知識と栽培の管理作業との関わりについて理解している。 ②安全で最適なプログラムを作成したプログラム等を評価・改善して課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよいシステムになるよう改善しようとし続けようとする力を身に付けている。	思考・判断・表現 ①栽培に関わる問題を見いだして、必要なコンテンツのプログラムや計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、具体的な解決策を構想しようとしている。 ②自身の課題解決について振り返ったり、改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
題材終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	生活の中から問題を見だし、自ら課題を設定し、課題解決に向けたプログラムを設計・作成し、完成したプログラムを最適なものにし、改善し続けようとする姿。	
題材を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)	本題材で働かせる見方・考え方	
よりよい管理作業をおこなうために、最適なプログラムを作成しよう。	管理作業を自動化する際に、社会からの要求、安全性、操作性等に配慮しながら、プログラムを作成し、最適化する。	
詳細の観点等	方によって、解決策	
	や計測・制御システムしている。 ワークシートやプログラムの機能や安全に具体化できる。 及びデバッグ等がで	

★「題材を通じた学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

統合的な問題を解決するため、「B生物育成の技術」で見いだした問題から課題を設定し、「D情報の技術」(3)において解決することを想定して書き表した例
①学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
②必然的に見方・考え方を働かせるような、表現をすることも考えられます。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

今後の実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦実生活の場面を示しています。
- ①本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑨実生活の場面でのどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通じた学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑨教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
- ⑩教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。

○題材の目標及び評価規準の設定

家庭分野の場合、題材の目標を次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標は、基本的に指導事項の文末を「～できる。」と示す。(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標は、(1)(2)を踏まえて、「生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。」と示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆「知識・技能」は、基本的には、[知識及び技能]の指導事項の文末を、「～について理解している」、「～について理解していると、適切にできる」とする。

※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」とする。

◆「思考・判断・表現」は、[思考力、判断力、表現力等]に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価する。①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見だして課題を設定している」、②課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」、③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」、④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、①粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)、②自らの学習の調整(その中で自らの学習を調整しようとする側面)、③実践しようとする態度、を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」とする。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第1学年 技術・家庭科(家庭分野) 学習構想案
1 題材構想

題材名	家族・家庭や地域との関わり		
題材の目標	(1) 家族の互いの立場や役割、家族関係をよりよくできること、家庭生活と地域との相互の関わり、高齢者など地域の人々と協働する必要があること、介護など高齢者との関わり方について理解する。 (2) 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 ②家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	①家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
題材終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿) 家族・家庭や地域との関わりにおいて、家族の互いの立場や役割(①)家庭生活と地域との相互の関わり(②)高齢者など地域の人々との協働に関する知識や、課題を解決する力を身に付け(③)家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする生徒			
題材を通した学習課題 ①よりよい生活のために、家族や地域の人々と、どのように関わるとよいのだろうか。		本題材で働かせる見方・考え方 「協力・協働」の視点から、課題を解決する力や、家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする。	

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですが
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

家族や地域の人々とどのように関わるとよいかという課題に取り組むことを通して、よりよい関わり方を見付けていくことをねらって書き表した例

①「～のために」に、題材のゴールのイメージを示しています。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

美生活(この場合は家族・家庭や地域との関わり)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ②「～において」に、美生活の場面を示しています。
- ①「家族や地域の人々との関わり方」に、本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ②「工夫し創造しようとする」に、美生活の場面でのように実践しようとしているかを示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて、思考していくかを想定して、書き表した例

②「～の視点」に、教科等の特質に応じた見方・考え方に関する内容を示しています。(※家庭分野の場合、ここでは「協力・協働」の視点)

○単元の目標及び評価規準の設定

保健体育科【体育分野】の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標とも、基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆体育分野の「知識・技能」は、知識と技能に分けて示す。「知識」は【知識及び技能】の例示の文末を「～について言ったり書き出したたりしている。」「～について学習した具体例を挙げている。」とする。「技能」は例示の文末を「～ができる。」とする。

◆保健分野の「知識・技能」は、例示の表現を「～について言ったり、書き出したたりしているとともに、～ができる。」と示す。

◆「思考・判断・表現」は、【思考力、判断力、表現力等】の例示の文末を「～している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生については【学びに向かう力・人間性】の例示を「～しようとする。」として示す。健康・安全については「～している。」として示す。

※各観点とも、上記を基本とするが、授業の場面に応じて、さらに具体化したものにすることもある。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか
- 「知識及び技能」など一部が重視されることなく3つの資質・能力をバランスよく学習できる表現ですか

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第1学年 球技 ゴール型 サッカー 学習構想案
1 単元構想

単元名	球技 ゴール型 サッカー		
単元の目標	(1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 (2)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能 【知識】 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したたりしている。 ②球技の各型の各目種において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 【技能】 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	思考・判断・表現 ①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	主体的に学習に取り組む態度 ①練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	仲間と協力して学習する中で、サッカー(球技)に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツで多様な関わり方をする生徒		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。		
	本単元で働かせる見方・考え方 ①サッカー(球技)の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目し、②ボールを操作しながらゴール前での攻防をするポイントや仲間の出来映えを見たり、仲間を助言したりして支えたり、サッカーの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連付けること。		

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 休み時間や休日の遊びやテレビ視聴など日常生活とまとめて、実生活の場面を示しています。
- ⑧ 3つの資質・能力及び生徒の適正等を踏まえるとさまざまに考えられることから多様な関わり方としてまとめて示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、単元の評価規準から見方・考え方を書き表した例

- ⑨ 単元の学習全体を通した見方を示します。考え方は、多様な関わり方として、
- ①主に「技能」から「する」、
- ②「思考・判断」の視点から「みる」、
- ③「主体的に学習に取り組む態度」から「支える」
- ④「知識」から「知る」内容を示します。

○単元の目標及び評価規準の設定

外国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても外国語科の目標である「他者に配慮しながら～しようとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、五つの領域別目標ごとに、次のように設定します。

◆「知識・技能」のうち、「知識」は、「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。「技能」は、「【事柄・話題】について【言語材料】などを用いて～する技能を身に付けている」が基本的な形となる。

◆「思考・判断・表現」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～している」が基本的な形となる。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～しようとしている。」が基本的な形となる。

※本単元において、目標に向けて指導を行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない領域について明記する。

★「単元を通した学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

将来の夢に近づくためのオリジナルの時間割を伝え合うという課題に取り組むことを通して、他者によりよく伝えられるようになることをねらって、書き表した例

- ①「～ために」に、言語活動の目的を示しています。
- ②「～しよう」に、学習内容や指導事項を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第5学年 外国語科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「What do you have on Monday?」(発行者名「教科書名」,○○～○○)		
単元の目標	(1)教科や時間割について聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の小文字を識別し、読むことができる。【知識及び技能】 (2)相手に自分のことをよく知ってもらうために、相手に伝わる工夫をしながら時間割や学びたい教科について伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3)相手に伝わる工夫をしながら、時間割や学びたい教科について伝え合うとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「聞くこと」(ウ) 【知識】 教科の言い方や、What subjects do you like? What do you have on ~? ...その答え方について理解している。 【技能】 好きな教科や時間割など、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、時間割や学びたい教科などについて、その概要を捉えている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、時間割や学びたい教科などについて、その概要を捉えようとしている。
	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 【知識】 教科の言い方や、What subjects do you like? What do you have on ~? ...その答え方について理解している。 【技能】 好きな教科や時間割などについて、What subjects do you like? What do you have on ~? ...等を用いて考えや気持ちなどを伝え合うために必要な技能を身に付けている。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 自分のことをよく知ってもらうために、相手のことをよく知ったりするために、自分の考えたオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合っている。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 自分のことをよく知ってもらうために、相手のことをよく知ったりするために、自分の考えたオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合おうとしている。
	「読むこと」 ※本単元における「読むこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。		

単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)

相手のことを知るために、時間割や好きな教科などについて、必要な語句や表現を使って、伝える相手に応じて工夫をしながら伝え合っている児童

単元を通した学習課題

本単元で働かせる見方・考え方

お互いのことをよく知るために、相手の業に近づくためのオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合う。

相手の好きなことや得意なことなどを伝えたり尋ねたりする内容や表現を工夫する。

総学習計画と評価計画(7時間取扱い、本時7/7)

単元	時間	学習活動	評価の観点等 (又は記録に残す評価の場面等【具体的な評価規準】)
一	1	○単元のゴールを確認する。 ○世界の学校生活の様子を知り、自分たちとの共通点や相違点について考える。 ○教科や曜日の言い方について知り、言ったり聞いたりする。	「聞くこと」(ウ) 【知】(ワークシート、行動観察)
二	2	○時間割や曜日について尋ねたり答えたりする言い方を知る。 ○活字体の小文字を識別して読み、アルファベットの半角と全角の区別がわかるようにする。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 【知】(行動観察)

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を要約し、具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況に応じた望ましい子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実際に他者とコミュニケーションを図る場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ①「相手のことを知るために」に、コミュニケーションの目的を示しています。
- ②「～について」に、コミュニケーションの事柄・話題を示しています。
- ③「～しながら伝え合っている」に、実際のコミュニケーションの場面でどのように活動したり考えたりしているかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ①「～を踏まえて」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
(※外国語の場合は、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること)
- ②「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。
(※外国語の場合は、コミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて、考えなどを形成、再構築すること)

○単元の目標及び評価規準の設定

外国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1) の「知識及び技能」及び (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても外国語科の目標である聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら～しようとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、五つの領域別目標ごとに次のように設定します。

- ◆「知識・技能」のうち、「知識」は、「【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。」が基本的な形となる。「技能」は、「【言語材料】などを活用して、【事柄・話題】について～している。」が基本的な形となる。
- ◆「思考・判断・表現」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～している」が基本的な形となる。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～しようとしている。」が基本的な形となる。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

夏休みの予定について伝え合うという課題に取り組むことを通して、他者によりよく伝えられるようになることをねらって、書き表した例。

- ㊦「～ために」に、言語活動の目的を示しています。
- ㊧「～しよう」に、学習内容や指導事項を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第2学年 外国語科 学習構想案
1 単元構想

単元名	Unit 2 A Trip to the U.S. (New Horizon 2 P.18～)		
単元の目標	(1) be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などを用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。【知識及び技能】 (2) 週末や夏休みの予定などをALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 相手に配慮しながら、英語を用いて週末や夏休みの予定などについて伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「話すこと〔やり取り〕」(A) ・be going to+動詞, show+A+B, call+A+B を用いた文の構造を理解している。 ・週末や夏休みの予定などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	「話すこと〔やり取り〕」(A) ・ALTに自分の予定を伝えるために、週末や夏休みの予定などを、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	「話すこと〔やり取り〕」(A) ・ALTに自分の予定を伝えるために、週末や夏休みの予定などを、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

㊦ 単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)

お互いのことをよく知るために、週末や夏休みの予定などについて、相手に配慮しながら、予定や事実、自分の考えなどを整理し伝えたり、相手からの質問に答えたりして伝え合っている生徒。㊧

㊦ 単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)	㊧ 本単元で働かせる見方・考え方
「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために、ALTの先生と「夏休みの予定」について伝え合おう。㊦	ALTの背景にある文化や、興味・関心に配慮しながら、夏休みの予定などについて、内容や表現を工夫すること。㊧

指導計画と評価計画 (10時間取扱い 本時8/10)

時	時	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 (又は記述による評価の観点や「具体的評価規準」を記述)
-	1	○単元の目標を理解し、自己目標を設定する。 ○主人公の予定を読み取り、説明する。 ○週末などの予定を伝え合い、相手か	【知】【思】 (ワークシート・行動観察)

★「単元終了時の生徒の姿」のポイント

- 目標や評価規準を要約し、具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況に応じた望ましい生徒の姿となっていますが (文末は「～している(しようとしている)子供(生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実際に他者とコミュニケーションを図る場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ㊦「お互いのことをよく知るために」に、コミュニケーションの目的を示しています。
- ㊧「～について」に、コミュニケーションの事柄・話題を示しています。
- ㊨「～伝え合っている生徒」に、実際のコミュニケーションの場面でどのように活動したり考えたりしているかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ㊦「～に配慮しながら」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること)
- ㊧「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、コミュニケーションの目的・場面、状況等に応じて、考えなどを形成、再構築すること)

○主題名、ねらい、評価の視点の設定

【主題名、ねらい】

道徳科では、①ねらいや指導内容についての教師のとらえ方、②それに関連する子供のこれまでの学習状況や実態と教師の願い、③使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等をもとに、主題を設定していきます。

※次頁以降の「2 主題設定の理由」に示しています。

※「ねらい」…道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものです。

※「主題」…指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

※「主題名」…ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものです。

【評価の視点】

次の2つの視点から子供たち一人一人の学習の状況を評価します。

- 視点1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。
- 視点2 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

★「主題に迫る学習課題」のポイント

- 子供たちが興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 目指す児童の姿に迫るものですか

道徳科の場合は、1単位時間で1つの内容項目を取り扱うことが一般的ですので、ここに示す「学習課題」は本時の「学習課題」とリンクさせています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、どのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、学習構想を立てましょう。

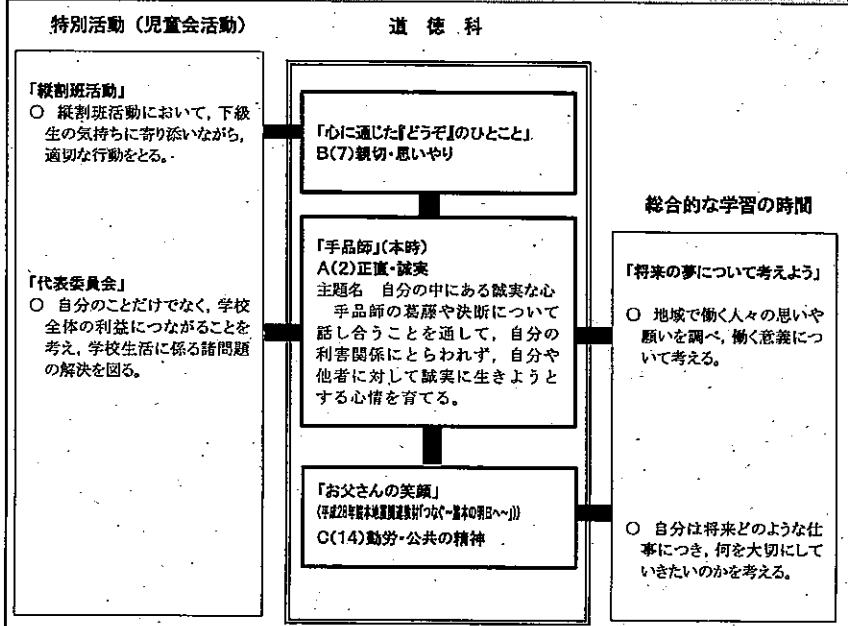
小学校第6学年 道徳科 学習構想案

1 学習構想

主題名	自分の中にある誠実な心 (内容項目A(2)正直, 誠実)	
ねらいと教材	(1)ねらい 手品師の高藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。	
	(2)教材名 手品師 出典:「OO(OO社)」	
評価の視点	評価の視点1 問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。	評価の視点2 自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら考えようとしている。

目指す児童の姿 自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする児童	
主題に迫る学習課題(本時) 判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶとよいのか。	本主題で働かせる見方・考え方 誠実さについて多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。

内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導



★「目指す児童の姿」のポイント

- ねらいや評価の視点を踏まえた子供の姿となっていますか。(文末は「～しようとしている子供」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践しようとしている子供の姿を示します。

★「本時で働かせる見方・考え方」のポイント

- 学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

道徳科の見方・考え方は、道徳科の目標に示されている「様々な事象を、道徳的価値の理解を基に自己との関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること」です。ここでは、本時のねらいに合わせて記述します。

★「内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導」作成のポイント

【関連的、発展的な指導】
内容項目相互の関連性、発展性を考慮して指導の順序を工夫することで、子供たちの実態に応じた適切な指導を行うことができます。

【各教科等、体験活動等との関連的指導】
道徳科は、各教科等、体験活動等との関連的指導や複数時間の関連を図った指導等を意図的・計画的に行うことで、指導の効果を高めることができます。

※道徳教育の全体計画別業(各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの等)を参考としながら、道徳科の授業を単発とせず、いかに他の内容項目や教育活動との関連を図ることができるか、その構想の工夫が求められます。

学習構想案作成のポイント（本時）

4 本時の学習

(1)ねらい

手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。

(2)展開

過程	時間	学習活動 (〇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	5分	1 本時の学習課題を知る。 ①二者択一の場面を与え、児童に考えさせる。 「運動会の仕事」と「委員会活動の仕事」と重なったとき、どんな理由で一方を選び、関係する友達や担当の先生に説明しますか。 【学習課題】 判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶとよいのか。	（「問い」を生み出す手立て等） ○打算的な考え、他者を優先した考え、自身の信念等を基にした考えなど、様々な視点から選んだ理由を出させることで、自身の経験に基づく様々な判断規律を想起させ、本時の学習課題につなげる。
		②教材「手品師」の概要を把握する。 ◇「手品師」という仕事は、人を笑顔にする夢のある仕事だなぁ。 ◇「手品師」は、何に迷ったのだろう。	○学習課題の提示後に、教材「手品師」と出会わせ、「手品師」という職業や登場人物の葛藤場面について簡単に紹介することで、教材の中に描かれている問題に気付かせ、中心発問につなげていきたい。
展開	30分	2 教材を読み、道徳的価値について考える。 ①手品師は、友人からの誘いを聞いて、どのようなことを考えたか。 【男の子】 ↔ 【大劇場】 ◇男の子と約束したから。 ◇男の子を元気づけない。 ◇男の子を悲しませてよいのか。 ◇大劇場の舞台に立ち、夢をかなえたい。 ◇誘ってくれた友人に悪い。	（個に応じた支援） ○男の子との約束を守ることだけでなく、絶え間ない努力によって夢を叶えることにも誠実さがあることを踏まえて発問を行う。 ○自分や友達の考えの立ち位置が視覚的に分かるように、スケール図にネームプレートを貼るようにする。 ○多面的・多角的に考えられるように、児童の発言内容を受けて次の発問を行う。 【男の子】を選んだ児童に対して ・男の子との約束より大劇場のステージに立つことを選ぶことはいけないことか。 ・自分の夢をかなえようとするのは、いけないことか。 ・自分を犠牲にする必要があるのか。 【大劇場】を選んだ児童に対して ・男の子との約束を、自分の夢のために破ってよいのか。 ・男の子を悲しませてよいのか。
		②どちらにも共通する大切な心とは何だろう。 ◇人を幸せにしたいと思う心 ◇人が喜ぶ姿をみたいと思う心	○どちらを選んだにしても、児童自身の真面目さや真心（他者を思う心）が共通点としてあることに気付かせていきたい。
終末	10分	3 自分自身を振り返る。 ① 手品師のような心が自分の心の中にもあるか、考えよう。 ◇ これまでよく考えずに友達に合わせて行動することが多かったけど、判断に迷ったときは、どちらがより人を大事にしたことなのかをしっかりと考えていきたい。 ◇ 手品師は、男の子との約束を守ったことで、チャンスを逃してしまったかもしれないけれど、自分で後悔をしない生き方をしていたと思う。自分も周りの人の気持ちや思いをしっかりと考えながら、後悔しない選択をしていきたい。	○委員会活動や学校行事等で働いている児童の姿をスライドで見せ、自分の心の中にある誠実さ（学校全体、友達、先生、低学年の児童、地域の人、家族等大切にしたい心）を想起できるようにする。

【評価の視点1】問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。（方法：発言・ワークシート）

【評価の視点2】自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら、考えようとしている。（方法：ワークシート）

導入の工夫

導入は、主題に対する子供の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。

【具体的な導入の例】

- ①本時の主題に関わる問題意識をもたせる。
- ②教材の内容に興味や関心をもちさせる。など

展開の工夫

展開は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、子供たち一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階です。

【具体的な展開の例】

発問を中心にする...

- ①教材に描かれている道徳的価値に対する子供たち一人一人の感じ方や考え方を生かす発問を行う。

- ②物事を多面的・多角的に考えたり、子供が自分との関わりで道徳的価値を理解したりする発問を行う。など

※教師の指導の意図（目の前の子供の実態を踏まえ、どのようなことを考え、気づいてほしいのか）を明確にした学習活動が重要！

終末の工夫

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

【具体的な終末の例】

- ①学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

- ②学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりするなど

「ねらい」について

内容項目を手掛かりとしながら、育てようとする道徳性（人間としてよりよく生きようとする人格的特性）を構成する諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度）の中で、焦点を当てるべきことを表記します。
※道徳性の諸様相については、どれか一つを扱うと限られているわけではなく、複数ねらいも授業もあります。

「評価の視点」について

授業の「ねらい」は、子供たち一人一人の道徳性（道徳的判断力・心情・実践意欲・態度）を育てることですが、**道徳科の授業では、その道徳性がどれだけ育ったかを評価するのではなく、子供たち一人一人の学習状況を評価します。**
※道徳科は人格そのものに働きかけていることから、他教科等の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」という観点別の評価が馴染まないため、「観点」とせず「視点」という言葉を用います。

【評価の視点1】一面的な見方から多面的・多角的な見方への発展しているか。

【評価の視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

教師は、授業のねらいとする道徳的価値に関する道徳性を育てるために、学習指導過程や指導方法を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びを構想します。そのような指導の工夫を行うことにより、表出した子供の学びの姿を評価する（一人一人の学習状況を見取り、成長の様子を受け止め、認め、励ます）こととなります。

認め・励ます評価を実施することで、子供たち一人一人の道徳性を着実に育てていきましょう！

○単元の目標及び評価規準の設定

総合的な学習の時間の場合、単元の目標を、次のように設定します。

「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、総括的に目標を示すとともに、以下の4つの要素を構造的に配列した例

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
- イ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識・技能」
- ウ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- エ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

単元の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準」を参考に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての子供の姿を想定し、下記の項目に関して設定することが考えられます。

- ◆「知識・技能」は、「①概念的な知識の獲得」、「②いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得」、「③探究的な学習のよさの理解」。
- ◆「思考・判断・表現」は、「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の課程で育成される資質・能力を子供の姿として示す。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視。「①自己理解・他者理解」、「②主体性・協働性」、「③将来展望・社会参画」等。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

職業について調べ、自分の未来について語ろうという課題に取り組むことを通して、これからの自己の生き方や生活に生かすことを狙って、書き表した例

- ①「～について調べ」に、探究的な学習活動に関する言葉を示しています。
- ②「～について語ろう」に、総合的な学習の時間で目指す態度を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 総合的な学習の時間 学習構想案

1 単元構想

単元名	職業について調べ、〇〇で育った自分の未来について語ろう。		
単元の目標	職業体験や職業について調べる活動を通して、 (1)様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、 (2)自己の将来の夢やそのために今しなければならぬことについて考えるとともに、 (3)学んだことをこれからの自己の生き方や生活に生かそうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。 ②自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならないことを理解している。 ③職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。	①自分の将来や夢について、理想との隔たりから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②希望する職業や地元で職業に関する情報を、手段を選択して収集している。 ③収集した情報から、将来の夢の実現に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②課題解決の状況を振り返り、自己の将来の夢の実現のために今しなければならないこと等、課題の解決に向けてあきらめずに取り組もうとしている。

② 単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
様々な職業の良さやそこで働く人々の思いに気付き、自己の将来の夢や、そのために今しなければならぬことについて考え、これからの自己の生き方や生活に生かそうとする児童

③ 単元を通じた学習課題 職業について調べ、自分の未来について語ろう。	④ 本単元で働かせる見方・考え方 職業について多様な角度から捉え、将来の夢の実現のために、自分なりに努力しなければならないことについて考え、自己の生き方を問うこと。
----------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

指導計画と評価計画（2・0時間取扱い、本時6/2・0）

単元	時間	学習活動	評価の観点等 ★日記帳に記入評価の場面（具体的評価規準）
一次	8	○将来の夢や希望について考え、知っている職業を出し合い、単元のゴールを共有する。 ○他に、どのような職業があるだろうかという課題意識を持たせ、インターネットを利用して様々な職業を調べる。 ○調べた中から興味のある職業の一つを取り上げ、仕事内容、必要な資格や能力等について、具体的に調べる。 ○調べた情報を個人で用紙にまとめ、発表の準備を行う。	【知①】（ワークシート） 【思②】（ワークシート）
		○個人で調べた職業の内容について、ポスターセッションを通して互いに発表を聞き合う。また、職業体験に来ていただいた方のインタビューを見て、職業選択の視点について考える。【本時】 ○自分の周りの大人の人々がどのように今の職業を決めたのかインタビューする計画を立てる。	★【知③】（まとめ・行動観察） ○職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。 ★【思④】（ワークシート・発言・行動観察） ○職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。

★総合的な学習の時間の特徴から、学校教育目標や全体計画を、資料として添付することが想定されます。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ②「～に気付き」に、本単元の探究的な学習を通して身に付けた知識等を示しています。
- ①「～について考え」に、学習を踏まえ、実社会や実生活においても探究的な学習を展開することを示しています。
- ③「～に生かそうとする」に、自己の生き方を考えるという第1の目標に迫る姿を示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、
・各教科等における見方・考え方を総合的に活用する見方・考え方
・総合的な学習の時間に固有な見方・考え方（広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えること、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けること）

- を想定して、書き表した例
- ②「～から捉え」に、探究的な見方・考え方に關する内容を示しています。
(※総合的な学習の時間の本単元の場合は、多様な角度から俯瞰して捉えること。)
 - ③「～を問うこと」に、探究的な見方・考え方に關する内容を示しています。
(※総合的な学習の時間の本単元の場合は、課題の追求を通して、自己の生き方を問い続けること。)

○内容のまとめりごとの目標及び単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準の設定

※各「議題」及び各「題材」における事前及び事後の活動を含めた「一連の活動」をここでは「単元」としています。

【参考】「議題」及び「題材」について

学級活動(1)の学習過程において、問題の発見・確認とは、学級や学校での生活をよりよくするため、児童が共通して取り組むべき課題を見いだすことを意味する。その課題の例としては、全員で協力して楽しく豊かな学級や学校生活にするために、取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどが考えられる。ここで見いだされた課題を基に、児童によって提案されたことについて、教師の適切な指導の下に学級活動(1)で取り上げる内容を「議題」と称す。

学級活動(2)、(3)においては、(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題という違いがあるが、問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りという基本的な学習過程は同じである。なお、教師がこれらの活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称す。(小学校学習指導要領解説特別活動編p.44-p.45)

例えば、「内容のまとめり」の一つである「学級活動(1)」の場合、目標を次のように設定します。「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動(1)において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)を設定し、「目標」とします。

単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準は、上記「自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)」を踏まえ、単元(この場合は議題「2年〇組オリンピックをしよう」の一連の活動)ごとに評価規準を考えます。次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉える。
目標の文末を「～を理解している」「～を身に付けている」とする。
- ◆「思考・判断・表現」は、話し合いや実践活動における習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉える。
「表現」には、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える。
目標の文末を「～している」とする。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉える。
各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組む、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返り」という表現を用いる。
目標の文末を「～しようとしている」とする。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第2学年 特別活動 学習構想案

1 単元構想

単元名	課題「2年〇組オリンピックをしよう」		
内容のまとめりごとの目標	○ 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大膽さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 ○ 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 ○ 生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① みんなで学級生活をよりよくするために他者と協働して「2年〇組オリンピック」に取り組むことの意味を理解している。 ② 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	① 学級生活をよりよくするために、問題を見出し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、「2年〇組オリンピック」の準備や活動を仲よく助け合って実践している。	① 学級生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返りながら、自己の考えをもち、役割を専断して「2年〇組オリンピック」の準備や活動に取り組もうとしている。

単元終了時の児童の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)
自分の役割を考え、学級会の話し合いで決まったこととともに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる児童。

単元を通じた課題	本単元で働かせる見方・考え方
よりよいクラスを目指して、あきらめずに頑張り、みんなと協力し合える「2年〇組オリンピック」に取り組もう。	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする。

指導計画と評価計画(事前の活動及び学級会・事後の活動)		評価の観点等
日時	形態	※本誌記事に該当する欄で「具体的評価規準」
〇月〇日 型休み	計画委員会	【知①】(提案カード・観察)
〇月〇日 朝の会	学校 全員	★【知①】(観察) ○ 学級生活をよりよくするために、進んで課題を考えたり、進んで取り組もうとしている。
〇月〇日 型休み	計画委員会	★【知②】(活動計画・観察) ○ 計画委員会の役割や、話し合いの進め方の方法を理解している。
〇月〇日 朝活前	学校 全員	【思①】(学級会ノート)
〇月〇日 型休み	計画	【知①】(観察)

★「単元を通じた課題」のポイント

- 何のために、どのような活動に取り組むのかわかる表現になっていますか
- 本単元の中心となる活動名が入った表現になっていますか
- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

・本単元の終末に行う「2年〇組オリンピック」で、学習したことを生かそうとする姿を想定して書き表した例・子供の姿を思い描く際、目標の三つの柱のうち特に、「学びに向かう力、人間性等」を参考にすることができます。特別活動の第1の目標(総括目標)の(3)「学びに向かう力、人間性等」にあたる部分には、特別活動において重視する三つの視点がすべて含まれているからです。

※第1の目標(3)

自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点を意識した見方・考え方になっていますか
- 「単元を通じた課題」を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

・特別活動で育成したい資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は、相互に関わり合っていて明確に区別されるものではありません。
・特別活動の特質に応じた見方・考え方は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示されています。
・「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、子供たちが自己及び集団の生活や社会に目を向け課題を見いだしたり、各教科等の「見方・考え方」を総合的に働かせながら、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に結び付けて解決方法等について話し合ったりすることです。

学級活動(1)は、学級における集団の生活上の課題を解決するために学級会で話し合い、集団として「合意形成」を図って協働して実践する自発的・自治的な活動です。一方、学級活動(2)(3)は、自己の生活上の課題を解決するために、話し合いを生かして、具体的な解決方法などを子供たち一人一人が「意思決定」して実践する活動です。こうした違いを踏まえて、「単元を通じた課題」を設定します。

【「単元を通じた課題」の例】

- ・「合唱コンクールに向けて学級としての団結力を高め、自主的、自律的に役割を意識して活動に取り組もう。」
- ・「『なりたい3年生』に向けて、職場体験活動での学びをもとに学校生活で今できることを考え、実践していこう。」

国語科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善について

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありませんが、単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるような学習の見通しを立てたり学習したこと振り返りたりして自身の様子や変容をどこに設定するか、学びの深まりを根拠に基づいたために、児童が考えを伸ばしたり深めたりする場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが求められます。

また、児童や学校の実態に応じ、多様な学習活動に当たり基礎となる知識及び技能の習得に課題が重なり、単元のまとまりを見通した学習を行うに児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要です。

2 「言葉による見方・考え方」について（※小学校学習指導要領解説 国語編からの抜粋）

(1) 国語科の学習対象

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。

(2) 言葉による見方・考え方を働かせるとは

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉との関係性を、言葉の意図、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりする。この「対象と言葉、言葉と言葉との関係性を、言葉の意図、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したり」は、言葉で表される語や文章を、たりとやること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものである。

(3) 授業改善を進めるに当たって

このこと（※上記(2)）は、語や文章を理解したり表現したりする際に必要となるものであるため、これまで国語科の授業実践の中で、児童が言葉に着目して学習に取り組むことにより「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が身に付くよう、授業改善の意図、国語科において授業改善を進めるに当たっては、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」といった指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待される。

国語科における学習評価のポイント

1 国語科における評価の観点について

○ 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点	
国語への関心・意欲・態度	
話す・聞くの能力	
書く能力	
読む能力	
言語についての知識・理解・技能	



【新】

評価の観点	
(1) 知識・技能	
(2) 思考・判断・表現	
(3) 主体的に学習に取り組む態度	

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わりながら、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしていることと、言葉のよさをよりよく使おうとしている。

3 単元の目標と言語活動の設定

STEP 1

単元で取り上げる指導事項の確認
年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

STEP 2

単元の目標と言語活動の設定

(1) 「知識及び技能」及び(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

例：(1) 「知識及び技能」の【小学校指導事項 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項オ】「身近なことを表す語句の量を増し、(中略)、語彙を豊かにすること」の文末を「語彙を豊かにすることができるとする」にすることで単元の目標となる。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつ価値 (中略) 思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。

STEP 3

単元の評価規準の設定

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において」と明記し、文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に依りて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、() 内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外にも想定される。

- ①粘り強さ (積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習の調整 (学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点 (知識・技能, 「思考・判断・表現」) において重点とする内容 (特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動 (自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

STEP 4

単元の指導と評価の計画の決定

各単元の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

STEP 5

評価の実際と手立ての想定

それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況 (B) の例, 「努力を要する」状況 (C) への手立てを想定する。

社会

社会科における改訂のポイント

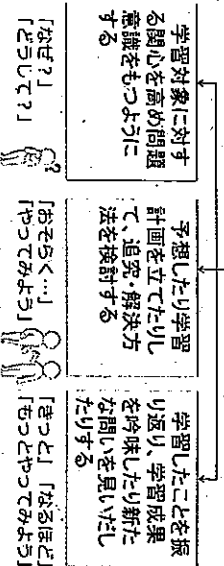
1 「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善について

資質・能力を育成するためには、社会との関わりを意識して、学習の問題を追究・解決する学習を充実する必要があります。その学習過程において「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善、指導方法の不断の見直しが必要であるとされています。また、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と示されています。

【主体的な学びの視点から】

児童が社会的事象から学習問題を見いだし、その解決への見通しをもって取り組むようにする

そのためには・・・



【対話的な学びの視点から】

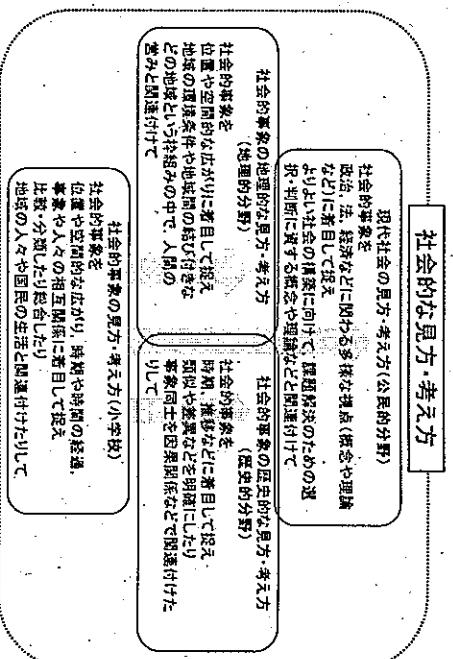
学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話し合いや討論などの活動を一層充実させること

実社会で働く人々から話を聞いたりする活動についても今後一層の充実が求められる

対話的な学びを実現することにより、個々の児童が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多面的に考えることができるようになる

2 「社会的な見方・考え方」について

右の図に示しているように、見方・考え方は、「視点や方法」であり、小学校社会科における「見方・考え方」とは、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経緯、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」と示されています。



社会科における学習評価のポイント

1 社会科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう
- に3観点を整理して示されています。

【旧】

評価の観点
社会的事象への関心・意欲・態度
社会的な思考・判断・表現
観察・資料活用 の技能
社会的事象についての知識・理解

【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度



2 「知識・技能」の評価

- ① 調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか
- ② 調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか

社会科学の学習を通して児童が獲得する知識とは、用語などはもとより、資料など調べて分かる社会的事象の様子についての具体的な知識と、調べてまとめたものを基にして考えて分かる汎用性のある概念的な知識のこと。

また、子供が身に付ける技能とは、調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能などのこと。

3 「思考・判断・表現」の評価

- ① 社会的事象に着目して、問いを見出し、社会的事象の様子について考え表現しているか
- ② 比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか

見方・考え方を働かせて資質・能力の育成を図る観点から、次の場面での評価規準を作成する。

- ① 「～着目して、問いを見出し、～考え表現する」という「追究場面」における評価
- ② 「～比較・関連付け、総合などして、～考えたり、学習したことを基にして、選択・判断したりして表現する」という、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする「解決場面」における評価

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ① 社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか

「予想や学習計画を立て」では、学習問題の追究・解決に向けて見通しをもとうとしている学習状況を捉えるようにする。

「学習を振り返ったり見直したりして」では、問題解決に向けて、自らの学習状況を確認したり、さらに調べたいことを考えようとしたりする学習状況を捉えるようにする。

- ② よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか

「学習したことを社会生活に生かそうとする」では、それまでの学習成果を基に、生活の在り方やこれからの社会の発展について考えようとする学習状況を捉えるようにする。これは「社会的な態度」と捉えることができ、社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断したり、多角的に考えて社会の発展について自分の考えをまとめたりする学習場面で表出されることが多いことが考えられるため、思考・判断・表現との関連性を踏まえて評価規準を設定することが大切である。

算数科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

< 主体的な学び > 問題の解決に向けて見直しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりすること。
 < 対話的な学び > 事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりすることなど。
 < 深い学び > 数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容すること。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見直しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。

また、児童や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要であり、単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる「知識及び技能」の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要です。

2 「数学的な見方・考え方」について

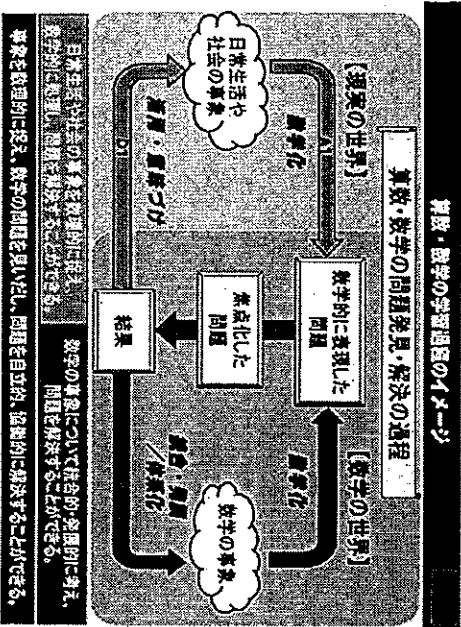
これまで学習指導要領の中で、「数学的な考え方」として教科の目標に位置付けられたり、思考・判断・表現の評価の観点名として用いられたりしてきました。

今回の改訂では、目標において、児童が各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を働かせながら、目標に示す資質・能力の育成を目指すことを示しています。算数科における「数学的な見方・考え方」については「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考え、統合的に考えること」と捉えられています。

「数学的な見方・考え方」は、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事の特徴や本質を捉える視点や、思考の進め方や方向性を意味し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の全てに対して働かせるものです。

3 「数学的活動」について

算数・数学の問題発見・解決の過程は、答申で示された右図に示すように、「日常生活や社会の事象を数学的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する」という問題解決の過程』と『数学の事象について統合的・発展的に捉えて新たな問題を設定し、数学的に処理し、問題を解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする」という問題解決の過程』の、二つの過程が相互に関わり合っ



算数科における学習評価のポイント

1 算数科における評価の観点について

三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう
3観点を整理して示されています。

【旧】

評価の観点
算数への関心・意欲・態度
数学的な考え方
数量や図形についての技能
数量や図形についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

「知識・技能」の評価は、算数科における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況につ
いて評価を行うとともに、それらを既宥の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、
他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしてい
かについて評価するものです。

このような考え方は、現行の評価の観点「数量や図形についての知識・理解」^(注1)や「数量
や図形についての技能」^(注2)においても重視してきたところですが、新学習指導要領に示され
た知識及び技能に関わる目標や内容の規定を踏まえ、算数科の特質に応じた評価方法の工夫改
善を進めることが重要です。

(注1) 数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解していること
(注2) 数量や図形についての数学的な表現や処理にかかると技能を身に付けていること

3 「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」の評価は、算数科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のため
に必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

このような考え方は、現行の「数学的な考え方」^(注3)の観点においても重視してきたところ
ですが、新学習指導要領に示された、算数科における思考力、判断力、表現力等に関わる目標や
内容の規定を踏まえ、算数科の特質に応じた評価方法の工夫改善を進めることが重要です。

(注3) 日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを
深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けていること

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に取り組む態度」の評価は、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格
や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」
に係る評価の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等
を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するな
ど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意志的な側面を評価することが重要
です。

このような考え方は、現行の「算数への関心・意欲・態度」^(注4)の観点でも重視されてきた
ものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。

ここで評価の対象とする学習の調整に関する態度は、必ずしもその学習の調整が「適切に行
われているか」を判断するものではなく、それが算数科における知識及び技能の習得や、思考
力、判断力、表現力等の育成に結びついていない場合には、それらの資質・能力の育成に向け
て児童が適切に学習を調整することができるよう、その実態に応じて教師が学習の進め方を適
切に指導することなどの対応が求められます。

(注4) 数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生
活や学習に活用しようとすること

理科

理科における改訂のポイント

1. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要になってきます。

その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ることになります。

<p><主体的な学び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行っているか ・観察、実験の結果を基に考察を行い、より妥当な考えをつくりだしているか ・自らの学習活動を振り返って意味付けたり、得られた知識や技能を基に、次の問題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を捉えようとしていたりしているか <p><対話的な学び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか ・「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになってきているか ・様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか ・さらに、新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているか

2 「理科の見方・考え方」について

(1) 見方：自然の事物・現象をどのような視点で捉えるか

	領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
見方	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として質的・体系的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として基通性・多様性の視点で捉える	自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
	原因と結果、部分と全体、定性と定量 など			

「見方」は、それぞれの領域における特徴的な視点として整理することができます。ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれ領域固有のものではなく、その強弱はあるものの、他の領域においても用いられる視点であることや、これら以外にも、理科だけでなく様々な場面で用いられる原因と結果をはじめとして、部分と全体、定性と定量などといった視点もすることに留意する必要があります。

(2) 考え方：どのような考え方で思考していくか

	領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
考え方	比較、関係付け、条件制御、多面的に考えること など			

児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなどといった考え方を「考え方」として整理することができます。

「見方・考え方」は、問題解決の活動を通して育成を目指す資質・能力としての「知識」や「思考力、判断力、表現力等」とは異なることに留意が必要です。

理科における学習評価のポイント

- 1 理科における評価の観点について
 ○ 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう
 に3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点	
自然事象への関心・意欲・態度	
科学的な思考・表現	
観察・実験の技能	
自然事象についての知識・理解	

【新】

評価の観点	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	



観点別学習状況の評価を行うに当たっては、学習指導要領の目標の規定を踏まえ、「評価の観点及びその趣旨」を参考に設定することになります。

【参考】改善等通知 別紙4 評価の観点及びその趣旨】／小学校理科
 理科の学習指導要領の目標の規定を踏まえ、観点別学習状況調査の評価の対象とするものについて整理したものです。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣	自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	自然の事物：現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。	自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

2 「知識・技能」の評価

理科における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用でききる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

知識及び技能

- 自然事象に対する基本的な概念や性質、規則性の理解
- 科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基礎的な技能（安全への配慮、器具などの操作、測定の方法、データの記録等）

3 「思考・判断・表現」の評価

理科の知識及び技能を活用して課題を解決するための必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

※右表は、主に育てたい（力を入れて育成したい）問題解決の力を学年ごとに示しており、評価にも関連する部分になります。

思考力 判断力 表現力等

（各学年で主に育てたい力）

- 3年：差異点や共通点を基に、問題を見いだす力
- 4年：既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力
- 5年：予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力
- 6年：よりの妥当な考えをつくりだす力

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするため、自ら学習状況などを把握し、学習を進め方ながら、学習錯誤など自らどうするかという意思的な側面を評価します。

※「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として、観点別評価を通じて見取ることができず、この部分として評価は示されません。②「観点別評価」では示されませんが、個人内評価を通じて見取る部分があります。

学びに向かう力、人間性等

- 生物を愛護する態度、生命を尊重する態度
- 意欲的に自然の事物、現象に関わろうとする態度
- 粘り強く問題解決しようとする態度
- 他者と関わりながら問題解決しようとする態度
- 学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度

上記の「生物を愛護する態度、生命を尊重する態度」が、②「観点別評価」や評定にはなじまない、個人内評価を通じて見取る部分になります。

生活

生活科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

(1) 生活科の学習の特質

ア 児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習活動にすること。

→例えば・・・人、社会、自然との出会わせ方を工夫する

思いや願いがさらに膨らむような学習活動を展開する

イ 児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、本来一体となっている人や社会、自然と身体を通して直接関わりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行うことを重視すること。

→いたずらに学習の場や対象を広げるのではなく、一つ一つにじっくりと関わったり、繰り返し関わったりすることのできる学習活動が大切

ウ 活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげること。

→多様な児童の発言やしぐさを丁寧に見取り、指導に生かすことが大切
尋ね返し、問いかける、共感するなど

エ 表現したり、行爲したりすることを通して、働きかける対象についての気付くとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにすること。

→関わる対象への気付きが生まれることが大切
一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付くことを大切に

(2) 授業改善の視点例

- 自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- 話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
- 学びの深まりを作り出すために、児童が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるか

2 「生活科の見方・考え方」について

(1) 身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと

ア 生活科における見方・考え方とは、身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることです。

イ 他教科等と異なり「見方・考え方を働かせ」とせず「生かし」としているのは、幼児期における未分化な学習との接続という観点からです。

3 「気付きの質を高めること」について

【気付きとは】

・ 対象に対する一人一人の認識

- ・児童の主體的な活動によって生まれるもの
- ・知的な側面だけではなく、情意的な側面も含まれる
- ・あれっ!「どうして」「なるほど」などのように心の動きを伴って気付くもの
- ・気付きは、確かな認識へとつながるもの

【気付きの質が高まるとは】

- ・無自覚だった気付きが自覚される
- ・個別の気付きが関連付けられる
- ・自分自身についての気付きが生まれる

生活科における学習評価のポイント

1 生活科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を自指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう
に3観点を整理して示されています。

【旧】

評価の観点
生活への関心・意欲・態度
活動や体験についての思考・表現
身近な環境や自分についての気付き



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主體的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

評価するに当たっては、①気付きが自覚されること、②個別の気付きが相互に関連付くこと、③対象のみならず自分自身についての気付きが生まれること、を気付きの質の高まりとしてみとることが大切です。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要があります。

3 「思考・判断・表現」の評価

評価するに当たっては、①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要があります。

4 「主體的に学習に取り組む態度」の評価

評価するに当たっては、

- ① 「ねばり強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ② 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ③ 「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し、安定的に行おうとしていること
などを踏まえる必要があります。

小学校 音楽

音楽科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る際には、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ることが重要です。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりの中で、以下の視点で授業改善を進めること
- ア 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
 - イ 対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
 - ウ 学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか
- (2) 題材のまとまりを見通した学習を行うに当たって
- ア 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの指導の工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが必要。

2 「音楽的な見方・考え方」について

「音楽的な見方・考え方」

児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその動きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えること

※音楽科における学びの深まりの鍵となるものです。

※学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の手立てを工夫することが重要です。

3 音楽科の特質に応じた言語活動の充実

他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを考えたりしていく学習の充実を図る観点から、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすることが必要です。

気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに「交流」
音楽の構造について「共有」
感じ取ったことに「共感」

客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に音楽科としての学習の意味があります。

音楽科における学習評価のポイント

1 音楽科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点を整理して示されています。

【旧】

評価の観点
音楽への関心・意欲・態度
音楽表現の創意工夫
音楽表現の技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

「知識」では、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しているかどうかを評価します。「技能」では、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている状態を評価します。

※知識と技能を個別に評価したり、一体的に評価したりするケースが想定されます。

〈評価方法例〉 領域：「A表現」（歌唱分野）

「知識」：歌唱の活動において、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いているかについて、その学習状況を評価する。〈発言内容・ワークシート〉

「技能」：学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っているかを評価する。〈演奏聴取〉

3 「思考・判断・表現」の評価

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしているかどうかを評価します。

〈評価方法例〉 領域：「A表現」（音楽づくり分野）

・音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについての思いや意図をもっているかを評価する。〈発言内容・ワークシート〉

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかどうかという側面を評価します。

※その際、2つの側面を評価することが求められます。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

〈評価方法例〉 領域：「B鑑賞」

・祭り囃子の体験を振り返り、音楽の特徴について話し合う場面では、地域の祭り囃子を紹介するという目的意識をもったり、これまでの学習を生かしたりして鑑賞の学習に取り組もうとしたりしているかについて、発言の内容、観察（表情・行動）から評価する。〈観察〉

・授業の終末に、これまでの学習の振り返りを書く場面では、友達から学ぼうとしていたか、聴き方が深まったことを自覚できているかについて、本時の振り返りの記述から評価する。

〈ワークシート〉

※ 「主体的に学習に取り組む態度」の見取りのポイント…

題材を通して継続的に見取っていくこと、観察を中心に発言やワークシートの記述も加味していくこと、知識などの評価との関連を図ること、評価を記録に残す際には題材終了時の姿で最終的に判断すること、「自身の姿容を自覚できる場面」の設定 など

【参考資料】

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校音楽）

図画工作

画工作科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

- (1) 効果的な学習の展開について
- 「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの中で実現していきます。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」設定のポイント
- 学習の見通しや、振り返りで自身の学びや変容を自覚できる場面の設定。
 - 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定。
 - 児童が考える場面と教師が教える場面の設定。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」のために
- 「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせる。
 - 自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につなげられるようにする。
 - 活動や作品から考えたことや感じたこと、思ったことを伝えるなどの言語活動の充実させる。
 - 育成を目指す資質・能力を明確にし、つくり、つくりかえ、つくるという学習過程を重視する。

2 「造形的な見方・考え方」について

造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。



3 「図画工作的活動」について

- 感性や想像力を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるような学習活動。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深めることができるような学習活動。
- 「A表現」及び「B鑑賞」のいずれの活動においても〔共通事項〕が深く関わり、知識や思考力・判断力・表現力が豊かに育成され、社会や美生活の中で生きて働く力にしてくれるような学習活動。

図画工作科における学習評価のポイント

1 図画工作科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
造形への関心・意欲・態度
発想や構想の能力
創造的な技能
鑑賞の能力

【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度



2 「知識・技能」の評価

(1) 「知識」の評価（[共通事項]アの指導）

形や色などの名前を覚えるような知識のみではなく、児童が、自分の感覚や行爲を通して理解したものだ。例えば、「形や色など」、「形や色の感じ」、「形や色などの造形的な特徴」などが活用できる。「知識」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されたりしているかを評価します。そこで、作品のみからの評価は難しく、活動の様子を観察して評価することが重要です。

(2) 「技能」の評価（従来の「創造的な技能」）

材料や用具を創意工夫して表す力、見通しを持って表す力を評価する。彫刻刀等を上手に使いこなす力ではないことに留意が必要です。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 造形遊びにおいて、材料や場所などを基に自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付くことや、形や色などを状況に合わせてどのように活動するか考えているか。

- 絵や立体、工作において、感じたことや材料などを基に自分のイメージをもちながら、表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えてどのように表すか考えたりしているか。
 - 鑑賞において、自分のイメージをもちながら、作品や製作の過程、生活の中の造形などによる美しさ、表し方について感じ取るなど、自分の見方や感じ方を広げているか。
- ※ 活動ごとに「思考・判断・表現」は何を評価すればよいか、十分な理解が必要です。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」

ア 「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する資質・能力の獲得に向け、粘り強い取組を行おうとしている様子を評価します。

イ 「知識・技能」「思考・判断・表現」に関する資質・能力獲得に向け、自らの学習を調整しようとしている様子を評価します。

- (2) 観点別学習状況の評価にはなじまない部分
感性や思いやり等については個人内評価とし、数値として評価しません。しかしながら、図画工作の中では大切な部分であり、コメント等で児童に適切なフィードバックを行うことが重要です。

5 指導に相当する授業時数

- 各学年の内容において、(1)のイ及び(2)のイの指導に相当する授業時数については、工作に表すことの内容に相当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に相当する授業時数とおおよそしくなるように計画することになります。
- 「A表現」及び「B鑑賞」全体の内容の授業時数の配分については、各内容を十分に関連させ、内容に偏りの内容に全体の配当を考えて計画を立てるようにします。

家庭

家庭科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

家庭科の特質に応じた「**主体的な学び**」とは、題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学び

「**対話的な学び**」とは、児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学び

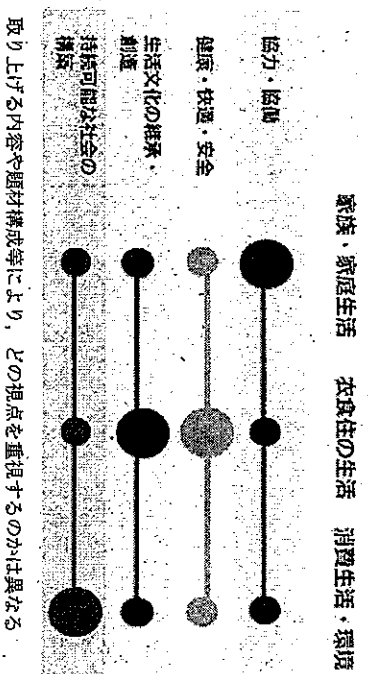
「**深い学び**」とは、児童が日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学び

このような学びを通して、日常生活に必要な事実的な知識が概念化されて質的に高まったり、技能の定着が図られたりします。また、このような学びの中で「主体的な学び」や「対話的な学び」を充実させることによって、家庭科が目指す「思考力、判断力、表現力等」も豊かなものとなり、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が育まれます。

2 「生活の営みに係る見方・考え方」について

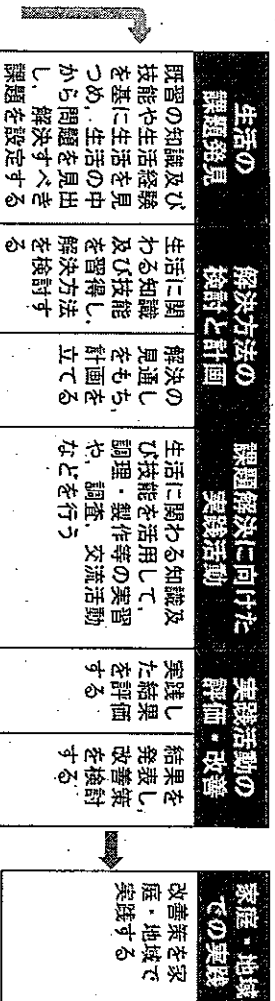
家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活

事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるように、よりよい生活を営むために工夫することを示したものです。



3 「家庭科の学習過程」について

一連の学習過程を通して、児童が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようになります。また、2学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

家庭科における学習評価のポイント

1 家庭科における評価の観点について

○3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう
に3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
家庭生活への関心・意欲・態度
生活を創意工夫する能力
生活の技能
家庭生活についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

【小学校家庭 評価の観点及びその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組みたり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

2 「知識・技能」の評価

○ 「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を、「～を（～について）理解している」、「～を（～について）理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成します。

※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。

3 「思考・判断・表現」の評価

○ 「思考・判断・表現」については、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになります。

具体的には、

- ① 日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を発見し、課題を設定している」
 - ② 課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力については、その文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
 - ③ 課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
 - ④ 計画や実践について評価・改善する際に、考えたことを分かりやすく表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している」
- として、評価規準を設定することができます。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○ 「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項及びイと教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。

具体的には、

- ① 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うおうとする側面）
 - ② 自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）
 - ③ 実践しようとする態度
- を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成します。

体育

体育科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善について

(1) 主体的な学びについて

ア 以下の想定される子供の姿 (例) をイメージして授業改善に臨みます。

(例) ・学ぶことに興味や関心をもつ。・見通しをもって粘り強く取り組み。・自らの課題を修正したり新たな課題を設定したりしている。・学習をまとめ振り返り、次の学習につなげている。・課題の解決に向けて粘り強く取り組み。・運動や健康について、将来を見通したり振り返ったりしている。

イ 以下の授業改善の方法とその視点 (例) をもとに、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定します。

(例)

・興味や関心の喚起 ・学習の見通しの提示 ・課題や課題解決のための活動方法等の提示
・学習のまとめや振り返りの提示 ・学びについての成果の確認

(2) 対話的な学びについて

ア 以下の想定される子供の姿 (例) をイメージして授業改善に臨みます。

(例)

・対話を通して自己の思考を広げたり、深めたりしている。・実社会の人々が課題を解決する姿を調べたり、話を聞いたりし、自らの考えを広めている。・対話の中で、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものにしたりしている。・子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図っている。

イ 以下の授業改善の方法とその視点 (例) をもとに、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定します。

(例)

・表現力の伸長 ・必然性のある対話 ・新たな気付きや動機付け

(3) 深い学びについて

ア 想定される子供の姿 (例) をイメージして授業改善に臨みます。

(例)

・課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、考えを深めている。・自ら問いを見いだし、課題の追求、課題の解決を行う探究の過程に取り組んでいる。・精査した情報をもとに自分の考えを形成し、目的や場面、状況等にに応じて伝え合っている。・感性を働かせて、思いや考えをもとに、豊かに意味や価値を創造している。

イ 授業改善の方法とその視点 (例)

以下の視点 (例) をもとに、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面を効果的に設定します。

(例)

・試行錯誤の促し方 ・思考の深まり方 ・体育の見方・考え方の醸成

2 「体育科における見方・考え方」について

(1) 体育の見方・考え方

運動やスポーツは、特性に応じた楽しさや喜びがあることと体力の向上につながっていることに着目するとともに「すること」だけでなく「みること、支えること、知ること」等、自己の適性に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図しています。

(2) 保健の見方・考え方

特に身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けることを意図しています。

道徳科における学習評価のポイント

1 評価の基本的態度

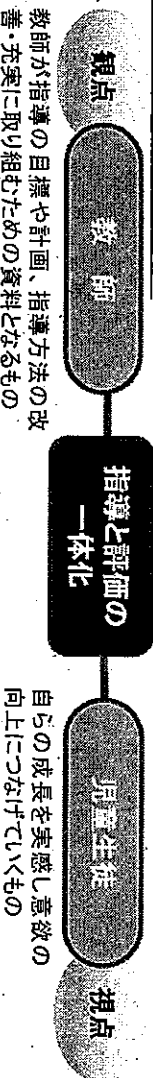
道徳科のねらいは、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことです。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質です。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではありません。しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められます。

2 道徳科の評価の在り方

- 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

3 道徳科における評価の意義



指導に生かす評価の観点とは？

【道徳科の授業に係る評価の観点】

教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが大切であり、授業の評価では、改善にたなげる過程を一層重視する必要があります。

【評価の観点 (例)】

- 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の(人間としての)生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- 発問は、児童(生徒)が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確に選ばれていたか。
- 児童(生徒)の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童(生徒)の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- 特に配慮を要する児童(生徒)に適切に対応していたか。

指導と評価の一体化

児童生徒
視点

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

児童生徒の成長につながる評価の観点とは？

道徳科の児童生徒の評価に当たっては、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、次の点を特に重視する必要があります。

- ① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価します。

【道徳科の学習状況 (学びの姿) (例)】

- ・ 道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・ 道徳価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・ 授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。

外国語科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

学習指導要領では、「目的や場面、状況などに応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考、判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されています。

〈主体的な学び〉 単元の中で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定し、学習の見通しを立ててたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、児童が興味関心を持つことのできる題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりして学習への動機付けを図ること。

〈対話的な学び〉 単元の中で、他者と情報や考えを伝え合う活動を設け、他者を尊重しながら対話を図る活動を設定したり、他者の考えに触れて自分の考えを振り返ったり深めたりするように促すこと。

〈深い学び〉 具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

このため、授業では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、児童にとって必然性のある活動を効果的に設計することが大切です。また、① 自分自身のことを伝え合わせること、② 伝え合う目的があること、③ 伝え合う内容が互いにとって未知であること、④ ①～③の条件を具備した内容を伝え合う中で、言語材料の「意味」と「(当該言語材料が使われる)場面」と「(当該言語材料を使用する)目的」を結び付けることができるようにすることが大切です。

2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられています。

3 外国語科における「言語活動」について

外国語科における「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」などの活動を意味します。言語材料について理解したり練習したりする活動は「指導」とされ「言語活動」とは区別されています。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されます。練習は、言語活動を成立させるために重要ですが、練習で終わることのないように留意する必要があります。

道徳科における改訂のポイント

1 「考え、議論する道徳」への転換

「道徳の時間」は、これまで学校における道徳教育の「要」としての役割を果たし、成果を上げていた学校がある一方で、次のような課題も指摘されています。

- ・ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
- ・ 他教科に比べて軽んじられていること
- ・ 発達の段階を踏まえた内容や指導方法となっていない
- ・ 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われている

このような状況を踏まえて行われた「特別の教科」化は、多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質であるという認識に立ち、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」へと転換を図るものです。

2 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善

道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、「考え、議論する道徳」を実現することが「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられます。道徳科における学習・指導改善における工夫や留意すべき点については、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（H28.7.22）や新学習指導要領及び解説等を踏まえつつ、中央教育審議会答申（H28.12.21）において、「主体的・対話的で深い学び」の観点に沿って次のように整理（一部抜粋）されています。

「主体的な学び」の観点	「対話的な学び」の観点	「深い学び」の観点
児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫すること。	子供同士の協働、教員や地域のひととの対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通して、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすること。	道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とすること。

【注】 道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであるため、様々な工夫や留意点を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの観点に分けて考えるのではなく、これらの観点を手掛かりに、児童生徒の発達段階や特性、指導内容などに応じて適切で効果的な方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要です。

3 道徳科における「見方・考え方」

「考え・議論する道徳」を目指す新学習指導要領の改訂の趣旨に照らして考えると、道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は、道徳科の目標に示されている「様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方について考えること（※欄内中抜）」であると言えます。

「見方・考え方」とは、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」のことであり、それぞれの教科等で重視される学習課程といえます。児童生徒にとっては「見方・考え方を働かせる」とは、各教科等で重視される学習活動を行うということになります。

道徳科においては、その学習活動が道徳科の目標に示されており、その活動を充実させることが、道徳科が目指す「よりよく生きるための道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）」を育てることにつながると考えられます。

体育科における学習評価のポイント

～ 内容のまとまり：第1学年及び第2学年「B 器械・器具を使った運動遊び」を例に～

1 体育科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

評価の観点
関心・意欲・態度
思考・判断
技能
知識・理解



評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

- 「知識」については、学習指導要領の内容の「(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。」の「その行い方を知る」と示している部分が該当し、評価規程が「～の行い方を知っている。」として作成することができます。
低学年については直感や経験に基づくと知識など、言葉や文章ばかりでなく動きなどで見取することもでき、中・高学年においてはある程度の言葉や文章で表現したことについて見取ります。
- 「技能」については、「その動きを身に付ける」と示している部分が該当し、評価規程は、「～の動きを身に付けている。」として作成することができます。
運動の特性に応じた課題やその解決方法に関する技能（動き）を既存の知識と関連付け、「運動の行い方がわかってできた。」といった技能として身に付けているかを見取ります。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 「思考・判断」については、学習指導要領の内容の「(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。」の「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫する」と示している部分が該当し、評価規程は、「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。」として作成することができます。
動きや技のポイントや自己の行い方についての課題を見付け、課題に応じて運動の行い方や練習の仕方などを選んだり、応用したりしているかを見取ります。
- 「表現」については、「考えたことを友達に伝えること。」と示している部分が該当し、評価規程は、「考えたことを友達に伝えている。」として作成することができます。
言葉や文章だけでなく、身振りや拍手などの動作によって、仲間や教師に伝えている姿についても表現と捉えて見取ります。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の「(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。」の全てが該当し、評価規程は、「運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とも仲良く運動をしようとしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。」として作成することができます。
愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生（中・高学年のみ）、健康・安全の各項目に分けて設定し、例えば公正・協力に関する態度については、友達をよりよく支えようとしているか、責任・参画に関する態度については、グループで生じる自分の役割を十分に果たそうとしている姿で見取ります。

上記に従い作成した内容のまとまりごとの評価規程を基に、より具体的に評価できるように単元（例：マットを使った運動遊びなど）の評価規程を作成していきます。（※指導構想案を参照）

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

「探究的な学習の過程」をより一層質的に高めていくこと。

今回の学習指導要領改訂で重視される「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、子供の学びとして一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものです。それぞれのバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められます。

(1) 「主体的な学び」の視点

学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び。課題設定と振り返りが重要です。

○ 課題設定：児童が自分の事として課題を設定します。

○ 振り返り：自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていきます。

(2) 「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び。異なる多様な他者と力を合わせて課題解決に向かうことが欠かせません。

○ 異なる多様な他者と対話することの三つの価値

- ・他者への説明による情報としての知識や技能の構造化
- ・他者からの多様な情報収集
- ・他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待など

○ 協働的な学習

- ・その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要です。
- ・一人一人が学習の見通しをもったり、振り返ったりすることが求められます。

○ 一人ですっきりと自己の中で対話すること

○ 先人の考えなどと文献で対話すること

○ 離れた場所を ICT 機器などでつないで対話すること など

(3) 「深い学び」の視点

探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められます。

○ 探究的な学習の過程では、各教科等で身に付けた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を活用・発揮する場面を何度も生み出すことが期待できます。

→ 各教科等で身に付けた「知識及び技能」は関連付けられて概念化

「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結びついて汎用的なものとなり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できます。

2 「総合的な学習の時間における見方・考え方」について

探究的な見方・考え方：各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方

【探究的な見方・考え方に含まれる二つの要素】

- (1) 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせる
- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用します。
 - 扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、児童が意識的に活用できるようにすることが大事です。
- (2) 総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせる
- 特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えることです。
 - 課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方です。

総合的な学習の時間における学習評価のポイント

1 総合的な学習の時間における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】(例)

評価の観点
よりよく問題を解決する資質や能力
学び方やものの考え方
主体的、創造的、協同的に取り組む態度
自己の生き方



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

※総合的な学習の時間の目標(第1の目標)を踏まえた評価の観点の例

2 「知識・技能」の評価

- (1) 概念
具体的な知識や個別的な技能が主体的・協働的な課題解決を通して相互に関連付けられ、統合されることにより、概念として形成されることを評価します。
- (2) 技能
探究的な学習の過程の各学習活動で用いる個別的な手順の実行に関する技能です。
例「・・・収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。」など

3 「思考・判断・表現」の評価

課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ・表現 という探究の過程における各学習活動の目的に即して、「知識や技能」を適切に活用する姿やその過程に着目します。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- (1) 粘り強い取組を行おうとする側面
継続的に自らの問いや学びの意義を見だし、課題解決に取り組もうとする態度に表れます。
- (2) 粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
他者との協働を通して進める課題解決の過程で自らの学びを振り返りながら、その後の学習活動に見通しをもって、自ら計画を立てたり、適切な方法を選択したりして取り組む姿として表れます。

特別活動

特別活動における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

特別活動の各活動及び学校行事を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善が求められます。学習指導要領の特別活動の章には、「主体的・対話的で深い学び」を実現した児童生徒の姿が示されています。

○ 特別活動における「主体的な学び」の実現とは

学級や学校の実態、自己の現状に即して自ら課題を見だし、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、生活をよりよくしようとしていくことです。

○ 特別活動における「対話的な学び」の実現とは

生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする話し合いの中で様々な意見に触れ、考えを広げたり多面的・多角的に考えたりすることです。

○ 特別活動における「深い学び」の実現とは

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、問題の発見、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を繰り返す中で、各教科等の「見方・考え方」を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び自己の問題の解決に活用していくことです。

2 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」について

今回の改訂では、特別活動の特質に応じた見方・考え方として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることとされました。「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」とは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、問題を捉え、よりよい人間関係の形成、集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に結びつけることです。この中に、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点がしっかりと入っています。具体的には次のようなことが考えられます。

○ 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合おうとする見方・考え方

○ 互いのよさを生かすような見方・考え方

○ よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする見方・考え方

○ 集団での関わりを通して、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力を養うとともに、自己の在り方生き方を考え設計しようとする見方・考え方 など

3 特別活動改訂の要点

○ 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という3つの視点を手掛かりとしながら、資質・能力の三つの柱に沿って目標が整理されました。

○ 学級活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点から的小・中・高等学校のつながりが明確になりました。

○ 中学校において、小学校の経験を生かして取り組むよう学級活動(1)の内容を重視する視点から、学級活動(2)(3)の項目が整理されました。

特別活動における学習評価のポイント

1 特別活動の学習評価を行うにあたっての基本的な考え方

- 特別活動においては、学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしています。
- 評価体制を確立し、学校全体で共通理解を図ります。
- 子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価します。
- 評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるように工夫改善を図ります。

2 評価の手順

- ① 指導と評価の計画の作成：特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成します。
- ② 評価のための基礎資料の収集：評価に基づいて、評価のための基礎資料を収集します。
- ③ 評価の実施：収集した資料を各学校で定めた所定の手続きに従って多面的・総合的に判断し、評価を行います。
- ④ 評価体制の改善：評価結果を各学校における指導や評価体制の改善に生かします。

3 評価体制の確立

特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画に基づいて行います。

学級活動において

主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの児童の活動の様子から、積極的によさや可能性を見とるようにします。

児童会活動、クラブ活動、学校行事において

評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手に届き、活用されるようにします。

学級担任

個々の児童の活動状況について、学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にします。

学級担任以外の教師

4 指導と評価の計画の作成

各活動・学校行事ごとの評価規準の作成

各学校で評価規準を設定する際には、学級活動(1)(2)(3)の低・中・高学年の発達段階、児童会活動、クラブ活動、各学校行事について、観点ごとに設定することが考えられます。

「目指す児童の姿」の設定

1 単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられます。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられます。

5 多面的・総合的な評価の工夫

- 活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めます。
- 児童のよさを多面的・総合的に評価します。
- 児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題が持てるようにする評価を進めます。

小学校第6学年 国語科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	作品の魅力を推薦カードに書いて伝えよう「海のいのち」 (発行者名「教科書名」p.00~001)		
単元の目標	(1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 【知識及び技能】(1)才 (2) 文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)才 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)才 「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	①語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(1) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。(才)
	思考・判断・表現	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(1) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。(才)	①進んで登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもつて、考えたことを推薦カードにまとめようとしている。
単元終了時の児童の姿			
物語を読むときに表現の工夫など、言葉に着目して場面の様子や心情の変化を読み、作品の魅力を伝えようとする児童			
単元を通じた学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。		登場人物の行動や会話、情景描写などの言葉に意識的に着目し、心情を考えることを通じて言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画 (1.0時間取扱いは、本時7/1.0)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★1記録に改ず評価の場面での評価規準
一	2	○ 作品の魅力を推薦カードに書く体験を通して、推薦する言語活動を行うために必要な学習について見通しをもつ。 ○ 単元の学習計画を立て、物語の構成や内容を確かめる。	【知①】(ワークシート) 【思①】(ワークシート)
二	6	○ 父の人物像から、太一の心情を読む。 ○ 与吉じいさの人物像から太一の心情を読む。 ○ 母の会話から太一の心情を読む。 ○ クエの描写から太一の心情を読む。 ○ 太一の表情の描写から太一の心情の移り変わりについて読む。(本時) ○ あと語りの場面の効果について読む。	【知①】(ワークシート) 【知②】(ワークシート) 【思①】(ワークシート・発言) 【思②】(ワークシート・発言)
三	2	○ 作品の魅力を伝える推薦カードを書き、相手の求めに応じた推薦カードを紹介し合う。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。	【思②】(ワークシート) 【知②】(ワークシート) 【思①】(ワークシート)

2 単元における系統及び児童の実態

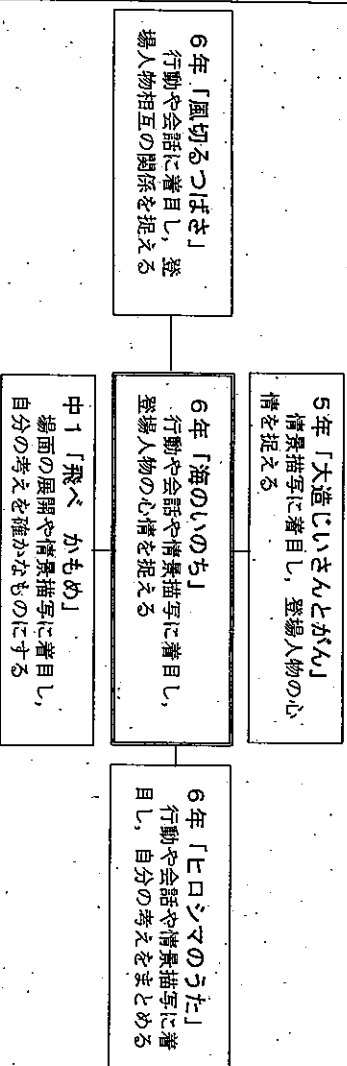
学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)

小学校学習指導要領第5学年及び第6学年
 [知識及び技能] (1)言葉の特徴や使い方に關する事項
 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」

教材 題材の価値

本教材は、物語の構成がはつきりしており、直接的に心情を描写した叙述が少なく、会話文や動作の描写、情景描写などから暗示的に示されている心情などを読み取っていくことに適している。

本単元における系統 横軸を当該学年での他領域とのつながり、縦軸を他学年での同領域のつながり)



児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(HO年全国学力・学習状況調査) (%)		概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)
調査内容			
語句と語句との関係を理解することができる。		—	—
心情などについて、描写を基に捉えることができる。		—	—
考えたことを推薦カードにまとめることができる。		—	—

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく			
	まあまあ	あまり	ない	(%)
自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—
課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	—	—
推薦するときには、相手の求めに応じて推薦していたと思う。	—	—	—	—

■考察

(資質・能力に関して) 語句と語句との関係を理解することは概ねできているものの、文脈に沿った理解については、今後も重ねて指導が必要である。描写を基に心情を読むことは不十分な状況にあるため、一つ一つの描写に対して、語句の理解を確認するとともに、その描写から想像される心情を対話によって他者と確認し合う学習が必要である。推薦するという言語活動の経験はあるものの、相手の求めに応じて推薦するという意識はあまり高くなく、相手意識を持たせる必要がある。

(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、課題の解決に向けて、自分から取り組むなど、主体的な姿勢がある一方で、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、あまりできていない。対話や交流の場面があることによって、自分の考えがどのように変化したかを実感する学習が必要である。

3 指導に当たった際の留意点

- 作品の魅力や推薦文にまとめ、伝え合うという目的意識・相手意識を明確にすることによって、主体的に学ぶことができるようにする。
- 推薦文を書くために、作品の魅力を見つめるポイントを明確に示し、それが読みの手がかりとなるように工夫する。
- 単元の導入時に推薦カードを書く活動を体験する場面を設けることで、児童が言語活動の遂行に対する課題意識を持てるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 推薦カードにまとめるために、太一の様子の描写について着目し、瀬の主を殺したい気持ちから、海のいのちを大切にすることに変わった太一の心情の移り変わりを読むことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目標・意図・内容・方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ ①表現の工夫の意図など、これまでの作者の書きぶりを振り返る。 ◇これまでは色彩描写により登場人物の様子を詳しく表す書きぶりを学習したな。</p> <p>【めあて】 太一の様子を表した描写から、太一の心情の移り変わりを読もう。</p> <p>【学習課題】 太一の表情の変化に着目すると、太一の心情はどのような移り変わったのだろうか。</p>	<p>○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。</p> <p>○山場の場面の太一の描写について、挿絵を基にどのような表情なのかを問う。</p> <p>○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉の理解について、近隣の児童同士で確認する。</p>
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する</p> <p>①自身の考えを持つ。 ◇表情が「泣きそう」から「えがお」に変わっているから、最後は心情が変わっているようだ。</p> <p>②他者との対話により、考えをまとめる。 ◇「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きつと太一は、ここで「海の命」を守ることによって気がつくことができたと思う。 ◇「作った」ということは、さっきの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。</p> <p>【期待される学びの姿】 太一の表情の描写に着目し、表情の変化に沿って、海のいのちを大切にしようとして移り変わる心情を想像している。</p>	<p>○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉を取り出し、それぞれにどのような心情が表されているかについて自分の考えを書くようにし、移り変わりを捉えやすくする。</p> <p>【具体的評価規準】 息① ○太一自身の描写から、太一の心情の移り変わりを捉えている。 (方法：ノート・発言)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○場面の最初と最後の心情の違いを確かめ、場面の途中でどのような心情になったのかを個別に問い、考えを確かめていく。</p>
終末	10分	<p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対応する振り返りをする。</p> <p>【まとめ】 太一の心情は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て) 海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。</p> <p>◇今日も作者の工夫した書きぶりから、作者が考えを持って工夫していることがよく分かった。物語の表現の工夫についても着目して、ほかの作品も読んでみたい。</p>	<p>○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめ。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有する。 ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に挙げる。</p>

【板書計画】

<p>【海のいのち】(物語文)</p> <p>※元の 単元の 学習課題</p> <p>「海のいのち」の作品の魅力を推薦 カードにまとめ、伝え合おう。</p> <p>立松 和平</p>	<p>※これまで読み取ったこと</p> <p>【父の人物像から】 【与吉いさの人物像から】 【母の空話から】 【クエの描写から】</p> <p>太一の様子を羨した描写から、太一の心情の 移り変わりを語る。</p>	<p>本時の学習課題</p> <p>「太一の感情の変化」によって、太一の心情はどのように 移り変わったのだろうか？」</p>	<p>※山場の場面では</p> <p>『太一の感情の描写』から読む 「ふことほほえみ」 「泣きそう」 「えがおを作った」 ※自分の考えをまとめる ・感情の変化が「泣きそう」から「えがお」 に変わっている。 ・悔しかつたはず、でも、笑顔になっている から、最後は心情が変わっているようだ。</p>	<p>発表方針</p>	<p>クエの 絵</p>	<p>太一の 絵</p>	<p>交流</p>	<p>まとめ</p> <p>太一の心情は、瀬の手を殺し、父の敵を討ちたい 気持ちから、(瀬の)手の姿を見て海のいのちを 大切にしようとする気持ちに変わった。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------	------------------	------------------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

例 デジタル教科書にある挿絵を電子黒板で拡大提示し、課題に迫る読み取りのイメージを共有する。

<p>【提示①】</p> <p>本時の「山場の場面」 を共有できるように、 この挿絵を拡大 提示する。</p>	<p>クエの絵</p>	<p>【提示②】</p> <p>本時の課題解決のキ ーワードなる、「太一 の感情の描写」に迫れ るようにこの挿絵を 拡大提示する。</p>	<p>太一の絵</p>
---------------------------------------------------------------------	-------------	---------------------------------------------------------------------------------------	-------------

この挿絵を、一人一人の端末 (タブレットパソコン) に配付し、文章から読み取った自分の考えを直接書き込み送信することで、全体共有の場において、瞬時に電子黒板に拡大提示して、共有化を図ることができる。

※単元を通じた課題である「『海のいのち』の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。」による作品づくりについては、伝え合う際に、共有化が図れるように、一人一人の端末 (タブレットパソコン) で行う。

【適用問題等の工夫】

単元の終末では、これまで身に付けたことを生かして次の学習に取り組む

<p>例 1</p> <p>※<u>語句と語句との関係</u>、<u>語句の構成や変化</u>についての定着状況の確認</p> <p>【全国学力・学習状況調査】 平成〇〇年度 大問〇</p> <p>【熊本県学力調査「ゆうちやれんじ」】 平成〇〇年度 大問〇</p> <p>【課題克服プリント】 平成〇〇年度提供 問題〇</p>	<p>例 2</p> <p>※本単元で動かさせた見方・考え方を生かして立松和平の他の作品や同じようなテーマを扱った物語を読み感想を書くことなども考えられる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

第3学年 社会科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	「はたらく人とわたしたちのくらし」		
単元の目標	(1) スーパーマーケットやコンビニエンスストアの仕事について、販売の仕方や他地域との関わり、他地域や外国との関わりなどを調べ、販売に携わる人々は、消費者の願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して販売していることを理解することができる。 (2) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。 (3) 主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
販売に関する仕事は、消費者の多様な願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりについて、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、販売に携わっている人々の仕事を理解している。	①販売の仕事は、消費者の多様な願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりについて、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、販売に携わっている人々の仕事を理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、主体的に問題解決しようとしている。
調べたことを白地図や文などにより、販売の仕事を踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。	②調べたことを白地図や文などにより、販売の仕事を踏まえ、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。	②販売の仕事と消費者の願いを関連付けて販売の仕事を見られる工夫を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	②地域の人の販売の仕事と、自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
販売に関する仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるように工夫して行われていることを理解し、買い物をするときなど地域の消費者の一人として社会を見ようとする児童	単元を通じた学習課題	本単元で働かせる見方・考え方	販売の仕事に携わる人々と消費者との相互関係に着目して、販売の工夫について比較・分類したり、地域の人々の生活と関連付けたりすること。
地域のお店ではたらく人の仕事の様子や工夫を調べて、仕事とわたしたちの生活とのつながりを考えよう。	指導計画と評価計画(13時間取扱)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面や単元の評価規準	★は記録に残す評価の場面や単元の評価規準
過程 時間	学習活動		
課題発見 3	○家庭の買い物調べの結果から買い物の様子について話し合い、単元の学習課題を立てる。 ○買い物の経験や店内のイラストから、スーパーマーケットではどんな販売の工夫が見られるかを予想し、スーパーマーケット見学計画を立てる。	【思一①】 (方法：発言・ワークシート)	【思一①】 (方法：発言・ワークシート) ★【態一①】 (方法：発言・ワークシート) ○学習課題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持つようとしている。
課題追究・課題解決 8	○売場、働く人、施設の工夫の3つの視点に分かれ、スーパーマーケットを見学、調査したり、店員やお客さんにインタビューしたりして、販売の工夫等について調べる。 ○それぞれのグループで、見学、調査したことやインタビューしたことなどをまとめ、発表する。 ○スーパーマーケットについて、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫をまとめめる。	【知一①】 (方法：観察・ワークシート)	★【知一②】 (方法：発言・ワークシート) ○調べたことを、適切な写真や資料を使って、相手に伝わりやすいようにまとめている。
新たな課題 2	○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について考える。【本時】 ○コンビニエンスストアの店長にインタビューすることを通して、実際に取り組まれている販売の仕方などの工夫について話し合う。	★【思一②】 (方法：発言・ワークシート)	★【思一②】 (方法：発言・ワークシート) ○買い物の経験やスーパーマーケット、資料などを参考にしながら、コンビニエンスストアを利用しやすい理由について考えている。 ★【態一②】 (方法：発言・ワークシート) ○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について、既習事項や生活経験を生かし、意欲的に質問したり発表したりして、コンビニエンスストアにおける販売の工夫を考え、自分の言葉で表現しようとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)				
<p>本単元は、小学校学習指導要領第3学年の内容(2)にあたる。「地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、販売の仕事の様子について理解し、調べたことや考えたことを表現することができる。」</p>				
教材：題材の価値				
<p>本教材は、消費者の願いを考慮した販売における工夫を考えたり、消費生活を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることに気づかせたりすることができる。また、地域の人々の販売の仕事を学習することで、地域社会における児童自身の消費生活について、より関心を高めさせることができる。</p>				
本単元における系統				
3年	3年	3年		
「わたしのまちみんなのまち」 身近な地域や市の様子を大まかに理解する	「はたらく人とわたしたちのくらし」 販売の仕事は、消費者の願いを伝えたり上げを高めるよう工夫している	「はたらく人とわたしたちのくらし」 生産の仕事は地域の人々の生活と密接に関わっている		
<p>5年 「わたしたちの生活と工業生産」 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう、工夫や努力をしている</p>				
<p>5年 「わたしたちの生活と食料生産」 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりしている</p>				
児童の実態(単元の目標につながる学習の実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
調査活動や地図などの具体的資料を通して、必要な情報をまとめることができる。				
調査活動などを通して、考えたことや選択・判断したことを表現することができる。				
学習したことを自分たちの生活に生かそうとしている。				
■本単元の学習に関する意識の状況				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
授業の始めに、学習の風通しを持ち、自分の考えを持っているか。				
今まで勉強したことを使って、新しい問題を解いているか。				
友だちの考えと自分の考えを比べて、聞いたり、発言したりしているか。				

■考察

児童は、グループに分かれて「まちたんけん」をした経験がある。校区内の地図を見ながら、訪問する場所にシールを貼ったり、書き込んだりしながら活動した。見学した施設でインタビューし、グループで伝える内容を考え、発表を行った。意欲的に取り組む反面、地図にまとめたり、インタビュー内容を自分の言葉として表現したりすることが苦手な児童も多い。そこで、本単元では、クイズなどの工夫等によってまとめ方を児童にとり取り組みやすいものにした。また、学習したことと自分たちの生活とのつながりをより意識させるための手立てが必要である。主体的・対話的な学びの視点から、学びの状況を見ると、既習事項の活用できていない。調査活動に入る前に、自分なりの予想や見通しを比較したり、シグナー学習によって他のグループとの違いを見つけてさせたりする学習に取り組む必要がある。また、各家庭の買い物については、デイスカウントストアやドラッグストアでの買い物が多く、コンビニエンスストアの利用も多い。なぜ、これらの店を利用するかという本単元の学習前の質問には、約8割が「近いから」、「安いから」と答えている。「買い物をするとき、どんなことを考えているか、見ているか」という質問には、ほとんどの児童が「お家の人は何をかうのか」などと答えている。これらのことから、販売における工夫という視点を持っている児童は少ないことが分かる。本単元を通して、消費者の願いと販売における工夫との関わりに関心を持つ児童を育てたい。

3 指導に当たっての留意点

- 本単元では、「期待を持ってみんなの顔が上がっている姿」をめざすため、買い物に関するアンケートを取り、児童にとって身近なお店や内容を取り上げ、学習課題等必然性のある学習を仕組んでいく。
- 本単元では、「『分かった』や『なるほど』をつぶやく姿」をめざすため、インタビューの内容等について、児童同士で意見を出し合い、見学、調査する際の視点を明確に持たせて、店員やお客さんへのインタビューを行う。また、販売におけるそれぞれの工夫について、工夫されている理由を常に考えさせ、消費者と販売する側の相互関係を意識させる。
- スーパーマーケットだけでなく、さまざまな商店における工夫について関心を持つ児童を育てるため、単元の後半では、コンビニエンスストアにおける販売の工夫を取り上げる。

4 本時の学習
 (1) 目標
 スーパーマーケットの販売の工夫や生活経験と関連付けながら、コンビニエンスストアにおける販売の工夫について自分の言葉で表現することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 本時のめあてをつかむ。 ①スーパーマーケットでの販売の工夫を振り返る。 ②コンビニエンスストアの利用状況や売り上げについて知る。 ◇習い事の帰りに、よくコンビニに行っているよ。 ◇近くにたくさんあるからよく行くと思う。 ◇コンビニのおにぎりは、こんなに売れているんだ。</p> <p>【学習課題】 どうして、みんなはコンビニエンスストアによく行くのだろう。</p> <p>【めあて】 みんながコンビニエンスストアで買い物をしたくなるひみつを見つけよう。</p>	<p>○スーパーマーケットでまとめた“くふうカード”を使ったり、全体で確認したりしながら、これまでの学習を振り返る。</p> <p>○事前の買い物アンケートの結果やコンビニエンスストアにおける商品の売り上げを示し、スーパーマーケットと並んでコンビニエンスストアで買い物をする回数が多いことを確認する。</p>
展開 32分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。 ①スーパーマーケットでの学習や自分の買い物の経験を基に、コンビニエンスストアで買い物をしたくなるひみつを考える。 ◇どこにでもあるから、ドライヤーやお出かけのときなどに利用しやすい。 ◇お弁当やスイーツなどの食べ物だけでなく、切手や文房具など、たくさん商品がある。 ◇新発売の商品がたくさん出ている。 ◇お店が明るくて、夜でも入りやすい。 ②1人1人考えたことを基に、グループで意見を交流する。 ③コンビニエンスストアの店長が考える、お客さんが買い物をしたくなるひみつの写真について考察する。 ◇1番の写真は、商品をきれいに並べていることがひみつだと思う。 ◇11番の写真は、何のひみつだろう。パソコンの画面に天気の出ているよ。 ④班で話し合ったことを、全体に広げる。</p> <p>【期待される学びの姿】 コンビニエンスストアを利用したくなる理由を見つけることで、消費者の願いにに応じたお店側の販売の工夫に気付いている。</p>	<p>○消費者の立場として考えることを明確にして考えるようにする。</p> <p>○自力解決の場面では、付箋に書きためる。</p> <p>○コンビニエンスストアでの買い物の経験が少ない児童などに対しては、ヒントカード(写真)を用意しておく。</p> <p>○グループで意見交流をすることで、買い物をしたくなるひみつを、さまざまな視点から捉えるようにする。</p> <p>○コンビニエンスストアの店長が考える集客のひみつを紹介することで、販売の工夫について理解を深め、新たな問いを持つようにする。また、配付した写真に付箋を貼ることで、自分たちが考えたひみつと店長の考えとの共通点や相違点を可視化する。</p> <p>【具体の評価規準】 思一② ○買い物の経験やスーパーマーケット、資料などを参考にしながら、コンビニエンスストアを利用しやすい理由について考えている。 (方法：発言・ワークシート)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○既習事項を振り返ったり、友だちの発言の意図を問うたりしながら、販売者の工夫について、その理由を考えることができるようにする。</p>
終末 8分	<p>3 学習のまとめを行う。</p> <p>【まとめ】 みんながコンビニエンスストアで買い物をしたくなるひみつは、(買う人が抱きたくない)に、(新商品をたくさん出している)からではないかと思う。</p>	<p>○コンビニエンスストアの店長をゲストリーダーチャームとして招き学習することを伝え、次時への意欲を高める。</p>

【板書計画】

【めあて】 みんながコンビニエンスストアで
買い物をしたくなるひみつを見つけよう。

【まどめ】 みんながコンビニエンスストアで買い物をし
たくなるひみつは、(買う人が知らないよう
に、新商品をたくさん出している) からはな
いかと思う。

(買い物アンケート
の結果)

写真①	写真②	写真①	写真②
写真③	写真④	写真③	写真④
写真⑤	写真⑥	写真⑤	写真⑥
写真⑦	写真⑧	写真⑦	写真⑧
写真⑨	写真⑩	写真⑨	写真⑩
写真⑪	その他	写真⑪	その他

※自分が考えたいひみつ
と関係のある写真に
付箋を貼る。各班の
シートを掲示するこ
とで、自分たちが考
えた秘密と店長の考
えとの共通点や相違
点を可視化する。店
長に聞いてみたいと
いう意欲を高める。

【ICT活用計画】

児童による調べ活動時の活用計画 教師による教材提示の計画

【探究活動 (調べ学習) 】 タブレットパソコン

【情報収集】

売場、働く人、施設の工夫の3つの視点でグループごとに分かれ、スーパーマーケットを見学、調査したり、店員やお客さんにインタビューしたりして、販売の工夫等について調べる際に、タブレットパソコンを使用して店内等の写真撮影、店員さんの動画撮影をする。

【単元や学習の導入場面】 電子黒板

【教材提示】

・スーパーマーケットやコンビニエンスストアでの買い物体験を想起しやすくするために、校区内にある店舗の様子などを拡大提示や比較提示して課題意識を生むようにする。
・児童にとってより身近な学校からお店までの道のりを動画撮影して提示することで、空間的に把握しやすいうように提示する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

【熊本県学力調査より】 過去問題

H24 大問	3	4
H25 大問	4	5
H25 大問	4	5

※ 販売者の立場や消費者の立場にな
ってインタビュー形式で記述する問
題に取り組むことができる。
※ 他地域との関わりについて問う問題
を通して、空間的に捉えることがで
きる。

第5学年 算数科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日(〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	〔発行者名「教科書名」P〇〇～〇〇〕		
単元の目標	〔割合〕について、その意味や百分率などを用いた表し方を理解するとともに、割合を用いて比べたり、割合や百分率などを求めたりすることができる。 (2) 日常生活の二つの数量の関係に着目し、割合を用いた比べ方や表し方を図や式などを用いて、考察したり、日常生活に生かしたりすることができる。 (3) 割合を用いて考察したことを振り返り、多面的に捉えたり粘り強く考えたりすることで、割合のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする。		
	知識・技能	①二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いて表すことができることを理解している。 ②百分率の意味について理解し、百分率や歩合を用いて表すことができる。 ③比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。	
単元の評価規準	①二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いて表すことができることを理解している。 ②百分率や歩合を用いて表すことができる。 ③比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。	①二つの数量関係に着目し、問題の条件や割合の求め方を基に、基準量と比較量を筋道立てて見いだしている。 ②問題場面において、割合を用いて解決した後、考察によって得られた結果を日常の事象に戻してその意味を考え、方法や表現方法を見直している。	
単元終結時の児童の姿(単元の目標の姿、期待される姿)			
身の回りの二つの数量を比べるとき、差で比べるのではなく、比例関係を基に割合で比べることが適切であることを判断し、その得られた結果を日常生活と関連させて見直したり、今後の学習や日常生活に生かそうとしたりする児童			
単元を通じた学習課題			
身の回りの二つの数量を比べるには、どのような方法があるか考えよう。		二つの数量関係に着目し、比例関係を前提に割合でみてよいか筋道立てて判断すること。	
単元を通じた学習課題 指導計画と評価計画(9時間取扱い 本時2/9)			
過程	時間	学習活動	
一	1	○二つの数量の関係の比べ方を考えるという単元を通じた課題を把握し、割合について知る。 ○割合の意味を理解し、割合を求める問題を解く。	★【態①】(ノート・行動) 【知①】(ノート)
	2	○割合の意味を理解し、割合を求める問題を解く。【本時】	★【思①】(ノート・行動) ○二つの数量を比べるときに、倍の見方を基に、全体を1とみて部分の大きさを表す割合の比べ方を図や式を用いて説明することができる。
	3	○百分率や歩合の意味を理解し、「パーセント(%)」や「割、分、厘」で表す。	【知①②】(ノート・行動)
	4	○基準量と割合から比較量を求める問題を解く。	【知③】(ノート)
	5	○比較量と割合から基準量を求める問題を解く。	★【態①】(ノート・行動) ○これまでの学びを振り返り、割合のよさを今後の学習に生かそうとしている。 【知③】(ノート)
	6	○これまでの学習内容を活用して割合の問題を解く。	★【知①②③】(練習問題) ○基本的な学習内容を身に付けている。
	7	○割引や割増について理解し、比較量や基準量を求める問題を解く。	★【思②】(ノート・行動) ○これまでの学習から、割合の増減を図に表し、筋道立てて結果を求めたり、問題の場面に表して説明の仕方を見直したりしている。
	8	○割引に関する問題「いかしてみよう」を解く。	★【知①②③】(「たしかめよう」の問題) ○基本的な学習内容を身に付けている。 ★【態①】(ノート)
	9	○学習内容の定着を確認するとともに、本単元の学びを振り返る。	○単元を通しての学びを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。
四			

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容・指導事項等)

小学校学習指導要領第5学年C(3)割合

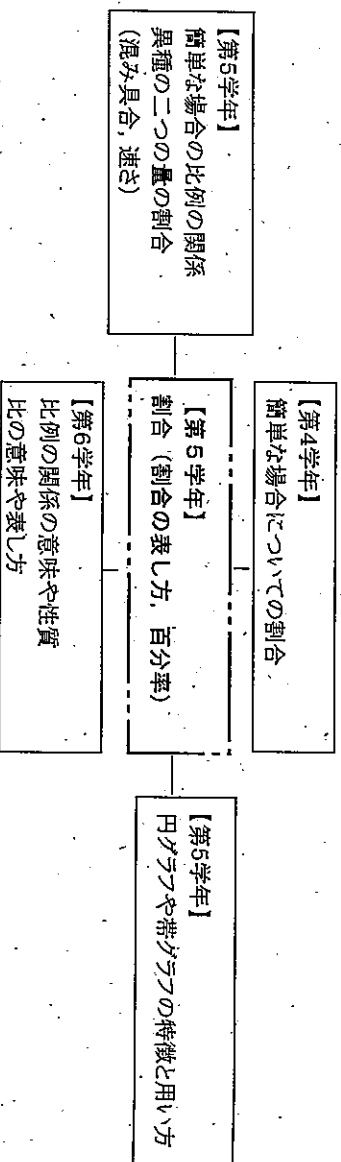
〔知識及び技能〕(ア)割合、(イ)百分率

〔思考、判断、表現力等〕「日常の事象における二つの数量の関係に着目すること」、「図や式などを用いて、数量の関係どうしの比べ方を考察すること」、「割合を用いた比べ方を日常生活に生かすこと」

教材・題材等の価値

二つの数量関係の比べ方に割合を用いる場合があることを理解し、日常生活に生かす力を伸ばしていくことをねらいとする。また、割合を用いた比べ方のよさを感じて、学習や生活に生かそうとする態度とともに、考察の方法や結果を批判的に振り返り、よりよく問題解決する態度を養うことにも適している。

本単元における系統



児童の実態(単元の内容に つながる学習の実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	できる	%
簡単な場合についての割合の意味を理解することができる。	○/○	—
簡単な場合についての割合を求めることができる。	○/○	—
単位量当たりの大きさの意味について理解することができる。	○/○	—
単位量当たりの大きさを求めることができる。	○/○	—
単位量当たりの求め方を図や式などを使って説明することができる。	○/○	—

■本単元の学習に関する意識の状況 (%)

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
算数の授業では、自分で分からないことを友達や先生に聞いて分かるようになっていと思う。	—	—	—	—
算数の授業では、学習したことをノートにしっかりとまとめることができていると思う。	—	—	—	—
算数の授業で学習したことを、次の学習や日頃の生活に生かすことができていると思う。	—	—	—	—

■考察

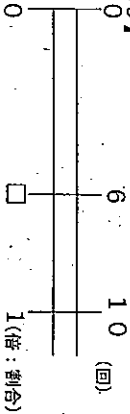
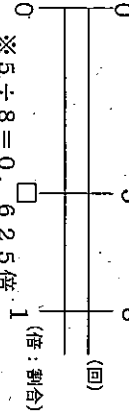
(資質・能力に関して) 4年生の学習である「簡単な場合についての割合」や5年生で学習した「単位量当たりの大きさ」については、求め方を言葉の式として理解し求めることは概ねできている。一方で、求め方を図や式などを用いて数学的に表現することに課題がある。

(学習に関して) 自分で分からないことは、意欲的に尋ねるなどして理解しようとしているが、学習したことへの振り返りや、今後の学習や身の回りのものに生かそうとすることに課題がある。

3 指導に当たった際の留意点

- 身の回りの二つの数量を比べる方法を考えるという単元を通した学習課題を把握させ、主体的に学ぶようにする。その際、より身近な事象を問題として取り上げる。
- 「全体と部分」や「部分と部分」の関係性が視覚的に明らかになるように数直線で表すようにする。その際、式と数直線とのつながりを言葉で説明させたり、図で表現させたりする。
- 自分の学習状況等を把握するために、定期的に学習したことを振り返ったり、これからの見通しを立てたりする場面を設定する。その際、シートを工夫し、単元全体の学びの過程が分かるようにする。

4 本時の学習
 (1) 目標 基準にする大きさが異なる二つの数量の関係を比べるために、全体と部分の関係に着目し、割合の比
 べ方で説明することができる。
 (2) 展開

過程 時間	学習活動 《予想される児童の発言》	指導上の留意事項 《学習活動の目的・原因・内容・方法等》									
導入 5分	<p>1 本時の問題をつかむ。</p> <p>AさんとBさんは、バスケットボールのシュートの練習をしています。 右の表は、その結果をまとめたものです。AさんとBさんは、どちらがよく成功したでしょうか。</p> <table border="1" data-bbox="1653 1056 1749 1374"> <thead> <tr> <th></th> <th>入った数</th> <th>シュートの数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aさん</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>Bさん</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇シュートの数が違うな。 ◇昨日、少し習った割合を使うのかな？</p>		入った数	シュートの数	Aさん	6	10	Bさん	5	8	<p>○「何が違うから直接比べられないのか」という視点から考えさせる。</p>
	入った数	シュートの数									
Aさん	6	10									
Bさん	5	8									
展開 30分	<p>2 問題解決に向けて活動する。</p> <p>①自分で考える。 ◇Aさんの方が入った数は多いけど…。 ◇何倍かを求めるときは…。</p> <p>②二人(班)で考える。 ◇数直線を使って考えるといいよ。 ◇割合の考えは倍の考えだったね。</p> <p>③全体で(数直線図を使って)考える。 【Aさん】</p>  <p>※ $6 \div 10 = 0.6$ 倍</p> <p>【Bさん】</p>  <p>※ $5 \div 8 = 0.625$ 倍</p> <p>【期待される学びの姿】 数直線と言葉で説明している。 シュートした数を1とみると、ゴール数した数(□)は、何倍の関係になつていく。だから、割合を求めるためには、シュートした数を基にして割ればいいんだ。</p> <p>3 本時をまとめる。</p> <p>【まとめ】 全体のシュート数を1とみて、入った数の大きさを表す割合を使って比べるとよい。</p>	<p>○「全体」と「部分」の関係を表すには、数直線図を使って考えるとよいという見通しをもたせられるよう準備する。</p> <p>○前時の学習や単位数当たりの学習と関連させながら考えられるよう、ICT機器を活用して復習できるように準備する。</p> <p>○数直線図がイメージできない児童には、教師が準備したシートを渡し考えさせる。</p> <p>○式、数直線図、言葉など多様な表現で考えを説明させる。</p> <p>○数直線図と式の間を関係を理解するよう、式や図の数が示している意味について説明させる。</p> <p>【具体的評価規準】 思① ○二つの数量を比べるときに、倍の見方を基に、全体を1とみて部分の大きさを表す割合の比べ方を図や式を用いて説明することができる。 (方法：ノート・行動)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○10-6, 8-5の差による比較では妥当性を欠くことに気付いていない。再度、基準量が違うのだから、倍の考えをする必要があることを考えさせる。</p>									
終末 10分	<p>4 適用問題を解き、本時の学習を振り返る。 ◇よし、数直線を使って解くぞ。 ◇今日は、割合の意味が分かった。次からの学習に生かすぞ。</p>	<p>○県学力調査の問題を活用し、本時の学びの定着を確認する。</p> <p>○何ができるようになったかなど、視点を与えて学習感想を書かせる。</p>									

【めあて】 シュートの回数が違う二人を比べるには、どうすればよいか比べ方を考えよう。

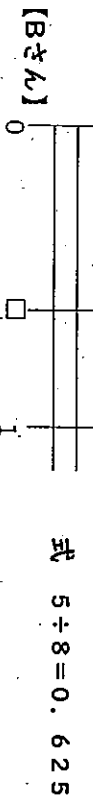
【問題】

AさんとBさんは、バスケットボールのシュートの練習をしています。その結果を右の表は、です。その結果をまとめたものです。AさんとBさんは、どちらがよく成功したでしょうか。

	入った数	シュートの数
Aさん	6	10
Bさん	5	8

単位量当たりの学習と同じように考えることができるね。

シュートの数を1とすると。



割合は「基にする数」で割るんだ。

だからBさんの方がよく成功している

【まとめ】 全体のシュート数を1とみて、入った数の大きさを表す割合を使って比べるとよい。

● 差で比べてはいけないうね。
● シュートの数が違うから...

【ICT活用計画】

教師による教材提示・学習の振り返り・定着状況の把握への活用

- 導入時に、より日常生活を意識させるため、実際のバスケットボールのシュートの様子を提示する。(その他の場面でも活用)
- デジタル教科書を活用し、「単位量当たり(こみ具合)」で学習した教科書の問題を提示し、どのように考えてきたのか振り返らせる。
- 単元を通して、適用問題を一人一人の端末(タブレットパソコン)で行うことで、学習の定着を確実に把握する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末(見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み)

- 県学力調査の過去問
平成29年度 課題克服プリント
 ~小学校第5学年 算数その2「割合」~
平成29年度 B問題 大問5 (1) (2)

※ (1), (2) 以外にも、県学力調査や全国学力・学習状況調査の「割合」に関する問題は、必要に応じて子供たちが学習できるようプリントアウトして、教師が準備しておくことも考えられます。

小学校第6学年 理科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 6年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	「植物の養分と水の通り道」 (発行者名「教科書名」p〇〇～〇〇)			
単元の目標	植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、植物の体のつくりと働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。			
単元の評価規準	知識・技能	①植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 ②根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は、主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 ③植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などの目的に志じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①植物の体のつくりと働きについて、問題を見いだし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	①植物の体のつくりと働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②植物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
	思考・判断・表現	①植物の体のつくりと働きについて、問題を見いだし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	①植物の体のつくりと働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べ、植物の体のつくりと働きを捉えること。	
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿 期待される姿)				
植物の体のつくりと働きを理解し、生命の神秘を感じるとともに、生物としての関わりや植物の存在意義について考え、環境の保全などに生かそうとする児童		本単元で働かせる見方・考え方		
単元を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)		植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べ、植物の体のつくりと働きを捉えること。		
指導計画と評価計画 (10時間取扱い 本時7/10)				
過程	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す計画の場面、「具体的な評価規準」を記載		
1	1	○日当たりのよい場所の植物や日かげの植物の様子を観察する。 ○学校の高い樹木 (イチヨウなど) のようすやしおれた植物に水を与えたときのようなすなわちを観察する。 ○観察したことから各自が気づいたことや問題を見だし、それを基に学級共通の問題を設定する。 植物が生きていくために必要なものは、植物の体のつくりや働きとどのような関係にあるのか。	【思①】 (記述分析) ○日光と葉にできるでんぷんの関係を予想や仮説を基に、条件を比較する等の解決の方法を発想し、表現している。 ★【知③】 (行動観察・記録分析) ○日光と葉にできるでんぷんの関係について、日光を得られた結果を適切に記録している。 ★【知①】 (記述分析) ○植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 【思①】 (行動観察・発言分析)	
2	4	○前時の気づきから、日当たりの違いによる問題を見いだす。 どうして植物は日光が当たると、よく成長するのだろうか。 ○日光によって、養分 (でんぷん) ができるかどうかを調べる方法を考える。 ○日光と葉にできる養分 (でんぷん) の関係を調べる。 ○日光を当てた葉と当てない葉の違いを結果から比較し、結論を導き出す。		

3	<p>根から取り入れられた水は、からだの各部分(根・茎・葉など)のどこを通って全体にいきわたるのだろうか。</p> <p>○水を運ぶための植物の体のつくりを予想し、確かめる方法を考える。</p> <p>○植物の体のつくりと水の通り道の関係を調べる。(本時)</p> <p>葉までいきわたった水のゆくえは、どのようなのだろうか。</p> <p>○葉まで届いた水のゆくえについて調べる。</p>	<p>【思①】(記述分析) 【思②】(記述分析)</p> <p>★【思①】(記述分析) 方について、通り道が得られた結果を、自分の考えで表現できる。</p> <p>★【思②】(記述分析) 方について、通り道が得られた結果を、自分の考えで表現できる。</p> <p>★【観①】(行動観察・発言分析) 植物の体のつくりと働きについて、他の者との関わりながら問題解決しようとしている。</p> <p>★【観②】(記述分析) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。</p> <p>★【観②】(行動観察・記述分析) 植物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
4	<p>1</p> <p>○植物は生きるために、光や水とどのように関わっているのか、考えをまとめる。</p>	

2 単元における系統及び児童の実態

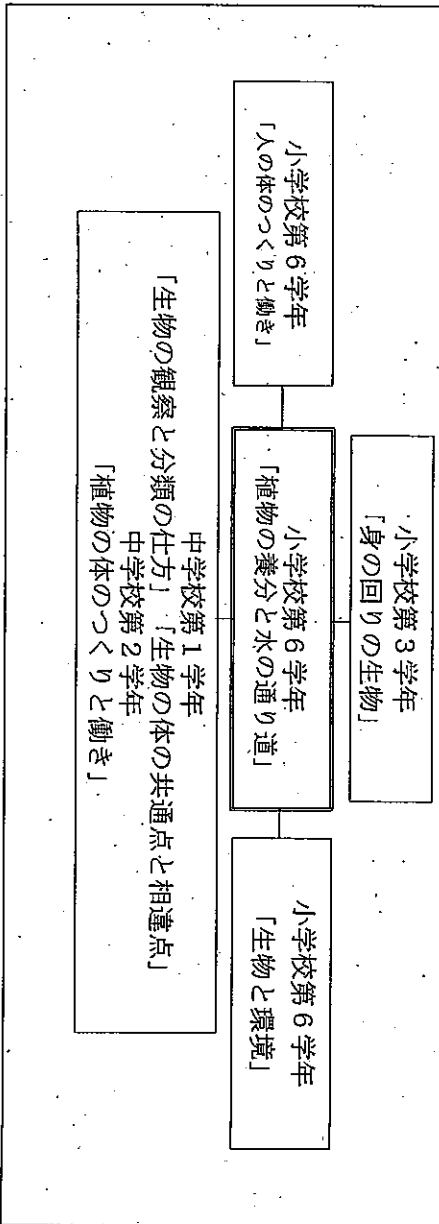
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

小学校学習指導要領第6学年
 [知識及び技能] (2)ア
 [思考力、判断力、表現力等] (2)イ

教材・題材の価値

本教材は、授業を進める中で、自然界における植物の存在意義について考えるきっかけとなり、生態系を構成する要素として植物が重要な位置を占めていることの理解へとつながられるものである。また、同じ生命をもつ生物として、動物と同じように生命維持する働きを植物がもっていることにも気付かせ、生命尊重する態度へつなげられる教材である。

本単元における系統



児童の実態（単元目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
植物の体のつくりについて理解している。	—	—	—	—
インゲン豆に含まれる養分を、結果からまとめることができている。	—	—	—	—
植物の成長に関して、条件制御を行うなど目的に沿った実験方法を計画できている。 (以下略)	—	—	—	—

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
自分の考えを探めたり、広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—
課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	—	—
予想や考察を、考えた理由とともに説明することができていたと思う。	—	—	—	—

■考察

植物の体のつくりの理解については、概ねできているものの、観察、実験などの目的に応じて、得られた結果を適切に記録することが十分にできていない。また、自分の予想を基にして、解決の方法を計画することについては、今後も丁寧な指導が必要である。そのために、(以下略)

主体的・対話的で深い学びの観点から、学びの状況を見ると、課題の解決に向けて、自分から取り組むなど、主体的な姿勢がある一方で、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、あまりできていない。対話の場面を数定し、自分の考えと他者との考えの違いを明確にしながら、問題解決をする中で、どのように考えが改善していったかを実感する学習が必要である。(以下略)

3 指導に当たった際の留意点

- 子どもが単元を通して意欲的に問題解決に取り組めるように、導入時に、しおれていた植物が水を与えることで元気になる現象や運動場にあるイチヨウの木についての提示を行い、問題意識の焦点化を図り、見通しをもたせる。
- 既習事項をもとに実験方法を考えることができるように、前時の学習の振り返りの場で、フラッシュカードを用いて、既習事項の定着を図る。
- 子どもが植物の体のつくりと働きを多様性と共通性の視点で捉えて考察できるように、複数の植物を扱い、植物ごとに複数のグループで調べることができるようにする。
- 対話の場面では、子どもがより妥当な考えを導きだせるように、相違点や共通点に着目しながら、多面的に調べた結果から考察するようにする。
- 子どもが、自分の学びに対する姿勢、成長、学習の有用感等を感じられるように、「まとめ」の時間に本時の学習で分かったことに加え、学び前と後の自分の考えの違いに気付かせたり、新たに調べたいこと、友達との交流の中で学んだりしたことなどを振り返るようにする。
- 子どもが、学習内容を生かせることを実感したり、新たな問いをもったりして学習への意欲をもち続けられるように、単元を通じた学習課題に対する自分の考えをまとめる時間を設定する。
- 本単元において、実態として○○○のような状況から、○○を図る。(※生徒の実態による留意点は省略)

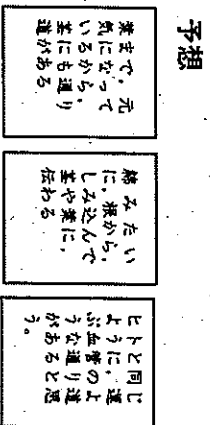
- 4 本時の学習
 (1) 目標 葉まで届く水の行方について実験結果から考察し、植物には、根から茎、茎から葉へと続く水の通り道があることを、自分の考えで表現できる。
 (2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・内容・方法等)
導入	5分	<p>1 課題を確認する。 ①前時に行った実験の目的と内容を振り返る。 ◇水が植物の葉に行きわたるまで、どこを通るか調べるために、色水を根から吸わせたな。</p> <p>【めあて】根から取り入れられた水は、どのようにして全体にいきわたるのか調べよう。</p> <p>②予想を確認する。 ◇外から見た感じだと、葉まで行きわたってそうだから、茎などを切ってみれば分かりそうだな。 ◇他のグループの植物はどうなっているかな。</p> <p>【学習課題】根から取り入れられた水は、からだの各部分(根・茎・葉など)のどこを巡って全体にいきわたるのだろうか。</p> <p>2 課題の解決に向けて活動する ◇実験方法を確認する。 ◇茎などを切るときは、縦に切ったり、横に切ったりすると通り道が確認できるな。</p> <p>②グループごとに実験する。 ③他のグループとの情報交換を行う。 ④グループで考察する。 ◇どのグループの実験でも根・茎・葉の同じような場所の色がついていたよ。 ◇植物には、根から茎、茎から葉へと水の通り道が色水からわかるな。 ◇根から吸い上げた水は、水の通り道を通って植物の体のすみずみまで行きわたると思うな。 ◇根・茎・葉のどの部分を通るかは植物によって違うよ。</p> <p>【期待される学びの姿】 生命を維持する働きを調べた複数の実験結果から、植物には、水の通り道が根、茎、葉にあることを捉え、自分の既習の考えからより科学的なものに改善している。</p> <p>3 学習のまとめ、振り返りを行う。 【まとめ】根から取り入れられた水は、根、茎、葉などにある通り道を通じて、植物の体の全体へいきわたる。</p>	<p>○目的意識をもって観察ができるように、前時に行った実験の目的と内容を振り返る。</p> <p>○水を吸った植物を外から見せ、葉まで行きわたっていることを確認し、中がどうなっているか興味をもたせる。</p> <p>○自分たちの予想に対する解決する方法やその結果を考えさせる。</p> <p>○実証性を高められるように、同じ植物での実験を複数のグループで行う。(今回は2・3グループ)</p> <p>○多様性や共通性を視念に考察できるように、複数種の植物を調べる。</p> <p>○他グループの実験結果の必要性を高め、互いに情報交換し合いながら考察できるように、各グループで1種類の植物を取り扱うようにする。</p> <p>【具体的評価規準】思② ○葉まで届いた水の行方について、得られた結果を基に考察する中で、水の通り道があることを、自分の考えで表現できる。(記述分析)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○実験でどの部分を切り取ったか、切り取った部分では何を見ることができたかを確認し、共通することを考えるよう促す。</p>
展開	30分	<p>◇色水を吸わせることで、水の通り道を調べることができることを学んだよ。 ◇○○さんの発言から、「植物は」というためには、いろんな植物を調べてみる必要があることが分かった。 ◇植物もヒト(動物)と似たところがあると分かったな。</p>	<p>○子供が、自分の成長を感じ、今後への意欲を高められるように「本時の学習で分かった問題の答え」と「それ以外で学んだことやもつと調べてみたいこと」などを視念に振り返りをする。</p>
終末	10分		

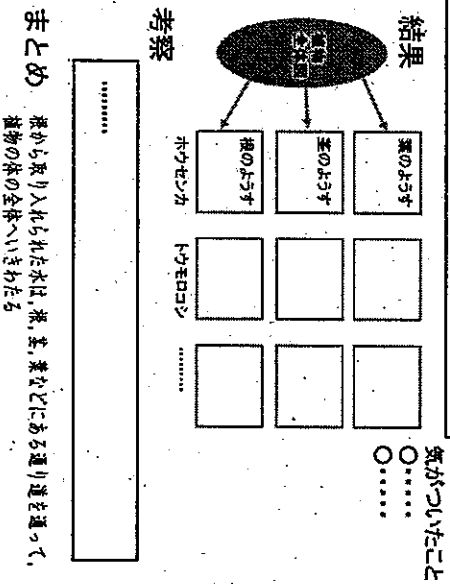
【板書計画】

植物の養分と水の通り道

根から取り入れられた水は、からだの各部分(根・茎・葉など)のどこを通過して全体にいきわたるのだろうか。



- 計画
- ①水の色をつけて、根をひたす。
 - ②根から水を吸わせるために、時間を置く。
 - ③体の各部分(根、茎、葉)を切って、内部の様子を観る。



【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

- ・子供が単元を通して意欲的に問題解決に取り組めるように、導入時に、しおれている植物が水を与えることで元気になる現象を動画で見せ、問題意識の焦点化を図り、見通しをもたせる。
- ・実験結果の共有場面で、実験したものを書画カメラで拡大して提示する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では 見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み

○植物の体のつくりや働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べている過去の調査問題にて定着を図る。

【全国学力・学習状況調査】 平成○○年度 大問○

【熊本県学力調査】 平成○○年度 大問○

【課題克服プリント】 平成○○年度提供 大問○

○単元の終末では、植物が生きていく上で、光や水とどのように関わっているのか考えをまとめさせる。また、前単元で学習した「人の体のつくりと働き」で学んだ内容にも触れ、植物と動物の共通性、加えて、今後学習する「生物と環境」の単元内容の生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていくことを多面的に捉えられるようにする。

第1学年 生活科 学習構想案

期日 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 1年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	「ひろがれ えがお」		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。 ○家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分であることなどについて考えることができる。 ○家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。 		
単元の評価規準	知識・技能 家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での生活は、互いに支え合っていることが分かり、家庭での自分の役割に気付いている。	思考・判断・表現 家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での家族のことやそのよさ、自分であることなどについて考えている。	主体的に学習に取り組む態度 家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿) 家庭生活をよりよくするために取り組んだことを生かして、家族の笑顔を増やせるように自分であることを続けたり、挑戦したりしようとする児童			
単元を通じた課題 家族のみんなが笑顔で生活するために、自分にできることはどんなことだろう。		本単元で働かせる見方・考え方 家庭生活において、それぞれのよさや果たしている仕事、役割があること、それらと自分との関わりに関心、互いに支え合っていること、自分の家庭を構成している大切な一人であることがわかること。	
指導計画と評価計画 (10時間取扱い) 本時 5 / (10)			
過程	学習活動 ○家族を笑顔にするために、自分ができることについて考える。	具体的評価規準 ★は、記録に残す評価の場面で、「具体的評価規準」	
一	○家庭生活で、家族や自分がしている家の仕事について絵や文で表現する。 ○家庭生活の中で、自分ができることや家族が喜んでくれるようなことについて考える。	【知】ノート・発言 ○家庭生活には、それぞれの果たしている仕事や役割があることが分かっている。 【思】ワークシート・発言 ○家族のことや自分がしていることについて表現している。	
二	○自分でできることや挑戦したいことを決めて、計画を立てる。(家庭で実行)	【知】ノート・発言 ○自分でできそうなことを集めている。 ★【思】ワークシート・発言 ○家庭生活における役割を考え、自分にできそうなことを試しながら、「挑戦したいしごと」を考えている。 ★【主】ワークシート・発言・活動 ○家族を笑顔にするために、うまくできるように計画をし、練習をしたり、コツを聞いたりしている。	
三	○家で取り組んだ自分でできることや挑戦したことを発表する準備をする。 ○家で取り組んだことや挑戦したことを実演や絵、文等で表現し友達に伝える。 ○これからも続けていくための計画をする。	★【知】ワークシート ○家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。 ★【思】ワークシート・交流 ○家庭で取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。 ★【主】ワークシート・発言 ○自分でできることを続けることや生活リズムや健康についても気を付けて生活しようとしている。	

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所	
小学校学習指導要領 学校、家庭及び地域の生活に関する内容	内容 (2) 家庭と生活
教材 題材等の価値	
<p>本教材は、家庭生活を振り返ることで、自分でできていることやできるのにしていないこと、家族に支えてもらっていることに気付き、家族に感謝する心をもつとともに、家族の一員として自分にできることに取り組んでいこうとすることを通して進んでいる。</p>	
本単元における系統	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 1年 「いくぞ がつこうたんけんたい」 学校や通学路を探索し、施設とその役割、人々との関わりについて考える。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 1年 「ひろがれ えがお」 家庭生活を振り返り、家族の一員としての自分の役割に気付き、家族を笑顔にすることに考えている。 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 就学前 服の着脱 おもちゃの片づけ 家庭でのお手伝い など </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 2年 「これまでのわたし これからのわたし」 成長を支えてくれた人への感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもつ。 </div>
児童の実態 (単元の目標につながる学びの実態)	
■本単元の学習に関する意識の状況	
調査内容	
家族がいてよかったと思うことは、どんな時ですか。 ・ かんがで旅行に行った時 ・ 勉強を教えてもらった時 等	
家で生活で、自分でできることをしていますか。 ・ している 人 ・ ときどきしている 人 ・ 頼まれたときをしている 人 ・ していない 人	
家で生活で、自分でできることは、どんなことをしていますか。 ・ 洗濯たたみ ・ 皿ならべ 等	
家で生活で、自分でできそうな仕事は、どんな仕事ですか。 ・ 風呂掃除 ・ 洗濯もの干し ・ 部屋の片づけ 等	
家族が笑顔でいるためには、どうしたらよいと思いますか。 ・ 手伝いをする 等	
<p>■考察 (例)</p> <p>家での仕事 (お手伝い) については、いろいろな役割があり、頑張っている児童が多い。一番多い仕事は、配膳や食器の片づけである。少ないものは、雑巾等を使つての掃除である。「お手伝い」という意識が強く、自分の仕事だから責任をもつてするか家族のためにするという考えには、至っていない児童が多い。</p>	

3 指導に当たつての留意点

- 自分でできる仕事について考えさせることを通して、家族の役に立ちたいという気持ちをもたせる。
- 家族のよさや、家族の一員として役に立っていることを自覚できるように、学級便りや保護者かで単元のねらいや学習内容を家庭にも事前に知らせ、協力を依頼する。
- 自分でできることの中には、規則的な生活や食生活についても考えることができるようにする。
- 家庭の独自性を尊重し、各家庭のブライバシーに十分配慮した計画をする。

4 本時の学習

(1) 目標

「○○名人」のコツを見つけたり尋ねたりし、上手になる練習することを通して、自分にできそうなこととや挑戦したい仕事を考えている。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される子供の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	10分	<p>1 課題をつかめ。</p> <p>① やってみたい家での仕事について、確認をする。</p> <p>◇この仕事を上手になって、家の人を喜ばせたいな。</p> <p>【めあて】「○○名人」からコツを見つけたり尋ねたりして、「いえのしごと」がじょうずになるう。</p> <p>② いろんなことを教えてもらおうとよいか確認する。</p> <p>◇洗濯物のきれいなたたみ方は、どんなコツがあるのだろう。</p> <p>◇お風呂の洗い方は、どんなコツがあるのかな。</p> <p>【学習課題】 「○○名人」になるためのコツは、どんなところだろう。</p>	<p>○前時からの学習の流れから、児童の意欲を引き出す。</p> <p>○なぜ、上手になりたいのかの気持ちを前時の児童の活動から思い出させる。</p> <p>○上手になりたいという気持ちから、どんなことを教えてもらおうとよいかを問う。</p> <p>○友達のとんなどころを見るとよいかを考えさせる。</p> <p>○「○○名人」の友達のどんなどころに気をつけるのとよいかコツを見つければ、教えてもらいながら上手になっていくよう意欲をもたせる。</p> <p>○友達に教えてもらおうグループと教えるグループ2つに分ける。 (個に合わせた支援)</p> <p>○声かけができていない児童を例にあげる。</p> <p>○どんなどころに気付いたか尋ねる。</p> <p>○何度も繰り返し練習をしている児童をほめる。</p> <p>○時間を決めて、いくつかの仕事を体験できるようにする。</p> <p>○友達同士で、上手になるコツを尋ねたり教えたりすることで、より上手になりたい、家族に喜んでほしいという気持ちをもつことができる。</p>
展開	30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する</p> <p>① 家でやってみようと思う仕事について、「○○名人」のところで上手になるコツを見つめたり、尋ねたりしながらやってみよう。</p> <p>◇洗濯たたみは、えりのところをきれいにしているな。どうしたらいいか聞いてみよう。</p> <p>◇片付け名人になるためには、かごの中にかけていれたり、本の向きを同じに並べたりするといいです。</p> <p>◇やってみよう。難しいな。もう一回聞いてみよう。</p> <p>◇いくつかの「○○名人」のところへ行き、練習をする。</p> <p>② いくつかの「○○名人」を体験して練習し、気付いたことをまとめる。</p> <p>◇せんたく物を干す時には、しわをのばすこと。パランスをとること。</p> <p>【期待される学びの姿】 上手にできるためのコツを見つめ、試しながら、家でもできるように繰り返し練習をしている。</p> <p>3 学習のまとめ、振り返りを行う。 新たに収集した「仕事」のコツを整理し、自分の感想を入れながらまとめる。</p> <p>【まとめ】せんたくたたみは、たたく順番を考えるのとよい。しわをのばし、えりをきれいにしておく。</p>	<p>【具体の評価規準】思考・判断・表現</p> <p>○自分にできそうなことを試しながら、挑戦したい「しごと」を考えている。 (方法：観察・発言・ワークシート)</p> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○試しながら、コツに気付けるように声をかける。</p> <p>○めあてと課題を照らして行い、学習のまとめをする。</p> <p>○どんなどころに気付いたかを共有する。</p>
終末	5分	<p>◇早く、家でやってみよう。</p> <p>◇家の人に、喜んでもらえるようにしたいな。</p>	<p>○はやく家でもやってみようという気持ちにできるようにする。</p>

【板書計画】

ひろがれ えがお

めあて

家族のみんなが笑顔で生活できるために、自分のできることは、どんなことだろう。

〇〇名入

〇〇名入

〇〇名入

〇〇名入

〇〇名入

〇〇名入

まとめ

【ICT活用計画】

教師による教材定時の計画や児童の活動の記録

例：家でしている「自分のしごと」を撮影して流す。

例：家で取り組んだことを写真に写し、紹介する。

例：友達同士で教え合っている様子を撮影して活用する。

など

第5学年 音楽科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材構想

題材名	アンサンブルのみりよく 【教材：組曲「カレリア」から「行進曲風に」（鑑賞教材）、「音楽のおくりもの」（歌唱教材）】		
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりなどについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付ける。 <知識及び技能>B(1)ア, Aウ(ウ) (2) 旋律の反復と変化などの、音楽を形づくっている要素の顕著な特徴について聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。 <思考力, 判断力, 表現力等>B(1)ア ・各声部の歌声や全体の響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。 <思考力, 判断力, 表現力等>A(1)ア (3) 曲の特徴を捉えて表現したり鑑賞したりする学習に興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。 <学びに向かう力, 人間性等>		
題材の評価規準	① 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりなどについて理解する。 ② 思いや意図に合った表現をするための必要な各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。	① 旋律の反復と変化などの、音楽を形づくっている要素の顕著な特徴について聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 <B(1)ア> ② 各声部の歌声や全体の響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 <A(1)ア>	① 曲想及びその変化、曲の構造との関わりをもち、音楽活動を主体的・協働的に学習し、歌唱や鑑賞の学習に取り組む態度
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿 期待される姿)			
日常の生活や今後の授業等で出会う音楽を、曲想とその変化、曲の構造やその特徴の面白さを感じ取って、自分なりに曲の魅力について考え、言葉等で表現したり、声部の役割や曲想を生かした表現を工夫して合唱したりしようとする児童。			
題材を通して学習課題 (題材の中心的な学習課題)		本題材で働かせる見方・考え方	
聴いて見える音楽「図形楽譜」をつくって、アンサンブルの魅力伝えよう。			
指導計画と評価計画 (5時間取扱い 本時 3/5)			
過程	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ※は記号に該当評価の場面で具体的評価規準を記載	
1	1 組曲「カレリア」から「行進曲風に」を、全曲通して聴き、オーケストラの楽器(楽器群)を確認し、曲の組み立て図をつくる。 2 全体の曲想や二つの旋律を演奏する楽器群の変化を聴き取る。 3 旋律の反復と変化などの、音楽を形づくっている要素の顕著な特徴についてまとめ、図形楽譜を作成し、旋律が重なるよさを聴き取る。(本時)	【思①】学習シートの記述・発音 【知①】学習シートの記述・発音 ★【思①】学習シートの記述・発音 ○ 旋律の重なりを示す「図形楽譜」をつくり、音楽の特徴を伝えたい。 【徳①】学習シートの記述・発音 ★【思②】学習シートの記述・発音 ○ 二つの声部の働きとその効果について図譜に記述している。 ★【技①】学習シートの記述・発音 ○ 思い合った表現をするために必要な、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。	
2	4 「音楽のおくりもの」を斉唱し、対旋律を覚え、二部合唱をする。 5 声の響きや表現を工夫したことを図譜にメモし、それを活用して合唱する。		

2 題材における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)

小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年
 [思考力, 判断力, 表現力等] B鑑賞(1)ア, A表現(1)ア, [共通事項] (1)ア
 [知識及び技能] B鑑賞(1)イ, A表現(1)イ・ウ(ウ)

教材・題材の価値

鑑賞教材「組曲『カレリア』から『行進曲風に』」は、二つの主題が交互に現れ、その旋律を演奏する楽器群も旋律同様に変化している構成になっている。オーケストラのダイナミックな響きとアンサンブルの美しさや楽器群が醸し出す響きを生かした曲の構成に気付かせることができるのに適した楽曲である。
 また、歌唱教材として「音楽のおくりもの」を取り入れる。この曲は今月の歌で斉唱として歌ったことがある。二つの声部の働きとその効果について、鑑賞したことをもとに合唱表現に生かすのに適している曲である。

本単元における系統 ※鑑賞に関する系統

<p>4 学年 「かけ合いと重なり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを、言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。 	<p>5 学年 「アンサンブルのみりよく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
<p>6 学年 「音楽の聴きどころ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。 	<p>5 学年 「音楽のききどころ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想とその変化、曲の構造やその特徴の面白さを感じ取って聴くこと。

児童の実態(単元の目標につながる学習の実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)
楽器の音を聴いて、その楽器の名前がわかる	—	—
曲を聴いて、主旋律と伴奏の違いがわかる	—	—
旋律が繰り返されたり重なりたりしていることを聴き取ることができ(分かる)	—	—

■本題材の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
課題解決に向けて、自分で考え、進んで取り組んでいると思う。	—	—	—	—
友達と意見や考えを交流することで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていると思う。	—	—	—	—
音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自分のイメージや生活などと関連づけで考えていると思う。	—	—	—	—

■考察

(資質・能力に関して)

曲を聴いて楽曲の特徴(旋律と伴奏及び重なり)を聴き取ることが概ねできている。この学習では、音色・旋律・リズム・反復・変化といった[共通事項]に加え、音楽の縦と横の関係にも着目させ、小学校高学年の鑑賞の学習内容を充実させることができると考えられる。(学習に関して)

主体的・対話的で深い学びの視点から、学習の状況を見ると、課題の解決に向けて、自分から取り組むなど、主体的な姿が見られ、友達との意見交流により、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。一方で、音楽を通して捉えたことと自己のイメージや生活などと関連付けて考えることについては、十分にできているとは言えない。音楽科を学ぶ意義を実感する学習の工夫が必要である。

3 指導に当たった際の留意点

- 教師の発問・指示や児童の発言の際に、音楽のどの部分を示しているのかを共有できるように積極的に取り組むことで、聴き取ったり感じ取ったりした曲の部分が効果的になるような学習活動の工夫を行う。
- 児童が主張する理由の根拠となる音や音楽に常に戻ることを大切にしたい学習展開の工夫を行う。
- 「見方・考え方」に着目した問いの工夫や学びを実感する振り返りの工夫を行う。

4 本時の学習
 (1) 目標 楽器群ごとの旋律の重なりを表す「図形楽譜」をつくり、音楽の特徴を伝えることができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、内察、方法等)
導入 10分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①「行進曲風に」を全曲通して聴き、曲の構造と主題の旋律を確かめよう。</p> <p>【めあて】 「図形楽譜」をつくって音楽の持ちようを伝えよう</p> <p>②「問い」について考える。</p> <p>◇二つの旋律には、どんな特徴があるのだろうか。</p> <p>【学習課題】 二つのせんりつを図形楽譜で表すと、どんな持ちようが見えてくるだろうか。</p>	<p>○前時までの学びの振り返りができるよう、旋律を担当する楽器群や曲の構造を示す「曲の組み立て図」やア・イの旋律を示す「図形楽譜」を示しながら聴くことができるようにする。</p> <p>（「問い」を生み出す手立て等） ○二つの旋律の特徴について問いかける。</p>
展開 28分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①自分なりの考えを持つ。</p> <p>◇後の部分はだんだん大きな音になって迫力がある。</p> <p>②グループで互いの考えを交流する。</p> <p>◇何度も繰り返される打楽器のリズムに特徴があると思う。</p> <p>◇打楽器のリズムの効果に加えて、トランペットの合いの手のリズムや音の厚みが増して、迫力ある金管楽器の旋律に特徴があると思う。</p> <p>③全体で意見を交流する。</p> <p>◇旋律の重なりを表した「図形楽譜」を発表する。</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>曲想とその変化、曲の構造やその特徴の面白さを感じ取って聴き、自分なりに曲の魅力について考え、言葉や体の動き、図や色による区別などで表している。</p>	<p>（見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け） ○着目させたい要素（音色・反復・音の重なり）が明確になるように、それぞれがどのような変化をしているのかを示すことができるようにする （課題解決に向けた見通しを持つ手立て） ○それぞれの部分で旋律の重なりが顕著な楽器群（金管楽器と打楽器）の旋律のリズムに着目して話し合うように促す。</p> <p>（言語活動の設定及び設定の意図） ○音楽の要素を基に、二つの部分の工夫点について考え、意見を伝え合うことにより、その特徴について考えを深められるようにする。</p> <p>○なぜ、そのように重ねた形の図形楽譜にしたのか、理由をつけて説明できるようにする。</p> <p>【具体の評価規準】思① ○旋律の重なりを示す「図形楽譜」をつくり、音楽の特徴を伝えている。 （方法：学習シートの記述・発言）</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○主題旋律の図形楽譜を指し示しながら、適宜声かけをしたり、友達の見解から納得したものを取り入れるよう促したりする。 ○児童の発言等からまとめよう。</p>
終末 7分	<p>3 学習課題のまとめをする。</p> <p>【まとめ】 図形楽譜で表すことで、同じ旋律でも、使う楽器が違ったり、打楽器の数が違っていることが分かった。等</p> <p>4. 学習したことを振り返る。</p> <p>◇図形楽譜をつくることで、曲の構造や特徴がわかり、その面白さを感じ取って聴くことができた。これから聴く曲も、要素や楽器などに気を付けて聴いていきたいな。</p>	<p>○振り返りの視点を示し、最初の聴き方（知覚）・感じ方（感受）から、どのように変わったのかということが分かるようにする。また、自己内比較や他者との比較により相違等を実感できるようにする。</p>

【板書計画】

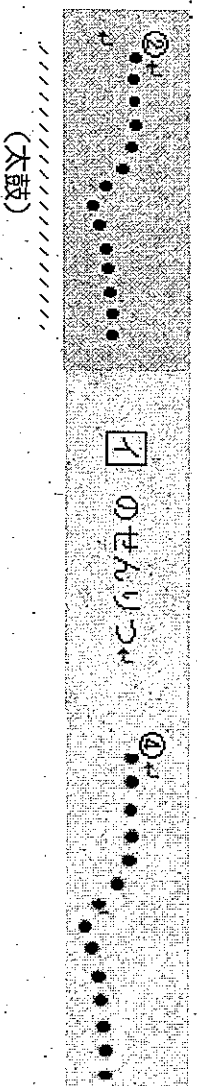
めあて

曲が見える「図形楽譜」をつくって音楽の持ちようを伝えよう

【学習課題】

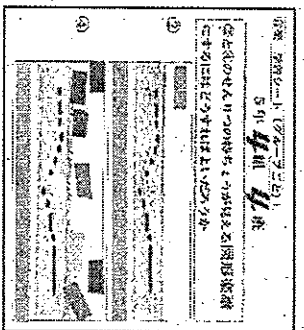
二つのせんりつを図形楽譜で表すとどんな特徴が見えてくるだろうか。

◎二つの違いが見えるようにするにはどうすればよいらうか

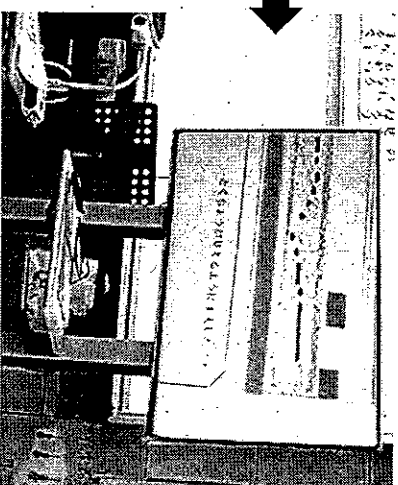


【ICT活用計画】

例 各グループで作成した図形楽譜を電子黒板で提示し、全体で共有できるようにする。



各班でまとめた学習シート（図形楽譜）を電子黒板に写す。



※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【題材構成の工夫】

例 鑑賞での学びを表現（歌唱）に生かす。

歌唱教材として、今月の歌で斉唱として歌ったことがある「音楽のおくりもの」を取り上げ、二つの声部の働きとその効果について、鑑賞で学んだことを基に合唱表現に生かす学習活動を設定。

第3学年 図画工作科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材構想

題材名	にぎわい動物園 (絵 (版表現)) (1)・多様な材料を使って版表現に表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じが分かる。 ・表したいことに応じて材料や用具を活用するとともに、前学年まではさみや接着剤についての経験や技能を生かしたり、材料を組み合わせたこととして、表し方を工夫して表す。 (2)・多様な材料に触れながら感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、構成の美しさなど自分の作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな考えを話し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。 (3)・進んで材料を切り組み合わせたりして版表現に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色、材料などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。		
題材の目標	知識・技能 ①多様な材料を使って版表現に表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 ②表したいことに応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までののはさみや接着剤について経験や技能を生かしたり、材料を組み合わせて表し方を工夫している。 思考・判断・表現 ①形や色、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、多様な材料に触れて感じたことから、表したいことを見付け、形や色、構成の美しさなど考えながら、どのように表すかについて考えている。 ②形や色、それらの組合せによる感じを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 主体的な学習に取り組む態度 ①つくりだす喜びを味わい進んで材料を切り組み合わせたりして版表現に表す学習活動に取り組もうとしている。		
題材の評画面標準	題材終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿) 自分の表したいことに合わせて形や色、材料 (凹凸の形を生かした使い方) や用具 (はさみやカッターの刃物やのり等の接着剤) を選んで表現したり、日常生活の中でも状況に応じて多様な視点から工夫することで自分の伝えたいことが伝わりやすくなることに気付いたりしている児童 題材を通して学習課題 本題材で働かせる見方・考え方		
どの材料 (素材・形・色) を使えばあなたの表したいものが表現できますか。	感性や想像力を働かせ、版画の材料に触れたり形や色などどの感じについて考えたりしながら自分の表したいことに向かい、新しい意味や価値をつくりだすこと。 指導計画と評価計画 (5時間取扱いは 本時 4/5)		
過程	時間	学習活動	評価の観点等 <small>*は記録に表す評価の場面です。具体的な評価規準!</small>
1	2	○ 版画作品を鑑賞し、版表現の仕組みや版画のつくり方について理解する。 ○ 様々な素材に触れ、どのような表現になるかを試してみる。 ○ 自ら必要な材料や用具を準備し、表したいことを見付ける。 ○ 材料を切ったり、別の材料を組合せたりしながら版をつくろう。 ○ 版ができたから試し擦りを行い、さらに、色や構成の美しさを考えながら、 <u>自分の表したいこと</u> に近づくよう考える。【本時】	【知①】 (観察) 【徳①】 (観察) 【思①】 (ワークシート)
2	3	○ 自分たちの作品から、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしながら鑑賞する。	【知②】 (作品・観察) ○ 表したいことを表現するために、材料や用具を工夫して使っている。 ★【徳①】 (作品) ○ 試し刷りから、自分の考えに近づくよう色や構成を考え直している。
3	1		★【思②】 (ワークシート・発言) ○ 自分たちの作品から、造形的なよさや面白さ、工夫されている部分について発見している。

2 単元における系統及び児童の実態

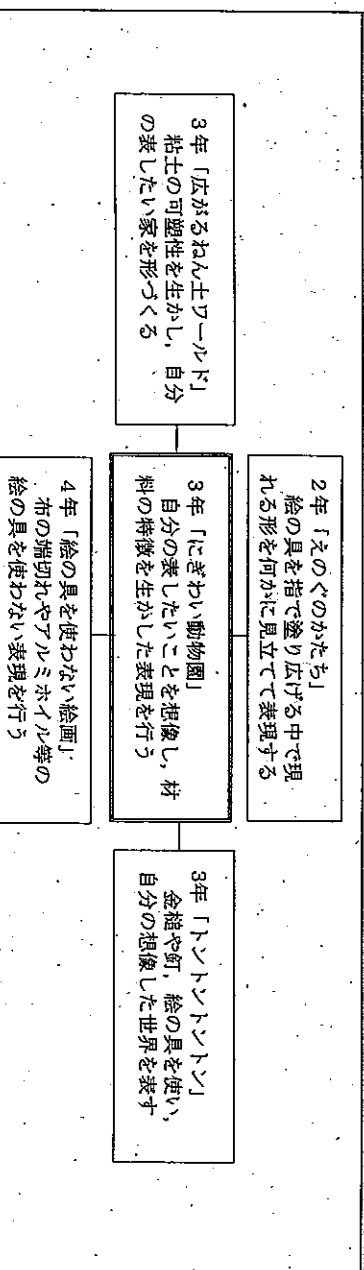
学習指導要領における該当箇所(内容・指導事項等)

小学校学習指導要領第3学年及び第4学年
 (知識及び技能) [共通事項] (1)ア, 技能に関する事項(2)イ
 (思考力, 判断力, 表現力) 発想や構想に関する事項(1)イ, 鑑賞に関する事項(1)ア, [共通事項] (1)イ

教材・題材の価値

本題材は、版表現を通じて材料によって変化する模様や形等の面白さに気付く、材料から自分の表したいことを見付け、さらに自分のねらった表現に近付けようと試行錯誤を繰り返すことができる題材であり、図画工作に必要な創造力を養うことに適している。

本題材における系統



児童の実態 (題材の目標につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	調査内容				割合 (%)
	理解	応用	転移	創造	
感じたこと、想像したことから表したいことを見付けることができる。	—	—	—	—	—
好きな形や色を運んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えることができる。	—	—	—	—	—
はさみ、のり、簡単な小刀類などで切断や接合、接着をすることができる。	—	—	—	—	—
感じたこと、想像したことから見付けた表したいことを基に、感じたことを生かしながら表すことができる。	—	—	—	—	—

(%)

■本題材の学習に関する意識の状況	調査内容				割合 (%)
	よく	まあまあ	あまり	ない	
自分の発想力を高めたり広げたりすることができると思う。	—	—	—	—	—
自分の技能を高めたり広げたりすることができると思う。	—	—	—	—	—
課題解決のために、友達の見方や考えを参考にして表すことができると思う。	—	—	—	—	—
作品をよりよくするために、最初の段階からつくりかえることができると思う。	—	—	—	—	—

(%)

■考察

(脂質・能力に関して) 感じたこと、想像したことから表したいことを見付けることを苦手としている児童が多く、今後も重ねて指導が必要である。ただし、表したいことを見付けることができた場合、好きな形や色等を考えることについてはできると回答している児童が多く、いかにして表したいことを見付けさせられるかが支援の中心となる。材料や用具の扱いに関しては、第1学年及び第2学年で一通り学び、多くの児童ができるとしている。しかしながら、感じたことを生かして表すことができるという感覚を感じており、思考と技能の結び付きを強くするような題材の設定を考えていく必要がある。(学びに関して) 発想力を高めたり広めたりすることが十分にできていないという結果から、友達との対話や作品との対話を通して補うような展開も考える必要がある。また、技能についても十分に自信を持っている児童も少ないが、うまく上手に描いたりつくったりすることを目標としない視点を明確にした指導を行い、よさや面白さ等に気付かせていく。さらに、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、資質・能力を育成するという観点から、最初の段階で考えたことから、つくり、つくりかえ、つくりかえという学習過程が必要となる。

3 指導に当たった際の留意点

- 自分の表したいことにふさわしい材料や形、色は何か探求する姿勢を大切にし、主体性を持続させた学びになるようにする。
- 試し刷りから本刷りまで、つくり、つくりかえるという過程を踏ませ、自分の表したいことに近づくまで何度も挑戦できるようにし、諦めず粘り強く学習に取り組む姿勢を育む。
- 学習過程の中に小刻みに鑑賞の時間を取り入れ、よさや面白さを友達と交換することにより、自らの作品製作に取り入れられようとしたり、工夫したりする思考力を豊かに育む。

4 本時の学習

- (1) 目標 試し刷りから、自分の表したいものに近付くよう、色や構成を再構築して表すことができる。
 (2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 課題をつかむ ①前時までの試し刷り作品から、変化を付けたい部分はないか投げ掛ける。 ◇ある。思っていたことと違う。</p> <p>【めあて】 試し刷りから、変化を加えたい部分を見付け、本刷りをしよう。</p> <p>②自分の意図とどのように違うのかをじっくり考える。 ◇試し刷り作品では色が単調だ。画面が寂しい。</p> <p>【学習課題】 自分の表したいことに近付けるための工夫を考えて表そう。</p>	<p>○版画作品は、版ができれば擦ることは短時間ででき、作品がさらに自分の思ったように仕上がっていくことを確認する。</p> <p>○試し刷りの作品で、よくできている部分と、もう少し工夫したい部分はないか、じっくり鑑賞させ考えさせる。</p> <p>○感性や想像力が動きやすくなるよう、動物の特徴のわかる写真等を準備する。</p> <p>○何度も試し刷りを行わせたり、構想画を修正させたりすることで、作品の変化を実感させる。</p>
展開 30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①材料の生かし方について考える。 ◇波打つボール紙はシヤクワの模様に見せたい。 ◇細かい網目が写し取れなかったので、大きい網目を使って檻を表現したい。 ◇梱包材を細長く切ればタコの足のように見せられるかも。</p> <p>②形・色・構成について考える。 ◇もつと丸みを帯びたようにしたい。 ◇体と頭を切り離し、別々の色にしたい。 ◇たくさん擦って賑やかにしたい。</p> <p>【期待される学びの姿】 材料を生かせる方法をさらに考え流とともにも、形や色等についても創意工夫して表そうと考えを深めている。</p>	<p>○材料と形・色・構成のいずれか一つにでも挑戦してみるように声掛けを行う。</p> <p>○工夫や変化の見える児童の前後の作品を取り上げ、よりよくなっている部分を具体的に実感させ、意欲を喚起する。</p> <p>○材料や形等のうち、何を改善していこうとするのか明確にするためワークシートに自分の考えを書き、グループで発表する。</p> <p>【具体の評価規準】 愚① ○試し刷りから、自分の考えに近付くよう色や構成を考え直ししている。 (方法：作品)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○何を工夫すればよいかわからない児童に対して、他の児童作品を見せることによって、自身の作品の改善への手掛かりとさせる。</p>
終末 10分	<p>3 学習課題に対してそれぞれの意見を拾い上げ、めあてに対する振り返りをする。</p> <p>【まとめ】 それぞれに材料、形、色、擦る場所を変えることによって、自分の表したいものに近付けることができた。</p> <p>◇材料の特徴を十分に生かした作品ができた。形や色を工夫したことによって、自分の表したかった動物、世界観に近付いた。</p>	<p>○試し刷りから変化を加えたい部分を探し、本刷りに生かすことができたか。課題解決の方法は適切であり、より自分の表したい作品に近付けることができたか。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法を共有する。 ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に行う。</p>

【板書計画】

にぎわい動物園

題材の学習課題

「材料の特徴を生かしたり、形や色等を工夫したりして版画で表そう。」

めあて 試みずりから、変化を加えたい部分を見つけ、本ずりをしよう。

本時の学習課題 自分の表したいことに近付けるための工夫を考えて表そう。

○材料の生かし方

どんな工夫が考えられるだろうか

- ・段ボールのたて線はしまよようになるかも。
- ・くたものネットは黒かごになる。
- ・フチフチはタコの足になるかも。

○形、色、構成の工夫

- ・まる味をおびた形にしたい。
- ・頭と足はべつつの色にしよう。
- ・同じ形を色を変えてふやす。

まとめ

材料、形、色を変えることで、自分の表したいものに近づけることができる。

<作例>

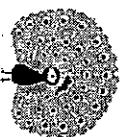


【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

教科書や図鑑等に載っている本物の動物の写真等を電子黒板で拡大提示し、素材の特徴と照らし合わせて考える補助とする。

動物の写真



素材の写真 果物のネット、ダンボール、ビニル梱包材、端切

具体例を示し、形、色、構成の工夫について考える補助とする。

形



色



構成



第5学年 家庭科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 5年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材構想

題材名	おいしく作るう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁		
題材の目標	(1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。 (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして生活を工夫し、実践しようとする。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の 評価規準	① 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ② 米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 ③ 米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解できるとともに、適切にできる。 ④ 我が国の伝統的な配膳の仕方について理解している。とともに、適切にできる。 ⑤ みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解できるとともに、適切にできる。	① おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ② おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。 ③ おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	① 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ② 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ③ 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。
題材終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)			
伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、おいしく作るための課題を設定し、解決に向けて取り組みながら、自分と家族の食生活をよりよくしようと工夫したり、生活文化を大切にしようとしたりする児童			
題材を通じた学習課題		本題材で動かせる具方・考え方	
日本の伝統的な日常食である「ごはん」と「みそ汁」のおいしい作り方を探り、家族に喜んでもらえるように工夫してつくろう。		伝統的な日常食であるごはんとみそ汁を、「健康」や「生活文化の大切さへの気付き」の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。	
指導計画と評価計画 (1.0時間取扱いは 本時6 / 1.0)			
過程 時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」	
1	○ 食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに、米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解する。 ・ 日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合う。 ・ 外国の食卓と日本の食卓の写真を比較し、米飯とみそ汁を日常的に食べている理由や米飯とみそ汁のよさについて考える。	★【知①】 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。 ・ 学習カード *ペーパーテスト ★【知②】 米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 ・ 学習カード	
自分の食事を			

見つめよう	<p>○米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだし、おいしく食べるための課題を設定する。DVDや家庭で調べてきたことをもとに、米飯とみそ汁の調理の仕方について、疑問に思ったことなどを発表する。</p> <p>・米飯（水加減が異なるもの）とみそ汁（だしの有無）を試食し、気付いたことを発表する。</p> <p>・おいしく食べるために、米飯とみそ汁の調理の仕方について追究する課題を設定する。</p> <p>おいしいごはんとみそ汁の作り方を探ろう</p>	<p>★【思①】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>・行動観察・学習カード</p>
おいしいごはんとみそ汁を作ろう	<p>○日本の伝統的な日常食である米飯の調理や配膳の仕方について理解し、適切に炊飯や配膳する。グループで鍋を用いて炊飯し、米の変化を観察し、記録する。</p> <p>・みそ汁の絵カードとともに配膳し、試食する。</p> <p>・確認テストにより、米や水の分量、米飯の調理の仕方（炊飯の一連の手順）を振り返る。</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 (本時)</p> <p>○日本の伝統的な日常食であるみそ汁の調理について理解し、適切に調理する。(ペア調理)</p> <p>・大根、油揚げ、ねぎのみそ汁の味の切り方や入れ方について、実験を観察し、考えたことを発表する。</p> <p>・だしのとり方を示範により確認する。</p> <p>・ペアでみそ汁を調理する。(本時)</p> <p>・確認テストにより、みそ汁の調理の仕方を振り返る。(本時)</p>	<p>★【知③】米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解している。</p> <p>★【知④】我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・米飯とみそ汁の配膳の写真</p> <p>【態①】伝統的な日常食である米飯の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ポートフォリオ・行動観察</p> <p>【態①】伝統的な日常食であるみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ポートフォリオ・行動観察</p> <p>★【知⑤】みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・学習カード・確認テスト・行動観察</p>
家族と食べるおいしいごはんとオリジナルみそ汁を作ろう	<p>○「家族と食べるおいしいごはんとオリジナルみそ汁」の「オリジナルみそ汁（試し作り）」の調理計画を考え、工夫する。</p> <p>・オリジナルみそ汁の条件を確認し、材料の分量、味の取り合わせや切り方を考える。</p> <p>7</p> <p>美の種類</p> <p>■加熱して柔らかくする必要がある</p> <p>■根菜類など</p> <p>■香りを大切にすることも</p> <p>■ねぎ、三つ葉など</p> <p>■温めるだけでよいもの</p> <p>(豆腐、わかめなど)</p> <p>○オリジナルみそ汁の調理（試し作り）をする。</p> <p>・調理台や加熱用調理器具の効率的な使い方を確認し、各自が試し作りの調理計画を立てる。</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>○オリジナルみそ汁の調理（試し作り）をする。</p> <p>・各自が調理計画に基づき、実習する。(2人1組で実践交流し、相互評価する。)</p> <p>・気付いたことを実践記録表に記入する。</p>	<p>★【思②】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。</p> <p>・調理計画・実践記録表</p> <p>★【態②】伝統的な日常食であるみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>ポートフォリオ・調理計画・実践記録表</p> <p>・行動観察</p> <p>★【知⑥】みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・行動観察・調理計画・実践記録表</p> <p>★【思③】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>・調理計画・実践記録表</p> <p>★【思④】おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。</p> <p>・行動観察</p>
10	<p>○「家族と食べるおいしいごはんとオリジナルみそ汁」の調理計画を考え、工夫する。</p> <p>・実習を振り返り、ペアで改善点を確認する。</p> <p>・家庭で米飯とオリジナルみそ汁を一人で調理することを想定し、できあがりの時間を考え、調理計画を立てる。</p> <p>・グループで交流し、調理計画を改善する。</p>	<p>★【主⑥】伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。</p> <p>・ポートフォリオ・調理計画・実践記録表</p>

*ペアワークについて、ある程度の内容のまとめりについて実施する。

2 単元における系統及び児童の実態

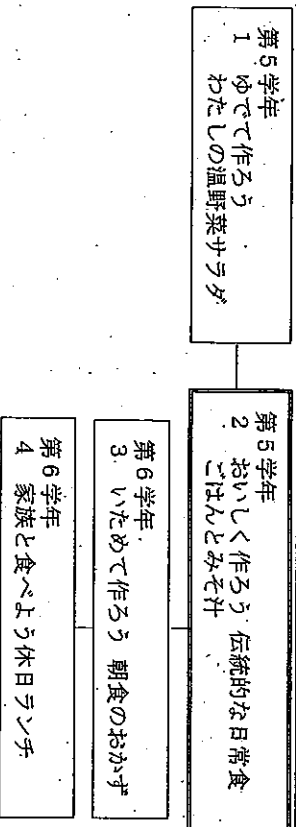
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

「日食生活」 (1) 「食事の役割」 のア
(2) 「調理の基礎」 のア(イ)、(ロ)、(ハ)及びイ

教材 題材の価値

伝統的な日常食である米飯やみそ汁の調理の仕方を身に付けるとともに、課題を解決する力や自分と家族の食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度、生活文化を大切にしようとする態度を養うことに適している。

本題材における系統



児童の実態(題材の目標につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	十分	概ね
ゆでる調理ができる。	—	—
ゆでる調理において、ゆで方の工夫ができる。	—	—
どんな工夫がありますか。	・水からゆでるものと、熱湯でゆでるものがある。 ・切り方をそろえる。 など	

■本題材の学習に関する意識の状況

調査内容	毎日	ほぼ毎日	時々	食べない
朝ごはんを食べますか。	毎日	ほぼ毎日	時々	食べない
何を食べてきますか。	ごはん	みそ汁	パン	その他
食事に関することで、家庭で手伝いをしますか。	よく	まあまあ	あまり	ない
学校で学んだことを生かして、家庭で調理をしたことがありますか。	よく	まあまあ	あまり	ない

「我が家のみそ汁」インタビューを実施する。

■考察

(資質・能力に関して) 「ゆでる調理」で学習した内容については概ねできているものの、さまざまな材料について、具体的な工夫ができる力を身に付ける必要がある。オリジナルみそ汁を完成させる過程で、材料や目的に応じたゆで方を工夫するなどし、試行錯誤をする中で基礎的的事項を身に付けさせる必要がある。

(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から学びの状況を見ると、家庭で手伝いをしたり、学校で学んだことを家庭で実践したりしようとする点については、あまりできていないことから、題材を通して、家庭での実践につなげることを意識することによって、学びを活用しようとする学習が必要である。また、朝ごはんでご飯とみそ汁を食べ比べてくる児童は半数以下であることから、米飯やみそ汁という我が国の伝統的な日常食のよさを味わい、生活文化の大切さに気付かせる必要がある。

3 指導に当たった際の留意点

○自分自身や家庭での食事についての調査を事前に共有し、「家族と食べるオリジナルみそ汁を作るう」の設定につなげる。

○題材導入時に、題材のゴールである「家族と食べるおいしいごはん」とオリジナルみそ汁を作るう」を示すことで、調理計画を考え、工夫するという課題意識を持てるようにする。

○めあてを明確にし、一人は調理、もう一人は観察を行ううべア調理によって、活用する力につなげられるようにする。

○学習カードに、改善策や今後取り組んでみたいことを記入しておくことで、家庭での実践につなげ、生活の課題を捉えながら、より良い生活のために工夫しようとするようにできるようにする。

4 本時の学習
 (1) 目標 みそ汁の調理について理解し、適切に調理することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (学習活動の児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①前時までのおいしく食べるための課題を振り返る。 ◇これまでは、おいしく食べるためのみそ汁の調理の仕方について学習したな。</p> <p>【めあて】みそ汁調理のポイントを確認して、おいしいみそ汁を作ろう。</p> <p>②みそ汁の調理の仕方について考えたことや気付いたことを整理する。</p> <p>【学習課題】 みそ汁をつくるためのポイントを確認しながら調理をすれば、おいしくできるだろうか。</p> <p>2 ペアでみそ汁を調理する</p> <p>①一人目が調理する。 ②二人目が調理する。</p> <p>◇ポイントを確認しながら、手順どおりにできているかな。</p> <p>③試食する。 ◇今日のめあては達成できたかな。 ◇実が少し硬くなつてしまったね。 ◇みそを入れるタイミングが早かつたかな。</p>	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○題材のゴールを確かめ、題材計画からゴールを設定する。</p> <p>○おいしく食べるためのみそ汁調理のポイントについて問う。</p> <p>○「だしのとり方」「実の切り方」「実を入れる順番」「みその扱い方」について、ペアで確認する。</p> <p>○「だしのとり方」「実の切り方」「実を入れる順番」「みその扱い方」について、自分の言葉で説明できるようにし、調理に取り組みやすくする。</p> <p>○試食しながら、ペアで調理を振り返る。</p> <p>○調理が計画的にできたところ、できなかったところとその理由について話し合うことで、その内容を共有したり、違いに着目したりすることができる。</p> <p>【具体的評価規準】知⑤ ○みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。 (方法：学習カード・確認テスト・行動観察)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○みそ汁の調理の手順を再確認したり、実の切り方を図や写真を用いて提示したりする。</p> <p>○ポイントを確認しながら、みそ汁の調理ができたら振り返る。</p>
展開 30分	<p>3 確認テストにより、みそ汁の調理の仕方を振り返る</p> <p>【期待される学びの姿】 みそ汁の調理で、計画どおりにできたことや、できなかったことこの理由を考え、次の課題に生かそうとしている。</p>	<p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の解決方法等を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う。</p>
終末 10分	<p>4 本時の振り返りをする</p> <p>【まとめ】みそ汁づくりのポイントを確認しながら調理をすることができ、手順の根拠を考え、オリジナルみそ汁づくりに向けた改善案を思い出すことができた。</p>	<p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の解決方法等を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う。</p>

【板書計画】

めあて みそ汁調理のポイントを確認して、おいしいみそ汁を作ろう

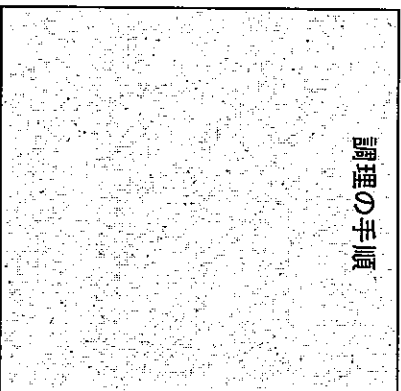
みそ汁づくりのポイント

○だしのとり方

○材料の扱い方

- ・実の切り方
- ・みその扱い方
- ・実を入れる順番と時間

調理の手順



オリジナルみそ汁づくりに
向けた改善点

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

- 調理の場面で、テレビ(電子黒板)で前時に確認しただしのとり方(示範)を動画で示し、必要な子供が確認できるようにする。
- 調理の手順は一人一台のタブレットで示し、確認できるようにする。調理後の振り返りにおいて、改善策を考えるときに、タブレット上で検討させる。(作業カードを並べ替えるなどして考える)
- タブレット上で検討した改善策を電子黒板で示しながら説明し、全体で共有する。

【見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む計画】

題材の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

例 1 ※本題材の終末でたてた「家族と食べるおいしいごはん」とオリジナルみそ汁」の調理計画を生かして、
て、「家族・生活についての課題と実践」に取り組ませることなども考えられる。

例 2 ※本題材で働かせた見方・考え方を生かして、題材「めざそう買い物名人」において、「みそ汁の
買い物計画を立てよう」に取り組ませることなども考えられる。

第2学年 体育科 学習構想案

日時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	器械・器具を使った運動遊び (マットを使った運動遊び)		
単元の目標	(1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。 (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようになる。		
単元の評価規準	知識・技能 ① マットを使った運動遊びの行い方について話したり、実際に動いてみたりしている。 ② マットに背中や腹などをつけているいろいろな方向に転がつて遊ぶことができる。 ③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	思考・判断・表現 ① 坂道のジグザグなどの複数のコースでいるいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいく。 ③ 友達の良い動きを見付けたら、自分で考えたりしたこと友達に伝えたり書き出したりしている。	主体的に学習に取り組む態度 ① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動遊びをしようとしている。 ③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④ 場の安全に気を付けている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿 期待される姿)			
マットを使っていたりいるな転がり方や跳び方、体の保持の仕方といった運動遊びの楽しさを感じ、その他の運動遊びに生かしたり、進んで運動遊びに取り組んだりする児童。			
単元を通じた学習課題		本単元で動かせる見方・考え方	
様々な「マットランド」でいるいろいろな転がり方などをして楽しもう。			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 <small>★は記載に要す評価の場面と具体的な評価規準</small>
一	1	○ オリエンテーション ・ 学習内容の確認 ・ 安全の約束の確認 ・ 場の準備や片付けの仕方の確認	【徳④】 (観察)
二	3	○ 感覚づくりの運動遊びを楽しむ。(本時) 【ころころランド】 ・ 前転がり、後転がり、だるま転がり、丸太転がりをして楽しむ。 ・ 転がり方を組み合わせる。 【びよんびよんランド】 ・ 腕支持での川遊び、腕支持での平均台跳びをして楽しむ。 ・ 腕立て横跳び越しをして楽しむ。 【さかさまランド】 ・ 跳び箱や肋木を使った運動遊びをして楽しむ。 ・ さかさまからのフリッジをして楽しむ。	★ 【知①】 (観察・学習カード) いろいろな転がり方について話したり、実際に動いてみたりしている。 【徳③】 (観察) ★ 【知②】 (観察) 【思③】 (観察・学習カード) 友達の良い動きを見付けたら、自分で考えた跳び方を伝えたりしている。 【知③】 (観察) ★ 【能①】 (観察) 【能②】 (観察)
三	2	○ 様々なマットランドで楽しむ。 ・ グループでマットランドの場を作って楽しむ。 ・ 作ったランドをグループ同士で紹介して楽しむ。 ・ 他のグループが作ったランドで楽しむ。 ・ もっと楽しいランドになるよう工夫する。 ・ 動きのバリエーションを楽しむ。	★ 【知②または③】 (観察) いろいろな方向に転がったり、手などで支えて、保持したり移動したりして遊ぶことができる。 【思②】 (観察・学習カード)

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容・指導事項等)	
小学校学習指導要領第1学年及び第2学年 [知識及び技能] イ、マットを使った運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする動きを身に付けること。 [思考力、判断力、表現力等] ア マットを使った運動遊びの簡単な遊び方を選ぶこと。 イ 友達の良い動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えること。 [学びに向かう力、人間性等] 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。	

運動の価値

器械・器具を使った運動遊び(マットを使った運動遊び)では、主に「回転」、「支持」等の動きで構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した動きに挑戦したりして動きを身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元における系統

第1学年及び第2学年 器械・器具を使った運動遊び (ア) 固定施設を使った運動遊び)	第1学年及び第2学年 器械・器具を使った運動遊び (イ) マットを使った運動遊び)	第1学年及び第2学年 器械・器具を使った運動遊び (ウ) 鉄棒を使った運動遊び) (エ) 跳び箱を使った運動遊び)
	第3学年及び第4学年 器械運動 (ア マット運動)	
	第5学年及び第6学年 器械運動 (ア マット運動)	

児童の実態 (単元の実態につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	調査内容				(%)
	概ね(6割)	8割程度)	十分(8割以上)		
いろいろな方法で転がったり跳んだりバランスをとったりして遊ぶことができる。	—	—	—	—	
手などで支えて体を保持したり移動したりして遊ぶことができる。	—	—	—	—	
安全に気を付け、きまりを守って運動遊びに取り組むことができる。	—	—	—	—	
■本単元の学習に関する意識の状況					(%)
いろいろな遊び方から自分がやりたい運動遊びを選ぶことができていると思う。	—	—	—	—	
友達の良い動きを見付けたり、考えたことを伝えたりすることができていると思う。	—	—	—	—	
友達と仲良く進んで運動遊びに取り組んでいたと思う。	—	—	—	—	

■考察

(資質・能力に関して) いろいろな方向に転がって遊ぶことは概ねできているものの、手で支えて体を保持したり回転させたりして遊ぶことについては、運動経験が少ないのか、多くの経験を重ねていく必要がある。安全に気を付け、きまりを守って運動遊びに取り組むことが十分ではない児童もいるため、授業の導入時には安全な器械・器具の使い方や約束事について児童と確認し合う学習が必要である。
(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの観点から、学びの状況を見ると、自分のやりたい運動遊びを選んだり、友達と協力しながら進んで運動遊びに取り組んだりするなど、主体的な姿がある一方で、友達の良い動きを見付けたり、考えたことを伝えたりすることについては、あまりできていない。対話や交流の場面を多く設定し、自分の考えが相手に伝わった喜び等を実感させる学習が必要である。

3 指導に当たった際の留意点

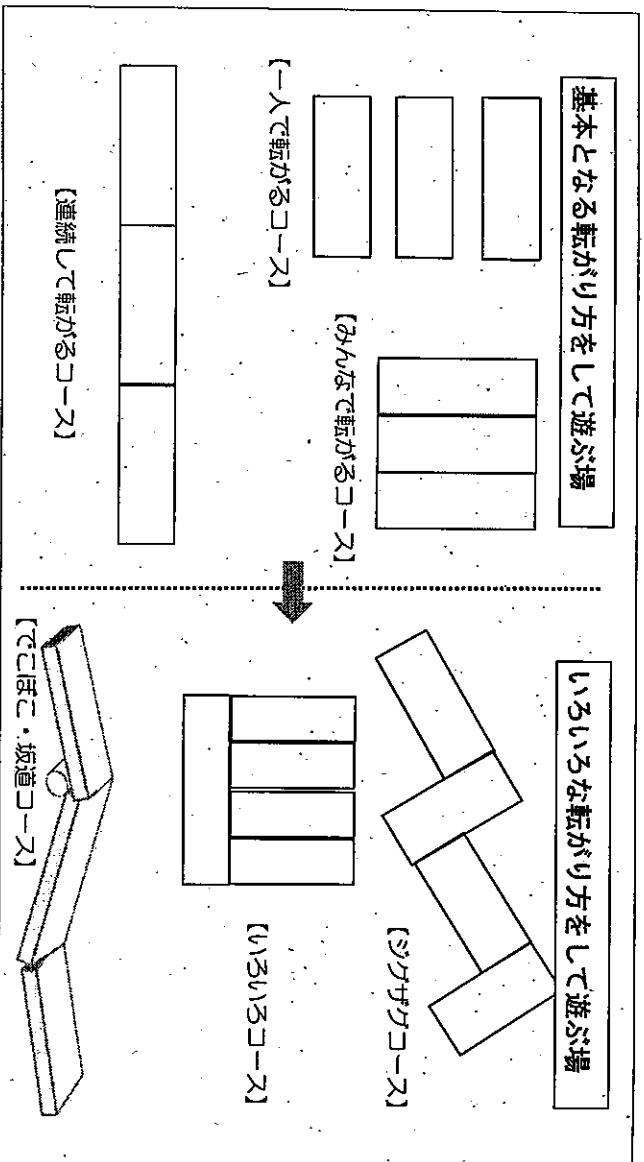
- 「◇◇ラウンド」のネーミング等、児童が興味をもつような様々な場を設定し、いろいろな転がり方で、いろいろな方向に転がって遊ぶことができるようにする。
- 手で体を支える経験が少ないことから、平均台や跳び箱などを活用し、少ない力で体の支持ができるような活動を取り入れるようにする。
- 授業の途中や振り返りの場面で、よい動きをしていた友達を紹介する時間を設けるようにする。
- 学習したことについて、休み時間や家庭でもできる運動遊び等について取り上げ、日常的な運動遊びの機会を増やすようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標 ころころランプでいろいろな転がり方をして楽しむことができる。
 (2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される原案の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 課題をつかむ 場の準備をする。 ワットののみみをきちんと入れよう。</p> <p>2 感覚づくりの運動遊びをする。 犬歩きや馬歩き、しゃくとりむし、かえるの足うち、ゆりかご、ブリッジに挑戦しよう。</p> <p>【めあて】、ころころランプでいろいろな転がり方をして楽しもう</p> <p>③ いろいろな転がり方で楽しむことについて問いを持つ。</p> <p>【学習課題】 ころころランプの場では、どんな転がり方をして遊ぶことができるのだろうか。</p>	<p>○ 場の安全に留意させながら場の準備を行う。</p> <p>○ BGMを流しながら、一つ一つの動きを丁寧にしようにする。</p> <p>○ ころころランプの場を見て、どんな転がり方をして遊ぶことができそうなのかを問う。</p> <p>○ いろいろな転がり方を工夫したり、ワットの形を変えたりすると、さらに楽しんで遊ぶことができるか児童同士で確認する。</p>
展開 30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。 基本となる転がり方をして遊ぶ。 前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸木転がりはこのように転がるんだな。</p> <p>② 工夫した転がり方をして遊ぶ。 忍者転がりや手つなぎ転がりができるし、僕は「〜転がり」を考えたよ。</p> <p>③ ワットの形などを変えて遊ぶ。 坂道ワット、ジグザグワット、でこぼこワットが楽しいな。</p> <p>④ どんな転がり方ができたか紹介する。 〜さんは手をついた前転がりと、手をつかない前転がりをしていったよ。</p> <p>⑤ いろんな転がり方をして更に楽しむ。 友達の転がり方を組み合わせて回ってみたよ。</p> <p>【期待される学びの姿】 自分なりに転がり方を工夫してみたり、ワットの形を変えたりしながら、いろいろな遊び方を考えて活動している。</p> <p>3 めあてにこ対する振り返りをする。 ① 今日の学習を振り返る ② 今日の「キラリさん」は〜君です。ジグザグワットでの忍者転がりを、速い動きでやって、すごいと思いました。</p> <p>【まとめ】ころころランプでは、いろいろな転がり方をして楽しむことができるということがわかった。</p>	<p>○ 基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行わせる。</p> <p>○ いろいろな児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。</p> <p>○ 児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、場のワットの位置を変えたり、踏切板やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。</p> <p>○ 工夫した転がり方で楽しむために、友達の楽しい転がり方を紹介しあえるようにする。</p> <p>【具体的評価規準】知① ○ いろいろな転がり方について話したり、実際に動いてみたりしている。 (方法：観察、学習カード)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○ 友達の転がり方を真似ながら転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。</p> <p>○ 学習カードをもとに振り返りを行う。 ○ 友達の良い動きや、よい言動を認め合えるような言葉かけをする。</p>
終末 10分	<p>② 場の片づけをする。 ③ 4人組でワットを運ぼう。</p>	<p>○ 友達と協力して安全に片付けるようにする。</p>

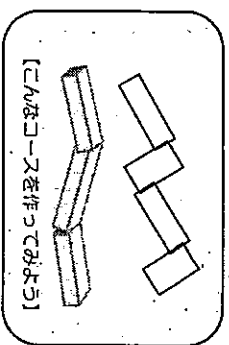
【場の設定(例)】



【ICT活用計画】

電子黒板による場の設定や練習方法、技のポイントなどの提示

例：電子黒板で、いろいろな場の作り方の写真や、いろいろな転がり方の動画等を提示し、課題に迫る動きや遊ぶ場のイメージを共有する。



他の友達の良い転がり方を紹介したり、その他の映像資料等から参考になる転がり方を紹介したりする。

※ 各コースには、動画撮影用のタブレット端末を設置し、児童が転がって遊ぶ様子について「常時録画→15秒後に自動再生」モード等を利用し、自分の動きをその場ですぐに確認できるようにする。

【見方・考え方を働かせて、終末や次時以降の学習に生かす計画】

見方：考え方を働かせ、単元の終末で次の学習に取り組んだり、次時以降の学習に生かしたりする。

例1：学習成果発表会、児童集会、学年集会等で自分たちが考えたワットを使った運動遊びについて発表する。

例2：手で体を支持しながら平均台や跳び箱を跳び越えた運動感覚を生かし、「C走・跳の運動遊び(イ 跳の運動遊び)」の動きに取り入れる。

例3：いろいろな転がり方について経験した運動感覚を生かし、「E ゲーム(イ 鬼遊び)」において、いろいろなワットの場を作ったり、転がりながら追いかけたり逃げたりするルールを決めたりして遊ぶ。

第5学年 外国語科 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	「What do you have on Monday?」 (発行者名「教科書名」p.〇〇~〇〇)		
単元の目標	(1) 教科や時間割について聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の小文字を識別し、読むことができる。【知識及び技能】 (2) 相手に自分のことをよく知ってもらうために、相手に伝わる工夫をしながら時間割や学びたい教科について伝え合うことができる。【思考力, 判断力, 表現力等】 (3) 相手に伝わる工夫をしながら、時間割や学びたい教科について伝え合うとする。【学びに向かう力, 人間性等】		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
	「聞くこと」(9) 【知識】教科の言い方や, What subjects do you like? What do you have on ~?, その答え【技能】好きな教科や時間割など, 具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 「話すこと」(9)【やり取り】(9) 【知識】教科の言い方や, What subjects do you like? What do you have on ~?, その答え【技能】好きな教科や時間割などについて, What subjects do you like? What do you have on ~? 等を用いて, 考えや気持ちなどを伝え合うために必要な技能を身に付けている。 「読むこと」 ※本単元における「読むこと」については, 目標に向けて指導は行うが, 本単元内で記録に残す評価は行わない。	「聞くこと」(9)と「話すこと」(9)の教科概念を捉えようとする。【知識】 「聞くこと」(9)と「話すこと」(9)の教科概念を捉えようとする。【知識】	「聞くこと」(9)と「話すこと」(9)の教科概念を捉えようとする。【知識】 「聞くこと」(9)と「話すこと」(9)の教科概念を捉えようとする。【知識】
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
相手のことを知るために、時間割や好きな教科などについて、必要な語句や表現を使って、伝える相手に応じて工夫をしながら伝え合っている児童		本単元で働かせる見方・考え方	
単元を通じた学習課題		相手の好きなことや得意なことなどを踏まえて、伝えたり尋ねたりする内容や表現を工夫すること。	
指導計画と評価計画 (7時間取扱い 本時7/7)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 <small>※は記録に残す評価の場面での評価規準</small>
1	1	○単元のゴールを確認する。 ○世界の学校生活の様子を知り、自分たちとの共通点や相違点について考える。 ○教科や曜日の言い方について知り、言ったり聞いたりする。	【聞くこと】(9) 【知】(ワークシート, 行動観察)
2	2	○活字体の小文字を識別して読み、アルファベットの音読みや慣れ親しんだ簡単な単語を読む。	【話すこと(やり取り)】(9) 【知】(行動観察)

三 2	○先生たちが考えたオリジナルの時間割について聞き取る。 ○グループごとに、将来の夢に近づくためのオリジナルの時間割を考える。 ○学びたい教科について、オリジナル時間割表に書き写す。	「聞くこと」(ウ) ★【思】(行動観察, 振り返りカード) 先生たちのことをよく知るために、先生たちが学びたい教科やその理由について、必要な情報を聞き取っている。 ★【態】(行動観察, 振り返りカード) 先生たちのことをよく知るために、先生たちが学びたい教科やその理由について、必要な情報を聞き取るウとしている。
四 2 2/2 本時	○伝える相手に配慮しながら、オリジナルの時間割やそれについての自分の考えを伝え合う。 ○単元を通して学習したことや自己の学びの姿を振り返る。	「話すこと(やり取り)」(イ) ★【思】(行動観察, 振り返りカード) 自分のことをよく知ってもらうために、友達のことをよく知ったりするために、学びたいスペシャル科目などについて伝え合っている。 ★【態】(行動観察, 振り返りカード) 自分のことをよく知ってもらうために、友達のことをよく知ったりするために、学びたいスペシャル科目などについて伝え合おうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)

小学校学習指導要領 2 内容 〔知識及び技能〕	<p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 〔思考力, 判断力, 表現力等〕</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに關する事項 ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 (3) 言語活動及び言語の働きに關する事項 ① 言語活動に關する事項 ア 聞くこと イ) 友達や家族, 学校生活など, 身近で簡単な事柄について, 簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を, イラストや写真などを参考にしながら聞いて, 必要な情報を得る活動。</p> <p>ウ 話すこと〔やり取り〕 (イ) 日常生活に關する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを伝えたり, 簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。</p>
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材・題材の価値

本単元では、世界の子供たちがどのような学校生活を送っているのか、どのような科目を学習しているのかなどを知るのに適している。また、児童が現在学習していることやこれまで経験したことが将来の自分に役立つことを感じるとともに、「オリジナル時間割」を作成し、自分の考えを含めて伝え合うことで、伝えたい、聞きたい思いが高まること期待できる。

本単元における系統

5年 When is your birthday? 誕生日や好きなものを伝え合う。	4年 I like Mondays. 曜日の言い方を知り、好きな曜日を尋ねたり答えたりして伝え合う。	5年 What time do you get up? 一日の生活について伝え合う。
	5年 What do you have on Monday? 時間割やそれについての自分の考えなどを伝え合う。	
	6年 Junior High School Life. 中学校の部活動や学校行事などについて伝え合う。	

児童の実態

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
曜日や教科名を英語で言うことができる。	—	—	—	—
好きなもの(こと)について尋ねたり答えたりできる。	—	—	—	—
活字体の小文字の名称読みができる。	—	—	—	—

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
相手の話に反応を返しながら会話を続けようとしている。	—	—	—	—
知っている英語の表現をできるだけ使おうとしている。	—	—	—	—
身近な英単語について絵を参考にしながら読もうとしている。	—	—	—	—

■考察

(資質・能力に関して) 曜日や時間割については、多くの児童が聞いたり話したりすることができている。また、表記されたアルファベットの一部を読み取り、何曜日なのか判断することができる児童は全体の半数程度である。

(学びに関して) 英語で話したり、既習事項を使って会話を続けようとしたりする態度が育ってきているが、自信のなさから会話を継続できない児童も数名見受けられる。発話までの活動を児童の定着状況を見ながら丁寧に行うことや、言語活動において、会話を継続するために必要な定型表現を活用することなどが必要である。

3 指導に当たっての留意点

○単元を通した学習課題を「お互いのことをよく知るために、将来の夢に近づぐためのオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合おう。」と設定し、単元のゴールを児童と共有することで、学習への意欲を高めるとともに、活動の見通しを持たせる。

○単元終末の言語活動に向けて、2回に1回程度スモールトークを設定し、既習事項について想起する活動を行う。

○言語活動では相手を替えて何度もやり取りをさせることで、伝える内容や英語表現について児童自身が思考する場面を設定する。また、中間指導を適宜行い、既習表現や会話を継続するために必要な定型表現の定着を図る。

○単元終末のまとめでは、単元を通して自己の学びの姿容を振り返る時間を設定し、できるようになったことやできなかったことを自覚させ、次の単元への意欲を高める。

4 本時の学習

(1) 目標

お互いのことをよく知るために、将来の夢に近づぐためのスペシャル科目やそれについての自分の考えなどを伝え合うことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (<子種される児童の発言>)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Chant & Review 教科・曜日 ・ Small Talk <p>◇先生は「英語」が好きなんだ。理由は○○なんだ。私の好きな教科は…。理由はどう言ったら伝わるかな?</p> <p>2 教師のデモンストレーションを見る。</p> <p>◇友達どんな夢があるのかな? ◇どんな時間割を作ったのかな?</p>	<p>○映像やリズムに合わせてデンプボよく発話するよう促す。</p> <p>○「好きな教科」についての教師の話の聞き、既習表現や対話を続けるための基本的表現等を想起できるようにする。</p> <p>○デモンストレーションを見ることで、本時のめあて及び活動を確認できるようにする。</p> <p>○グループごとに、「将棋」「釣り」などスペシャル科目を一人1つずつ加えて作成したオリジナル時間割を見合い、ペアでやり取りを確認する。</p>
<p>【めあて】自分の考えたスペシャル科目などについて伝え合い、お互いのことをよく知ろう！</p>			

<p>3 Activity 1 ペアで伝え合う。どんな教科を勉強しますか?」は英語で何と伝えよかったですか?</p> <p>※全体で活動を振り返り、課題を解決す る。「気に入りました」は英語で I like it. と言え ばいいんだ。今度、感想を伝えるときに使っ てみよう。</p> <p>4 Activity 2 目的に応じてペアを替えながら伝え合 う。「将棋」の授業を入れた〇〇さんと話してみよ う。〇〇さんが消防士になりたいことを初めて知 ったな。 ◇感想が伝えられなかったな。次の人には感想を 伝えろぞ。</p> <p>【期待される学びの姿】 相手に感じて、自分が考えたスペイン科目 などについて説明したり、これまで学習した表現 を使って質問したり答えたりしようとしている。</p>	<p>○オリジナル時間割の理由を伝えるために、絵や具体 物などの活用を促す。</p> <p>○3の活動で分からなかった英語表現などを共有し、こ 全体で考えたりALNに尋ねたりしながら解決するこ とで、次の活動への意欲を高める。</p> <p>○一方的な説明で終わらず、話す内容について相手に 問いかけたり、質問に答えたりしながら会話を継続 することを意識するように促す。</p> <p>○伝える内容や英語表現を工夫しながら活動するよう に伝え、ペアでのやり取りを複数回体験できるようにする。</p>
<p>展開 30分</p>	<p>5 学習のまとめ、振り返りを行う。</p> <p>【まとめと振り返り】 ◇たくさんの友達と話せてよかった。 ◇〇〇さんのスペイン科目を聞いて、よく 考えてるなと思った。 ◇だんだん自分から質問したりできるよ うになってよかった。</p>
<p>【具体的評価規準】</p> <p>「話すこと(やり取り)」(ウ) 態 ○自分のことをよく知ってもらったり友達のこと をよよく知ったりするために、学びたいスベシヤ ル科目などについて伝え合おうとしている。 (行動観察、振り返りカード)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○モデルを示したり、キーワードを補足したりして活動 を支援する。</p> <p>○英語でやり取りをしたことでの気付きや、自分の学 びを振り返っての感想などを振り返りカードに記入 し、発表し合うことで学びを共有する。</p> <p>○指導者から、活動に対する気付きを述べる。</p>	<p>○到達していない児童への手立て】 ○モデルを示したり、キーワードを補足したりして活動 を支援する。</p> <p>○英語でやり取りをしたことでの気付きや、自分の学 びを振り返っての感想などを振り返りカードに記入 し、発表し合うことで学びを共有する。</p> <p>○指導者から、活動に対する気付きを述べる。</p>

【板書計画】

単元のゴール：お互いのことをよく知るために、将来の夢に近づくための
オリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合おう！

Today's Goal	June	Monday	sunny
--------------	------	--------	-------

自分の考えたスペイン科目などについて
伝え合い、お互いのことをよく知ろう！

先生のオリジナル時間割

- 活動の流れ
- ①Small Talk
 - ②めあての確認
 - ③活動1
 - ④活動2
 - ⑤まとめと振り返り

What do you have

I have English, ... and _____

on Friday?

music	English	math	science
P.E.	Japanese	social studies	homeroom

【1つの内容項目で作成する例】

小学校第6学年 道徳科 学習構想案

日時 令和2年〇月〇日 (〇) 第〇校時
 場所 6年1組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 学習構想

主題名	自分の中にある誠実な心 (内容項目A(2)正直, 誠実)	
ねらいと教材	(1)ねらい 手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して, 自分の中にある誠実さを確かめながら, 自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。 (2)教材名 手品師 出典:「100(〇〇社)」	
評価の視点	評価の視点1	問題に直面した際の言動やその判断の根拠について, 誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。
	評価の視点2	自分の中にある誠実さについて振り返り, これまでの自身の言動と重ね合わせながら考えようとしている。
目指す児童の姿		
自分の心の中にある誠実さを確かめながら, 自分や他者に対して誠実でいようとする児童		
主題に迫る学習課題 (本時)	本主題で働かせる見方・考え方	
判断に迷ったとき, どんな心をもって, 選ぶとよいのか。	誠実さについて多面的・多角的に考え, 自分との関わりで考えながら, 自己の生き方についての考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導, 各教科等や体験活動等との関連的指導		
特別活動 (児童会活動) 道徳科		
<p>「縦割班活動」 ○ 縦割班活動において, 下級生の気持ちに寄り添いながら, 適切な行動をとる。</p> <p>「代表委員会」 ○ 自分のことだけでなく, 学校全体の利益につながることを考え, 学校生活に係る諸問題の解決を図る。</p>		
総合的な学習の時間		
<p>「心に通じた『どうぞ』のひとこと」 B(7)親切・思いやり</p> <p>「手品師」(本時) A(2)正直・誠実 主題名 自分の中にある誠実な心 手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して, 自分や他者に対して誠実に生きようとする心情を育てる。</p> <p>「お父さんの笑顔」 (平成28年林林地環境課制作「お父さんの笑顔」) C(14)勤労・公共の精神</p> <p>「将来の夢について考えよう」 ○ 地域で働く人々の思いや願いを調べ, 働く意義について考える。 ○ 自分は将来どのような仕事につき, 何を大切にしていきたいのかを考える。</p>		

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容）についての教師の捉え方）

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目A(2)「誠実に、明るい心で生活すること」を基にしたものである。人生は選択の連続であり、私たちは、人との関わりや仕事をすることで、日々様々な選択を迫られている。その際に、損得勘定のみで判断したり、自分の意に反して周囲に合わせたりして行動してしまうと、結果として自分に害は及ばなくとも、そのことによつて他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責が生じることがある。自分の言動に誇りや自信がもてるのは、自分の心にある真面目さや真心を基に行動したときである。仕事や周囲の人々と関わりにおいて、自身に誠実であるうとするとは、自分に誇りを持ち、自分への自信につながるものである。

本主題における系統

<p>小学校第3学年及び第4学年 内容項目A(2) (正直, 誠実) 適ちは素直に改め、正直に 明るい心で生活すること。 教材名「ひびが入った水そう」 主題名「正直は気持ちがいい」</p>	<p>小学校第5学年及び第6学年 内容項目A(2) (正直, 誠実) 誠実に、明るい心で生活すること。 教材名「手品師」 主題名「自分の中にある誠実な心」</p>	<p>中学校 内容項目A(1) (自主, 自律, 自由と責任) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断 し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。 教材名「父のひとこと」 主題名「責任をもつ」</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）

本学級の児童数(30名)

■主題に関する意識の状況

- (1) 委員活動では進んで取り組んでいますか。 「進んでしている」…30人 「していない」…0人
(2) (1)で「進んで取り組んでいる」と回答した人に聞きます。どんなことを考えながら、取り組んでいますか。
(自分の気持ちに近いものを3つを選択)
- ア 仕事を早く終わらせて遊びたい(19人/30人)
 - イ 先生に褒められる(叱られる)(10人/30人)
 - ウ 6年生の他のみんなも頑張っているから自分も頑張らないといけない(20人/30人)
 - エ みんなの役に立つことができたい(16人/30人)
 - オ みんなの喜んでいる姿を見たい(15人/30人)
 - カ 自分のためにもなる(自分の成長につながる)(10/30人)

■考察

本学級の児童は、明るく素直であり、お互いに協力したり助け合ったりすることができる。また、下級生のお世話を進んで行い、委員会活動の仕事にも進んで取り組む姿が見られ、最高学年としての自覚が育ちつつある。

しかし、それらの行動が、誠実さという道徳的価値に基づいたものであることを自覚して行動している児童はまだ少なく、周囲の行動に合わせて行動している場合もある。上記意識調査においても、自分の中にある誠実さや損得勘定なしに行動する真心に基づいた考えを意図して設定したエ〜カを選んでいる児童の方が、ア、ウの外的要因に基づいた考えとして設定したア、ウよりもやや少ないという結果であった。

児童には、本学習に向かう中で、自分自身に誠実であろうとし、誠実な心をもって行動することが、自分に誇りを持ち、周囲の人々の役に立つ喜びや自分への自信につながるものであることに気付かせたい。自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分の正しいと思うことを信念をもって選択できるようにしてほしい。

教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）

教材「手品師」は、大劇場に立つことを夢見ていた手品師が、「さびしそうにしていた男の子との約束」と「夢見ていた大劇場に立るといふチャンス」との間で葛藤する話である。手品師の葛藤と決断について多面的・多角的に考えることを通して、誠実さの意義について考えることができる教材である。

本教材を活用した授業においては、登場人物の高藤場面を中心発問として考えることを通して、児童の多様な価値観を引き出しながら、誠実さの意義等について考えたとともに、誠実でありたいと思う児童の心情を育てていきたい。

3 指導に当たっての留意点

【導入・終末の工夫】(学習過程の工夫)

- 授業の導入場面では、委員会活動における意識調査の結果等を提示することで、児童が本時の主題に関わる問題意識をもてるようにしたい。その上で教材に出会わせていきたい。
- 授業の終末では、他教科等での学習の様子をスライドで提示することで、自分の中にある誠実な心を確認したり、今後の生活における心の持ち方を考えたりする時間を十分確保したい。

【発問の工夫】(指導方法の工夫)

- 児童の価値観の多様性に対応し、様々な視点から児童の考えを引き出すことができるように、教材の葛藤場面に焦点を当てて中心発問を設定したい。その際、どちらか一方の考えに偏ったり、自身の考えに固執する児童がいたりすることが予想されるが、「誠実な生き方とは、自分の心にある真面目さや真心を基に行動すること。」という本主題に迫ることを児童が考えられるように、児童の考えの根拠の部分に焦点を当て、考えさせていきたい。児童の発言を整理する中で、どちらを選んだにしても、選択理由に児童自身の真面目さや真心が共通点としてあることに気付かせていきたい。

4 本時の学習

(1) ねらい

手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入 5分	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>①二者択一の場面における児童の考えから、学習課題を設定する。 「運動会の仕事」と「委員会活動の仕事」と重なったとき、どんな理由で一方を選び、関係する友達や担当の先生に説明しますか。</p> <p>【学習課題】判断に迷ったとき、どんな心をもって選ぶとよいのか。</p> <p>②教材「手品師」の概要を把握する。 ◇「手品師」という仕事は、人を笑顔にする夢のある仕事だなあ。 ◇「手品師」は、何に迷ったのだろうか。</p>	<p>○打算的な考え、他者を優先した考え、自身の信念等を基にした考えなど、様々な視点から選んだ理由を出させることで、自身の経験に基づく様々な判断規準を想起させ、本時の学習課題につなげる。</p> <p>○学習課題の提示後に、教材「手品師」と出会わせ、「手品師」という職業や登場人物の葛藤場面について簡単に紹介することで、教材の中に描かれている問題に気付かせ、中心発問につなげていきたい。</p>
展開 30分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>①手品師は、友人からの誘いを聞いて、どのようなことを考えたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【男の子】 ←→ 【大劇場】</p> <p>◇男の子と約束したから ◇男の子を元氣付けたい。</p> <p>◇誘ってくれた友人が悪い。 ◇大劇場の舞台に立ち、夢をかえたい。</p> </div> <p>②どちらにも共通する大切な心とは何だろう。 ◇人を幸せにしたいと思う心 ◇人が喜ぶ姿をみたいと思う心 3 自分自身を振り返る。 ① 手品師のような心が自分の心の中にもあるか、考えよう。 ◇これまでよく考えずに友達に合わせて行動することが多かったけど、判断に迷ったときは、どちらがより人を大事にしたことなのかをしっかりと考えていきたい。</p>	<p>(個に応じた支援)</p> <p>○男の子との約束を守ることだけでなく、絶え間ない努力によって夢を叶えることにも誠実さがあることを踏まえ、発問を行う。</p> <p>○自分や友達への考えの立ち位置が視覚的に分かるように、スケール図にネームプレートを貼るようにする。</p> <p>○多角的に考えられるように、児童の発言内容を受けて次の発問を行う。 【男の子】を選んだ児童に対して ・男の子との約束より大劇場のステージに立つことを選ぶことはいけないことか。 ・自分の夢をかえようとするのは、いけないことか。 ・自分を犠牲にする必要があるのか。 【大劇場】を選んだ児童に対して ・男の子との約束を、自分の夢のために破ってよいのか。 ・男の子を悲しませてもよいのか。 ○どちらを選んだにしても、児童自身の真面目さや真心(他者を思う心)が共通点としてあることに気付かせていきたい。</p>
終末 10分	<p>◇手品師は、男の子との約束を守ったことで、チャンス逃してしまったかもしれないけれど、自分で後悔をしない生き方をしていたと思う。自分も周りの人の気持ちや思いをしっかりと考えながら、後悔しない選択をしていきたい。</p>	<p>○委員会活動や学校行事等で働いている児童の姿をスライドで見せ、自分の心の中にある誠実さ(学校全体、友達、先生、低学年の児童、地域の人、家族等を大切にしたい心)を想起できるようにする。</p>

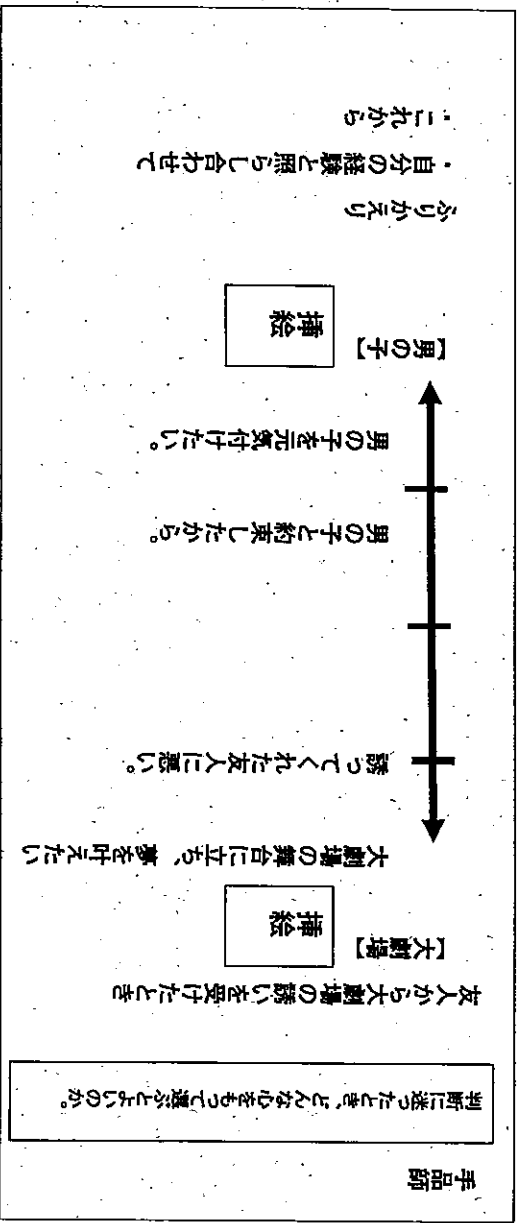
【評面の視点1】 問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的に考えようとしている。

(方法：発言・ワークシート)

【評面の視点2】 自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら考えようとしている。

(方法：発言・ワークシート)

【振書計画】

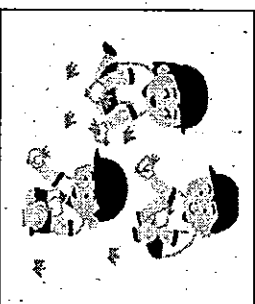
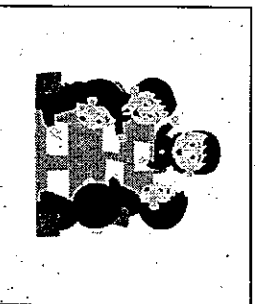
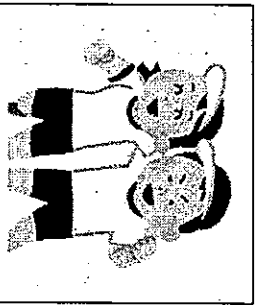


【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

本時終末の振り返りの場面 【電子黒板】

振り返りの場面において、自分の心の中にある誠実さを具体的な場面をもとに想起できるように、委員会活動や学校行事等の児童の写真をスライドで提示。



小学校第6学年 総合的な学習の時間 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	職業について調べ、〇〇で育った自分の未来について語ろう。		
単元の目標	職業体験や職業について調べる活動を通して、 (1) 様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、 (2) 自己の将来の夢やそのために今しなければならぬことについて考えるとともに、 (3) 学んだことをこれからの自己の生き方や生活に生かそうとする。		
単元の 評価 規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。 ② 自分の夢や希望を実現するために、その特徴に合わせた努力しなければならぬことを理解している。 ③ 職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。	① 自分の将来や夢について、理想との隔たりから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 希望する職業や地域の職業に関する情報を、手段を選択して収集している。 ③ 収集した情報から、将来の夢の実現に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ② 課題解決の状況を振り返り、自己の将来の夢の実現のために今しなければならぬこと等、課題の解決に向けてあきらめずに取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿) 様々な職業の良さやそこで働く人の思いに気付き、自己の将来の夢や、そのために今しなければならぬことについて考え、これからの自己の生き方や生活に生かそうとする児童			
単元を通じた学習課題		本単元で動かせる見方・考え方	
職業について調べ、自分の未来について語ろう。 指導計画と評価計画 (2.0時間取扱い) 本時 6 / 2.0			
過程	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面(★は具体の評価項目)	
時間	① 将来の夢や希望について考え、知っている職業を出し合い、単元のゴールを共有する。 ② 他に、どのような職業があるだろうかという課題意識を持たせ、インターネットを利用して様々な職業を調べる。 ③ 調べた中から興味のある職業を一つ取り上げ、仕事内容、必要な資格や能力等について、具体的に調べる。 ④ 調べた情報を個人で広用紙にまとめ、発表の準備を行う。	職業について多様な角度から捉え、将来の夢の実現のために、自分なりに努力しなければならぬことについて考え、自己の生き方を問うこと。 【知①】 (ワークシート) 【思②】 (ワークシート) ★【知③】 (まとめ・行動観察) ○職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。 ★【態①】 (ワークシート・発言・行動観察) ○職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。	
一次	8		

		<p>○職業選択の視点や経緯について実際にインタビューを行い、自分たちの考えた視点と比較する。</p> <p>○1次の活動を振り返り、自分が希望する職業について課題を設定する。</p> <p>○課題に基づいて更に詳しく調べる。</p>	<p>★【知①】（ワークシート・発言） ○社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。</p> <p>★【思①】（ワークシート・発言・行動観察） ○自分の将来や夢について、理想との隔たりから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>★【思②】（ワークシート・行動観察） ○希望する職業や地元の職業に関する情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>★【思③】（ワークシート・行動観察） ○将来の実現に向けて、収集した情報から、今自分がしなければならぬことを考えている。</p> <p>★【知②】（ワークシート・発言・行動観察） ○自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならぬことを理解している。</p> <p>★【思④】（まとめ・発言・行動観察） ○伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>
二次	10	<p>○調べたことや、インタビューしたことをもとに、自己の将来の夢の実現に向けて、今自分ができることや努力したいことを考える。</p>	<p>★【態②】（ワークシート） ○課題解決のために今しなければならぬことをまずに取り組もうとしている。</p>
三次	2	<p>○調べたことと、今自分ができることや努力したいことをまとめ、班や学級内で発表したり、校内で掲示したりする。</p> <p>○新たな疑問やもつと調べたいことがないか考え、単元を振り返り、課題の解決に取り組み。</p>	<p>★【態②】（ワークシート） ○自分の将来の夢をまず取り組もうとしている。</p>

2 単元における系統及び児童の実態

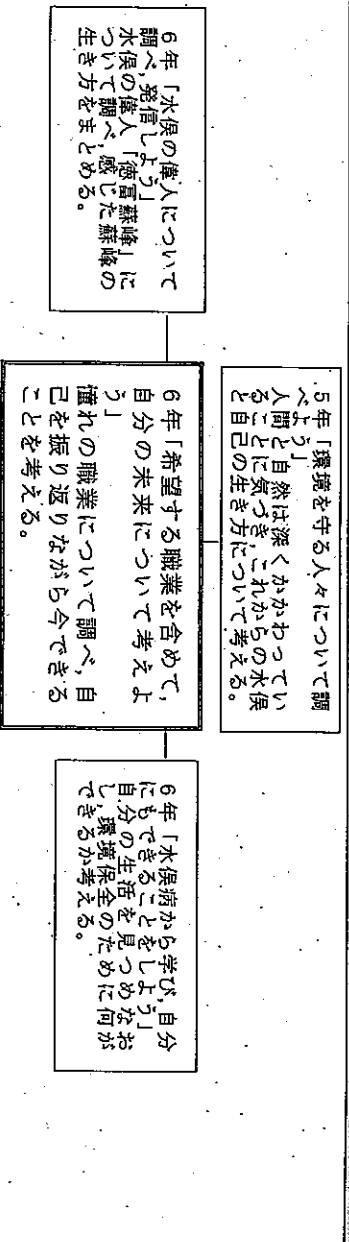
学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)

小学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の目標「・・・」をもとに、探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定し、単元を構成している。

教材・題材の価値

本教材は、自分の性格や希望をもとに職業について調べ、職業選択の方法について考えとともに、自己の在り方を問う活動を通して、生き方について考えることに適している。

本単元における系統



児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)

調査内容	よく	まあまあ	ない
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況			
あなたが付きたい職業について、詳しく知っていますか。	○人	○人	○人
調べた情報を整理、分類して、表現することはできますか。	○人	○人	○人
よりよい社会のために、自ら行動をおこなっていますか。	○人	○人	○人

■本単元の学習に関する意識の状況	調査内容	よく	まあまあ	ない
将来就きたい職業は決まっていますか。		○人	○人	○人
※決まっている人の職業	テニスプレイヤー・プロ野球選手・体育教師・動物保護団体・獣医・水族館の飼育員・助産師	○人	○人	○人
自己の生き方を振り返ることはありますか。		○人	○人	○人
将来のために今しなければならぬことを考えていますか。		○人	○人	○人

■考察

(資質・能力に関して) 調べた情報を整理、分類し、表現することは得意な児童が多い。しかし、社会のために自ら動こうとする意識は低い。本単元の学習を進めるにあたり、実社会に参画する意識が持てるよう、働くことの意味や大切さを実感する必要がある。
(学びに関して) 自分の将来的な夢については、漠然とした希望を持っている児童はいるが、職業選択の幅は狭く、知っている職業についての情報・知識はほとんどないというのが現状である。自分の長所や興味から職業をイメージしたり、たくさんの職業について調べたり、触れられる学習が必要である。

3 指導に当たった際の留意点

- 将来の職業的な夢を持っていない児童が多くいるため、自分の長所や興味をスタートに、希望する職業を選択できるように学習計画を工夫する。
- 自己を振り返り、今できることを考えるきっかけとするために、職業体験に招いた講師の方々のインタビューを見せる。
- 他者と協働して取り組む場面では、相手に配慮しながら、伝えたり、話を聞いたりするよう指導する。

4 本時の学習

(1) 目標 職業について発表したり,他の人の発表やインタビューを聞いたりする中でそれぞれの職業の特徴やよさを理解し,希望する職業の探し方の視点を広げようとしている。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入 5分	<p>1 課題をつかむ ①単元のゴールを確認し,本時の学習課題を確認する。 ◇希望する職業について調べて,「自分の未来について語り合う」だったな。</p> <p>【めあて】職業紹介の発表を聞き,自分に合った職業を探そう。</p> <p>②職業を探す視点について問いを持つ。</p> <p>【学習課題】 職業をどうやって探せばいいのだろうか。</p>	<p>○前時までの学習を振り返る。 ○単元のゴールを確認し,単元計画からめあてを設定する。</p> <p>○どんな視点で自分に合った職業を探せばいいかを問う。 ○インタビューでグループ分けをした時のことを振り返る。</p>
展開 30分	<p>2 課題の解決に向けて活動する ①グループの発表を聞く。 ◇医療系は,人の気持ちを考えることが大切だから,優しい人が向いているのかな。 ◇動物が好きだから動物に関わる仕事に就きたいけど,海外に行ったりするのなら,英語が必要だな。 ②職業体験に来ていただいた方のインタビューを見る。 ◇高校で希望する職業を決めたのが。 ◇子供のところ希望する職業があったけど,途中で変わって最初とは別の職業に就いた人がいるんだな。 3 職業の探し方について振り返る。 ①職業を探す方法を振り返る。</p>	<p>○自分の性格や長所を書いた紙を見ながら発表を聞くことで,より自分に合った職業を見つける視点を持つことができるようになる。 ○発表内容にどんな人が向いている・どんな力が必要かを取り入れることで,全く憧れの職業を考えたいいなかった児童も,本時で一つでも憧れの職業を探すことができるようになる。</p> <p>【具体の評価規準】態① ○職業について調べたりする体験を通して,得た知識や自分と違う考えを生かしながら,協働して課題解決に取り組もうとしている。 (方法:ワークシート・発言・行動観察)</p> <p><到達していない児童への手立て> ○小学生時代,希望する職業をまだ決まっていなかった人のインタビューから,まずはたぐさんの職業について詳しくなる視点を持たせ,一番関心があるものを探さよう促す。</p>
終末 10分	<p>4 学習課題に対する答えをまとめ,めあてに對する振り返りをする</p> <p>【まとめ】職業について考える時,自分の性格や興味に合ったもので職業を探す方法や,○○を考えて探す方法などがある。</p> <p>◇今まで希望する職業はなかったけど,今日たぐさんの職業を知り,自分にあった職業を見つけることができた。 ◇新しい職業を知ったから,もっと詳しく調べたいな。</p>	<p>○めあてや課題と照らし行い,課題解決の方法や学習内容をまとめる。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因,課題の改善方法等を共有する。 ○自らの学びを調整したり,新たな問いを設定したりするなど,振り返りを具体的に言う。</p>

【板書計画】

めあて

職業紹介の発表を聞き、自分に合った職業を探そう。

学習課題

職業をどうやって探せばいいのだろうか。



- ・ トリマナー→動物が好き
- ・ 安定した職業に就きたい
- ・ 得意なことを生かしたい

教師が作った
発表用広用紙
の例

インタビューの
内容を簡潔に

まとめ

職業について考える時、自分の性格や興味に合ったもので職業を探す方法や、○○を考えて探す方法などがある。

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

- インターネットを活用して、職業に関する情報を収集する。
- 児童が調べた内容や、まとめ、振り返り、発表の内容などを学級全体で共有する場面では、実物投影機を効果的に活用する。
- 地域の方への職業に関するインタビューをビデオで撮影し、児童に示す。

小学校第2学年 特別活動 学習構想案

期日 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	議題 「2年〇組オリビックスをしよう」		
内容のまとまりの目標	<ul style="list-style-type: none"> 〇 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 〇 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 〇 生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級生活をよりよくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方について合意形成を図り、「2年〇組オリビックス」の準備や活動をよく助け合っ実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意図して「2年〇組オリビックス」の準備や活動に取り組もうとしている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① みんなで学級生活をよりよくするために他者と協働して「2年〇組オリビックス」に取り組むことの意味を理解している。 ② 話し合いの進め方に関する見聞の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級生活をよりよくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方について合意形成を図り、「2年〇組オリビックス」の準備や活動をよく助け合っ実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意図して「2年〇組オリビックス」の準備や活動に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
自分の役割を考え、学級会の話し合いで決まったことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる児童			
単元を通した課題		本単元で動かせる見方・考え方	
よりよいクラスを目指して、あきらめずに頑張り、みんなと協力し合える「2年〇組オリビックス」に取り組もう。			
指導計画と評価計画 (一連の活動と評価)			
日時	形態	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
〇月〇日 昼休み	計画委員会	<ul style="list-style-type: none"> 〇 議題箱を開けて、議題を選定する。(提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること(条件等)の確認) 〇 学級会ノートに自分の考えを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★【態①】(観察) 〇 学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。 ★【知②】(活動計画・観察) 〇 計画委員会の役割や、話し合いの進捗の仕方等を理解している。
〇月〇日 朝活動	学級全員	<ul style="list-style-type: none"> 〇 全員の学級会ノートを読み、意見を整理する。 〇 学級会ノートを受け取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知①】(観察)
〇月〇日 昼休み	計画委員会	<ul style="list-style-type: none"> 〇 提案理由や話し合いのめあてを意識しながら、学級会を行う。 【本時】 〇 決まったことを学級活動コーナーに掲示し、係の役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★【思①】(観察・学級会ノート) 〇 友だちの意見をよく聞き、めあてに沿った意見を出して折り合いをつけて話し合っている。 【知①】(観察) 【思①】(観察)
〇月〇日 朝活動	学級全員	<ul style="list-style-type: none"> 〇 2年〇組オリビックスを開催し、終了後には、感想や振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★【態①】(観察・実践シート) 〇 「2年〇組オリビックス」の目的を考え、友だちと協力し責任をもって準備したり「2年〇組オリビックス」に参加したりしている。
〇月〇日 校時 〇校時	学級全員		

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所

小学校学習指導要領〔学級活動〕内容(1)ア
「学級や学校における生活をよりよくするための議題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。」

単元の価値

本単元の議題は「2年〇組オリンピックをしよう」である。計画委員会を中心に事前に準備を行い、友だちの意見をよく聞いたり、自分の意見を伝えたりして学級全体で合意形成ができるようにする。また、学級会後に、みんなが決められたことに向かつて役割分担し、実践に向けて協力していくことで、学級活動の楽しさや有感を味わうことができる。

本単元における系統(本年度の学級会 予想される議題も含む)

①学きゆうもくひょうをきめよう	⑤2年〇組ふれあいコンテストをしよう	⑩1年生となかよしこらりゆう会をしよう
②かかり活どうをきめよう	⑦名だをつけようキャンペーンをしよう	⑫音楽会をしよう
③2年〇組のうたをつくろう	⑧チャレンジ大会をしよう	⑬あいさつコンテストをしよう
④2年〇組のキャラクターをつくろう	⑨2年〇組オリンピックをしよう	⑭6年生にありがとうをつたえよう
⑤お楽しみ会をしよう	⑩かかり活どうを見なおそう	⑮2年〇組おわかれ会をしよう

児童の実態(単元の目標につながる字びの実態)

■学力(資質・能力)に関する実態

調査内容	よく				まあまあ				あまり				ない			
	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
友達の発表を、最後まで聞くことができているか。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
自分の考えを発表していますか。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
自分の考えに理由をつけて発表できていますか。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく				まあまあ				あまり				ない			
	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
学級会が好きである。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
学級会でみんなの意見がまとまってよかったと思うことがある。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	
友だちの意見を聞いて、自分の意見を考え直すことがある。	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	〇名	

■考察

(資質・能力に関して) 学級をよりよくするために、話し合いを通して考えたいという思いや、学級会で決まったことにみんなを取り組みたいという思いを抱いている児童が多い。一方で、なかなか学級会で意見を発表できなかったり、決まったことにも積極的に取り組めなかったりする児童もいるので、学級会ノートや実践ノート等を活用し、学級のみんなの思いを拾い上げたり、少数意見の取り扱いに配慮したりしていく必要がある。(学びに関して) 学級会が好きであり、みんなが話し合いをして意見がまとまることに喜びを感じている児童が多い。また、自分の意見を最後まで主張するわけではなく、友だちの意見を聞いてよりよい意見へと考えを変えられることもでき、学級全体としての意見をまとめていくという意識も高い。そこで、折り合いをつける際の技能的な面や、少数意見だった意見の扱い方等を、計画委員会を中心にしながら丁寧に取り扱わせていく必要がある。

3 指導に当たっての留意点

- これまでの学級会や集会活動の経験を生かし、2年〇組オリンピックに向けて、どのような活動ができるのかを考えたり、決まった活動に向けて進んで取り組んだりしていく姿を目指す。そのために、これまでの取組について想起したり、振り返ったりしていく。
- 友だちの意見をよく聞き、「でも」や「だって」などの言葉を使い理由を明確に伝えていく姿を目指す。そのために、2年〇組オリンピックの目的を意識させ、よりよい意見に沿ったり、友だちの意見と合わせたりにしていきながら合意形成を図る。
- 学級会での話し合いの進め方や、意見の出し方、出された意見に対して自分がどのように考えているかを話し合ったりできることを目指す。そのために、自分自身の意見をはっきりと述べ、学級会で決まった事に対して、自分ができることを考えさせていく。
- 今後「学級会をやってみよう」「集会活動を頑張りたい」と言える姿を目指す。そのためには、題材全体の活動を通して、実践と振り返りを大事にしていく。また、キャリア教育の視点を取り入れ、多様な他者の考えや立場を理解させたり、自分の役割を自覚させたりしていく。そのために、計画委員会を輪番にして色々々な役割を担当させ、様々な立場での経験をさせるようにしていく。

4 本時の学習

(1) 目標 2年〇組オリソピックに向けて、どんな内容にするのか、目的を達成するためにどんな工夫ができるのかを考え、折り合いをつけながら話し合うことができる。

第9回 2年〇組学級会計画

議題	2年〇組オリソピックをしよう				
提案理由	オリソピックでは、いろいろなスポーツができます。少しむずかしくても、れんしゅうをがんばったり、友だちときょう力したりしてちょうせんしてみることが、「あきらめず」にがんばる」クラスになると思ったからです。				
話合いの めあて	<ul style="list-style-type: none"> 〇 2年〇組のみんなが、あきらめずがんばり、みんなときょう力あつてとりくめるオリソピックを考えよう。 〇 みんなのいけんをよく聞き、じぶんのいけんをはつきり大きな声で言おう。 				
決まってい ること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体いくかんで行うこと ・ オリソピックは11月8日(金)にすること ・ こじんしゅもく5つと、だんたいしゅもく1つをきめること 				
司会 グループ	司会：〇さん 副司会：〇さん 黒板記録：〇さん 黒板記録：〇さん ノード記録：〇さん 提案者：〇さん				
過程	学習活動	時間	気をつけること	指導上の留意点と評価	備考
つかむ	1 はじめの言葉 2 役割紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 めあての確認 7 先生の話	5分	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ役割と名前、めあてを紹介する。理由を伝える。者の合図で、全員で司会めあてを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 司会グループに自分の事前めあてが言えるように事前に指導をする。 〇 提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 〇 教師の話で提案理由の補足をし、話合いの目的を確認する。 	学級会 セット ノート
	8 話合い (柱1)オリソピックを 考えよう。 ・ 「リレー」がいいです。 理由は運動会でも協力して盛り上がったからです。 ・ 「まどあて」がいいです。 理由は体育でボールを投げて点数がたくさん入って楽しかったからです。	20分	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 柱1は、「オリソピックの内容を考えよう」です。みなさん意見を出してください。黒板記録係はスムーズに意見は短冊を用意し、ズに貼っていくようにする。学級目標や提案理由に沿っているか気をつける。 ◇ 意見が出たので、賛成意見を出してください。 ◇ 決定する前に心配なこととはありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 話合いの流れを考えながら、司会グループと一緒に進行をする。 〇 意見を出す際は、理由が大切であることを意識させる。 〇 意見が出にくい場合は学級会ノートに発表でき込るよう励ます。 	
ふかめる	9 話合い (柱2) あきらめず がんばるためのく ふうを考えよう。 ・ 元気な声でおうえんする といいと思います。 ・ グループでおそろいの物をよういして、気もちをそえるといいと思います。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 柱2は、「あきらめずがんばるためのくふうを考えよう」です。みなさん意見を出してください。 ◇ 意見が出たので賛成意見を出してください。 【期待される学びの姿】理由をはつきりと伝え、提案理由に沿って意見を出し合い、折り合いをつけて2年〇組オリソピックの内容を考ええている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 意見の発表に對する反応を示すことで、話合いへの参加意識を高めさせる。 〇 友だちの意見のよさに納得したら自分の意見を伝え、折り合いをつけながら決定していく。 	
	10 決まったこと 発表 11 振り返り 12 よかったこと 発表 13 先生の話 14 おわりの言葉	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすくまとめて発表する。 ・ 時間があれば、2～3人に発表してもらおう。 ・ 元気よくあいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 話合いの仕方や態度、発言内容について助言・称賛する。 【到達していない児童への手立て】ノードに書いてある意見を引き出し、自分の意見をみんなに伝えるようにさせる。 	

【具体的評価規準】思①
 友だちの意見をよく聞き、折り合いに沿った意見を出して、折り合いをつけて話し合っている。(方法：観察・学級会ノート)

第4学年 国語科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 4年教室
 指導者 教諭 ○〇 ○〇

1 単元構想

単元名	気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう (ごんぎつね) C読むこと		
単元の目標	(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知識及び技能] (1)才 (2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。[思考力、判断力、表現力等] C (1)エ (3) 文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] C (1)才 (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(11才) ②文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。(C (1)才)	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C (1)エ) ②文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもっている。(C (1)才)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)			
物語を読んで、感じたことや考えたことを伝え合い、言葉のもつよさに気付くとともに、新美南吉の作品を幅広く読書をしようとしている児童		本単元で動かせる見方、考え方	
単元を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)		登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す言葉に着目して、言葉がもつよさに気付くこと。	
場面ごとに、ごんの日記を書くことで、ごんの気持ちの変化を読み取り、考えたことを話し合おう。			
指導計画と評価計画 (1・2時間取扱い、本時6/1・2)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記載に該当する単元の場面での「具体的評価規準」
一	2	○ 題名やリード文から物語を想像し、これまでの物語で学習したことを振り返り、場面ごとにごんの日記を書くという学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○ 登場人物に焦点を当てて読み、初発の感想を書く。	【態①】 (ワークシート) ★【思①】 (ワークシート) ○ 場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句について着目している。
二	7	○ いたずらばかりするごんの日記を書く。 ○ 兵十のおっかああの葬式を見たごんの日記を書く。 ○ つぐないを始めたごんの日記を書く。 ○ 栗や松茸を持って行ったときの、ごんの日記を書く。 ○ 兵十と加助の後をついて行くごんの日記を書く。 ○ 兵十と加助の話をこっそりと聞いたごんの日記を書く。(本時) ○ 兵十に譲られてしまったごんの日記を書く。	★【知①】 (ノート) ○ 登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ★【思①】 (ノート) ○ ごんと兵十の様子や行動、気持ちについて具体的に想像している。 ○ 文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容を結び付けて、自分の感想や考えを記述している。 ★【態①】 (ワークシート) ○ ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像しようとしている。
三	3	○ 「ごんぎつね」を読んだ感想を改めて書き、グループで交流する。 ○ 初発の感想と単元末に改めて書いた感想を比べながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを文章にまとめる。	★【態①】 (ノート・発言) ○ 進んで、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。 ★【思②】 (ノート) ○ 文章を読んで理解したことを基に、既習内容を結び付けて、自分の感想や考えを記述している。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

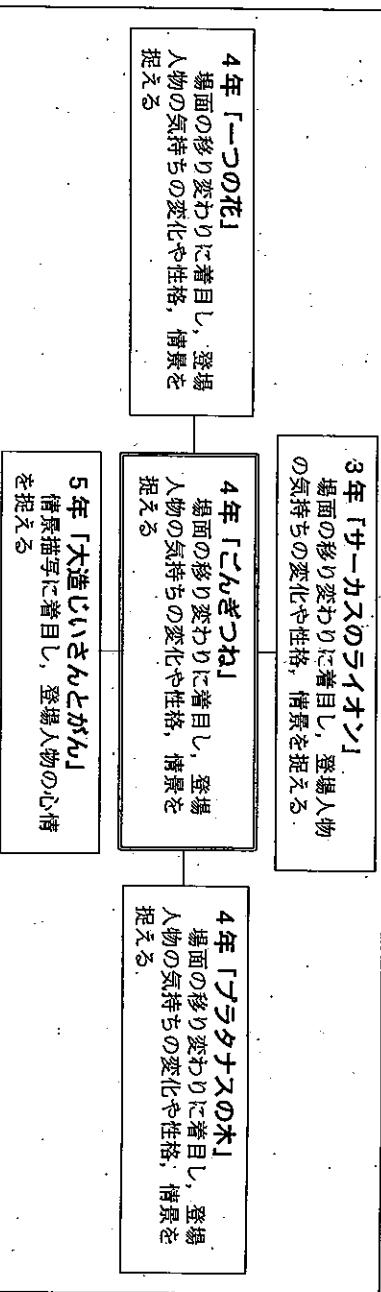
小学校学習指導要領第3学年及び第4学年

[知識及び技能] (1)言葉の特徴や使い方に關する事項
[思考力、判断力、表現力等] 「C読むこと」

教材・題材の価値

本教材は、ごんや兵十の心情の変化が美しい情景描写を背景に描かれており、ドラマチックな場面の展開によって読者である子供たちを魅了する作品である。また、人物の気持ちや行動を表す表現に着目しながら、物語を読み味わう楽しさを感じることに適している。

本単元における系統



児童の実態 (単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するに当たって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

- あらすじが分かる
 - ・ 主題に迫ることのできた記述があり、大まかなあらすじが分かる () 名
 - ・ 大まかなあらすじが分かる () 名
 - ・ あらすじというには、不十分 () 名
 - ・ 書けない (できない) () 名
- 景色や場面の様子がきれいに描かれている文章が分かる
 - ・ きれいな景色や場面の様子が描かれている文章が分かる () 名
 - ・ 違う場所に線を引く、引けない () 名
- 本単元の学習に関する意識の状況
 - 「一つの花」を読んだとき、登場人物の気持ちを想像することができましたか。
 - ・ よくできた () 名
 - ・ 少しできた () 名
 - ・ あまりできなかった () 名
 - ・ できなかった () 名
 - 自分の知らないところで、誰かが自分のために何かをしてくれたら、あなたはどう思いますか。(自由記述)
 - ・ うれしい () 名
 - ・ 優しい人だなあと思う () 名
 - ・ 自分も何かしてあげたいと思う () 名
 - 自分は相手のために一生懸命何かをしているのに、それに気付いてもらえなかつたら、あなたはどう思いますか。(自由記述)
 - ・ がっかり、悲しい () 名
 - ・ 気付いてほしい () 名
 - ・ かまわない () 名
 - ・ もうしたくない () 名

■考察

(資質・能力に関して) 内容の大体を捉えることは概ねできているものの、場面の移り変わりと結び付けて、気持ちの変化を想像することができるところをはじめ、場面の移り変わりに着目して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉えることについては、今後も重ねて指導が必要である。
(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの観点から、学びの状況を見ると、対話や交流を好む傾向はあるものの、対話や交流を通して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いたり、自分の考えがどのように変化したかを実感したりする学習がさらに必要である。

3 指導に当たっての留意点

- 既習教材である「一つの花」の学習で経験した、中心となる人物の変化を振り返る活動を通して、最初と最後のごんの変化に目を向け、「どこで変わったのか?」「変わったきっかけは?」といった課題意識をもつようにする。
- 移り変わる場面ごとに、登場人物の視点で日記を書く活動を通して、登場人物の気持ちの変化に気付くことができるようにする。
- 単元末に、学習後の感想を交流する活動を設定することで、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。
- 相手の気持ちを推し量り、自分のことのように考え、他人を思いやる心を育てる題材。(道徳)

- 4 本時の学習
- (1) 目標 第5の場面(兵十と加助の話をこっそりと聞いているごん)において、ごんの言動に着目し、気付かれないうようにつぐないたいという気持ちから、これまでできてきたつぐないは自分がやったことだと気付いてほしいという気持ちに変わったごんの気持ちの移り変わりを読むことができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (＜予想される児童の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①前時で書いた、兵十と加助の後をついで行くごんの日記を読み、ごんの気持ち想起する。</p> <p>◇ごんは、自分のつぐないについて、兵十がどのように思っているのか知りたがっていたなあ。</p> <p>【めあて】 ごんの言ったことやしたことから、ごんの気持ちの変化を説明することができる。</p> <p>②ごんの「引き合わないなあ。」の言葉について問いをもつ。</p> <p>◇つぐないの気持ちは、なくなったのかなあ。</p> <p>【学習課題】 ごんのつぐないの気持ちは、どのように移り変わったのだろうか。</p>	<p>○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。</p> <p>○ごんの「つまらないな。」や「引き合わないなあ。」の言葉に着目し、つぐないの気持ちはなくなったのかを問う。</p> <p>○「そのすき間に」「家の中へいわしを投げこんで」「そつと物置の方へ回って」「置いて帰りました」など、これまでのつぐないは兵十に気付かれないうに行っていたことについて、近隣の児童同士で確認する。</p>
展開 30分	<p>2 課題解決に向けて活動する。</p> <p>①自分の考えをもつ。</p> <p>◇「引き合わない」と言っているから、つぐないの気持ちはなくなったと思う。</p> <p>◇第6の場面では、「その明るる日も」くりを持って行っているから、つぐないの気持ちはなくなっていないと思う。</p> <p>◇第6の場面では、「こっそり」だけど、うちの中へ入っていることから、自分だと気づいてくれるまで持って行こうと思っっている。</p> <p>②この日のごんの日記を書く。</p> <p>◇今日、兵十と加助の話を聞いた。これまでしてきたつぐないが、神様のおかげということになってしまっ、残念だった。明日は、自分だと分かるように持って行こう。</p> <p>◇今日、兵十と加助の話を聞いた。うなぎのつぐないと思っやっっていたけれど、やっぱり気付いてほしいと思っ。どうしたら気付いてくれるのかな。</p> <p>【期待される学びの姿】 ごんの言動に着目し、気付かれないうようにつぐないたいという気持ちから、これまでしてきたつぐないは自分がやったことだと気づいてほしいという気持ちに変わったごんの心情を想像している。</p> <p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p>	<p>○ごんが言った「引き合わない」に着目し、「つぐないの気持ちはなくなったか、それともなくなっていないか。」について協議する。</p> <p>○「引き合わない」と言った後のごんの行動について確かめることを促し、個別に考えを確かめていく。</p> <p>○この日のごんの日記を交流することとで、「神様のおかげ」に対して、「残念だ」「やっぱり気付いてほしい」「気づいてもらえるようにもつと頑張ろう」といったごんの言葉に着目して、気持ちの移り変わりに気付くように、コーデイネットしていく。</p> <p>【具体の評価規準】 思① ○ごんの言動から、ごんの気持ちの移り変わりを捉えている。(方法：ノート・発言)</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○これまでのつぐないの様子から、兵十に気付かれないうように行っていたことを確かめ、第6の場面のつぐないの様子と比べながら、個別に考えを確かめていく。</p> <p>○めあてや課題と照らし行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。</p>
終末 10分	<p>◇ごんのつぐないの気持ちが変わったことが分かった。そのきっかけとなったのは、兵十と加助の話だった。場面の移り変わりは、気持ちの変化と関係があるんだなあ。</p> <p>【まとめ】 ごんの気持ちは、うなぎのつぐないと思っ、兵十に気付かれないうに行っていた気持ちから、神様の仕業ということになってしまっ、兵十に気付いてほしいという気持ちに変わった。</p>	<p>○本時の学びの成果や課題と、その要因、課題の改善方法等を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に行う。</p>

中学校第2学年 社会科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日(〇) 第〇校時
 場所 2年教室
 指導者 教諭 ○〇 ○〇

1 単元構想

単元名	第4章 近世の日本 2節 「江戸幕府の成立と鎖国」 (東京書籍)		
単元の目標	(1) 我が国の近世の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に調べ、時代の特色を踏まえ、理解できるようにする。 (2) 近世の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明した(3) 近世の歴史に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報から効果的に調べ、まとめる。幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	①統一政権の諸政策の目的、社会の変目として、事象を相互に関連付けるなど多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	思考・判断・表現	①統一政権の諸政策の目的、社会の変目として、事象を相互に関連付けるなど多面的・多角的に考察し、表現している。	①近世の日本について、見通しをもって学習に取り組みながら、課題を振り返りながら学習している。 ②学習を振り返りながら、次の学習へつないでいる。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
江戸幕府は、大名を統制し幕藩体制を確立したこと、鎖国政策により情報や外交を独占したこと、身分制度など民衆の支配現しようにと確立したこととを確実に理解し、他の時代との共通点や相違点をもとに、近世の時代の特色を自分の言葉で表現しようとする生徒		統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどとして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。	
単元を通じた学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
指導計画と評価計画(4時間取扱い) 本時 3/4)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的な評価規準」
課題把握・課題追究	1	○単元を通じた学習課題に対する答えを予想し、解決のための見通しをもつ。 ○「江戸幕府はどのようなか」について、大名を統制したのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	★【態①】(発言) ○単元を通じた学習課題に対する答えを予想し、近世の日本について、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 【知①】(ノート)
	1	○「江戸幕府は、どのようにして人々を支配したのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をノートにまとめる。 ○「幕府の対外政策は、どのように変化していったのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	★【思①】(ノート) ○統一政権の諸政策の目的、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどとして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【知②】(ノート) ★【態①】(発言) ○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる。幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ★【態②】(発言・観察) ○自己の学習について振り返り、調整しようとするとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
課題追究・課題解決	1	○「江戸時代の日本は、世界どどのように結ばれていたのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	
課題追究・課題解決	1	○これまでの学習内容を踏まえて、単元の学習課題「どのようにして(なぜ)、江戸幕府は長い間、政治の権力を維持できたのだろうか?」について考察し、話し合った結果をノートに記入する。	

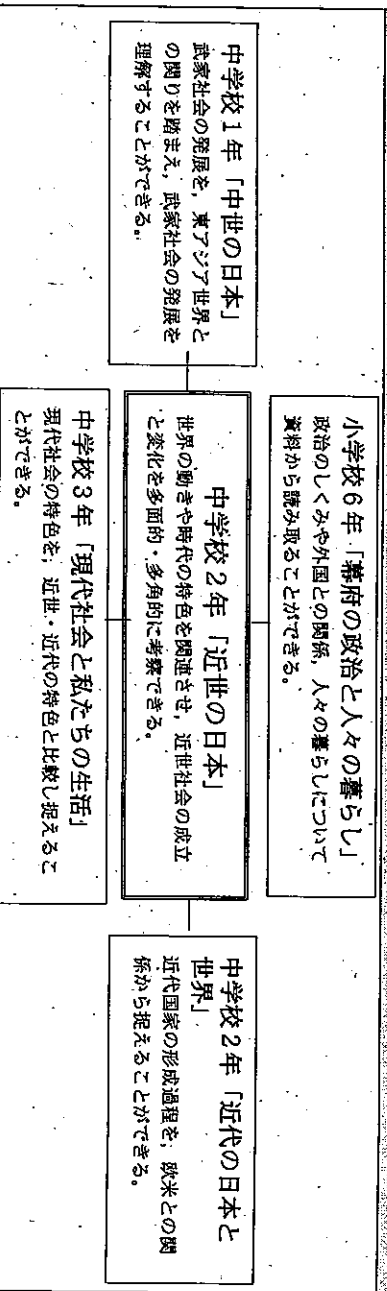
2 単元における系統及び生徒の実態

(3) のアの(イ)の「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、課題を追究したり解決したりする活動を通して、江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の鎌子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

教材・題材の価値

本教材は、支配体制が確立していく過程を、諸外国、大名、農民との関係や「鎖国」の影響など多角的・多面的に考察するのに適している。加えて、天草・豊原の乱など郷土に関連する事象も取り上げることになるため、生徒の学習意欲を喚起することができる。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (R 年)	(%)			
調査内容	概ね(6割～8割程度)	十分(8割以上)		
ヨーロッパ人來航の背景や影響(鉄砲、キリスト教)を捉えている。				
織田・豊臣による具体的な統一政策(刀狩、検地)の把握。				
武将や豪商の存在が存在し、影響力を高めた。				
■本単元の学習に関する意識の状況				(%)
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
教科書の挿絵等に注目し、自分の考えを整理することができた。				
資料や他者の意見を聞き、自分の意見を練り直すことができた。				
学んだことと関連付けて、自分の考えをまとめることができた。				

■考察

小学校の学習では、興味が高い内容の1つであり、江戸幕府の成立過程も理解できている。前単元の織田・豊臣に関する内容も概ね理解できている。

しかし、断片的な事象として捉えている生徒も多く、世界情勢やそれまでの歴史を踏まえ系統的に捉えられている生徒は少ない。

そのため、これまでの学習を振り返りながら、多角的・多面的に考察し、意見交換を行う機会を持ち、学習を展開することで、解決を図り学習内容をより深く理解させたい。

3 指導に当たったときの留意点

- 資料をもとに幕藩体制や身分制度について知り、幕府が大名に藩の政治に責任を負わせたことや、農民が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気付かせる。
- 江戸時代の幕藩体制の地図や鎖国時代の地図から、統治の特徴を読み取るスキルや参勤交代や農村の生活の図版などから、当時の社会の状況をイメージするスキルを高める。
- 幕藩体制に関する語彙を使って地図や図版等の資料から読み取ったことを表現するなど、説明に必要な語句の理解と説明するための文章表現の力を高める。
- 本単元には直接的に身分差別に対する認識、理解を深めるべき内容がある。誤った認識をさせないよう十分に配慮したい。

4 本時の学習

(1) 目標

- 江戸幕府は、外交や貿易の政策をどのようにして変化させたのか、自分の言葉で表現することができる。
- 天草・島原一揆の前後関係を踏まえ、幕府がキリスト教を禁教とした理由を説明することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	10分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①これまでの貿易の学習を振り返る。 ◇南蛮貿易では、南蛮人(ポルトガル人やスペイン人)が貿易の相手だった。キリスト教の布教で、信仰も広まったな。</p> <p>②予想を出し合う。 ◇船(朱印船)は、どこに行くのだろう。 ◇どうして、日本町がつくられたのだろう。 ◇日本町は、今もあるのだろうか。</p> <p>【学習課題】 東南アジアにどうして日本町が栄え、そして衰退したのだろう。</p> <p>【めあて】 江戸幕府は、外国との関係や貿易をどのように変化させたのか説明できる。</p>	<p>○多角的な思考につながるように、前時に学習した内容を振り返る。</p> <p>○朱印船貿易がどんな貿易であるかをつかむために、日本町の形成と衰退に興味をもたせる。</p>
展開	30分	<p>2 課題解決に向けて活動する。</p> <p>①朱印船貿易の概要をつかむ。 ◇幕府は、貿易による利益を独占しようとしたんだ。 ◇スペインやポルトガルだけでなく、イギリスやオランダにも貿易をしたのだ。 ◇東南アジアに日本町が形成された。</p> <p>②日本ではどのようなことが起こっていたかを調べよう。 ◇貿易が衰退したのは、外国から攻撃をうけたからかもしれない。 ◇ヨーロッパの国々、特にスペインやポルトガルとの貿易を行うことで、キリスト教が増えた。 ◇外国人と一緒に幕府を攻撃するかもしれない。 ③外交方針が大きく変化したことを調べよう。 ◇迫害に苦しんだ人たちは、一揆を起したんだ。 ◇外国との関係を、幕府だけがもてるようにしたんだ。</p> <p>【期待される学びの姿】 支配を強めるには、経済的な支えが必要であること、民衆が団結すること、幕府が恐れ、戻っていたことを捉えることができる。</p> <p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p> <p>【まとめ】 江戸幕府は、貿易の利益を優先して朱印船貿易を行っていたが、外国からの侵略をおそれ、キリスト教の禁止が徹底され、朱印船貿易を停止し日本町は衰退していった。その後の貿易や外交は幕府が独占した。</p>	<p>○東南アジアに日本町が形成され、栄えたことを軸に、朱印船貿易がどのような貿易だったかを捉えやすくする。</p> <p>○栄えていた日本町が衰退した要因を問うことで、その要因を推測しながら国内の出来事を捉えられようにする。</p> <p>○崎津天主堂の写真を提示し、幕府をゆるがす事象に熊本も関係していることを示し、関心を高めるようにする。</p> <p>【具体的評価規準】 思考・判断・表現を踏まえ、比較や貿易の変化を、歴史的な背景を踏まえまとめられている。 (方法：ノート・発言)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○他者がまとめたものを、一部紹介し、自らの考えと比較させることで、考えを整理させていく。</p> <p>○めあてや課題と照らし合わせて、学習内容をまとめる。</p>
終末	10分	<p>○幕府は国をまとめるためには、外国との関係を大きく転換し、大名や民衆を抑えたんだ。 ◇他にもどんなことをしたのか、調べてみたいな。</p> <p>○キーワードとして「鎖国」を提示することで、学びを振り返り、次時の学習の見通しをもたせる。</p>	

【板書計画】

【めあて】江戸幕府は、外国との関係や貿易をどのように変化させたのか説明できる。

1 貿易の變化

南蛮貿易 (ポルトガル・スペイン)

↓
朱印船貿易 (朱印船で東南アジアへ)

【学習課題】東南アジアにどうして日本町が栄え、そして衰退したのだろう。

② 日本町
○競争相手はいないのか? → 「銀」の産出
ポルトガルとの競争 → 現地で商品を買集める → 日本町の形成
政策の變化
貿易による利益を重視 (キリスト教の拡大)
↓禁教令 (キリスト教の禁止が徹底され、朱印船
貿易が停止し日本町は衰退していった。その後の貿易や外交は幕府が
独占した。)

2 活躍する朱印船
(1) 朱印状 (=許可状)

↑誰が許可

徳川家：外国との貿易を独占

(2) 東南アジアでの貿易

① 貿易品

香料と生糸

○日本では作れないのか?
作付制限

○日本町はどうなったか?
1637年 島原・天草一揆

ポルトガル船の来航を禁止・貿易相手国の制限

【まとめ】江戸幕府は、貿易の利益を優先して朱印船貿易を行っていたが、外国からの侵略をおそれ、キリスト教の禁止が徹底され、朱印船貿易を停止し日本町は衰退していった。その後の貿易や外交は幕府が独占した。

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

1-②提示 朱印船絵図

2-①提示 朱印船貿易の主要航路と日本町図

気候区分図

大航海時代地図

※提示した図を利用し日本町が栄えた理由を考察する。

2-③提示

崎津天主堂写真
島原・天草一揆絵図等

※提示した図を利用し日本町が衰退した理由を考察する。

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など(シーンに応じて活用計画を立てる)

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例 単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

※本単元終了後、次の問題に取り組みことで、日本と外国との貿易の歴史について理解を図る。

【熊本県学力学習状況調査】

平成25年度 大問3

※定期考査では、前単元と本単元の学びを通して、日本の対外関係が東アジア中心から欧州を含むものに
移り変わったことを考察できるようにする。

併せて、地理的分野「世界の気候区分」とも関連させて考察できるようにする。

第6学年 算数科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 6年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	つり合いのとれた図形を調べよう		
単元の目標	(1) 対称な図形の特徴を調べながら、その性質を理解することができる。 (2) 対称な図形の性質を見いだしたり、その性質を基に既習の図形を捉え直したりすることができる。 (3) 対称な図形の性質を基に、身の回りの事象や図形を考察しようとしている。		
単元の評価規準	知識・技能	図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を探したり図形の性質を見いだしたりしているとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり生活に生かしたりしている。	主体的に学習に取り組む態度
	対称な図形について理解している。		対称な図形について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したこと生活や学習に活用しようとしている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)			
図形の性質を基に既習の図形を捉え直したり、日常生活に生かしたりする児童			
単元を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる具方・考え方	
見いだした性質から、さらに性質を探ろうとすること。 見いだした性質を活用し、問題を解決すること。		対称な図形の性質に着目して、図形の性質を見いだしたり、既習の図形を捉え直したりすること。	
指導計画と評価計画 (8時間取扱いは 本時3/8)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記号に就き評価の場面で「具体的評価規準」
1	1	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション トヨタ・スズキ車のエンブレムや野球球団のマーク等身の回りの図形を見て、感じたことや気付いたことを挙げる。 友達が感じたことや気付いたことから、これらのマークのつくりの特徴を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ (能力) (ワークシート) 協働して図形を調べている。また、他の図形を選んだ児童・グループに対して、自分たちが得た特徴を情報提供している。の情報を提供をもとに、さらに性質を見いださうとしている。 ★ (思考) (ワークシート) 線対称・点対称な図形の性質を理解する。 ★ (見) (ワークシート) 既習の三角形・四角形等が、線対称や点対称な図形であることを円の視点も。
2	5	<ul style="list-style-type: none"> 線対称・点対称の図形について、対応する辺の長さや角の大きさを調べる。 自分が選んだ身の回りの図形を、定規や分度器等をもとに調べる (個人・ペア、同じ図形を選んだグループ)。 線対称における軸、点対称における対称の中心を知り、さらに性質を探ろうとする。(本時) 対称の軸、対称の中心までの長さについて調べる (個人・ペア、同じ図形の性質を活用して、さまざまな問題を解決する。 対応する辺・角の大きさ 対称の軸・対称の中心までの距離 対称の軸・対称の中心の求め方 方眼紙上の図形の作成 今まで学んできた三角形・四角形等を、線対称・点対称の観点から調べ、図形を整理する。 世界で一つだけのオリジナルマークをつくる。 方眼紙に、定規・分度器・コンパスを使い、つり合いのとれたマークをかく。 自分がつくったマークを紹介する。 工夫した点や気に入っている箇所等を説明しながら、オリジナルマークをみんなに紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ (見) (方眼紙) 線対称または点対称の性質をもとに図形 (一部分でも可) をかいている。 ★ (思考) (発表記録) 線対称または点対称の性質について触れながら、自分のかき方を説明している (工夫した点・気に入っている点等を記述させておく)。
3	2		

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

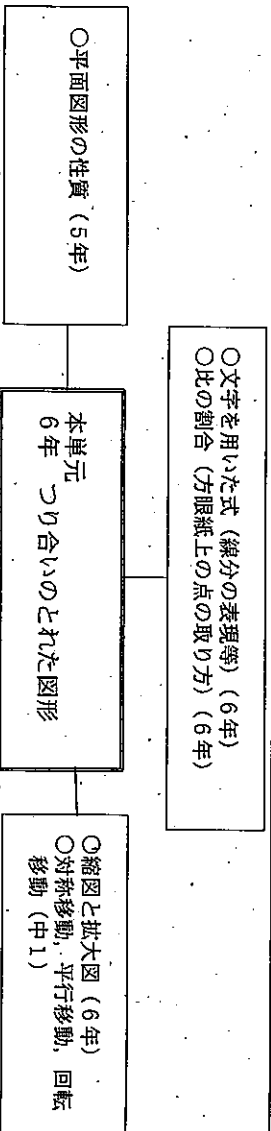
平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- 対称な図形について理解すること
- 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること

教材・題材の価値

既習の図形を対称な図形の観点から捉え直すことにより、より多面的な見方で図形を捉えることができる。また、縮図や拡大図、対称移動や平行移動、回転移動を考察するうえで、基礎となる教材である。

本単元における系統



児童の実態 (単元の目標につながる学びの実態)

- 本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況
 - 定規やコンパスで線分の長さを測る技能、分度器で角の大きさを測る技能
 - 線分の長さの表し方及び等しい式の理解 ($AB=CD$ 等)
 - 正方形、長方形、二等辺三角形の性質及び図形を対称の軸で折り曲げたとき重なることの理解
 - 方眼紙上で与えられた線分(斜めの線)と、まったく同じ線分をかく技能
 - 合同な図形についての知識・理解

■本単元の学習に関する意識の状況

- 定規やコンパス、分度器を使い調べる作業について、興味が高いと考える。
- 線対称について、二等辺三角形を折り重ねたりする具体的な操作をしているため、考察は安易であると考える。点対称については、回転を伴うため、見方が難しく、視覚的に捉えさせる手立てが必要だと考える。

■考察

- 観察や構成、作図等の活動を通して、均整のとれた美しさ、安定さ等を実感すると考える。様々な活動を通して、図形への理解を深め、図形に対する感覚を豊かにしていくと考える。

3 指導に当たった際の留意点

- 身の回りの図形(ワーク)から、自分が調べたいものを選択させることで、調査意欲を高める。
- 定規・分度器を使って調べたり、折り曲げや回転等をさせたり、数学的活動を数多く取り入れる。
- 理解が難しい図形の回転移動等については、電子黒板を使い、視覚的に捉えさせる。
- 様々な形態の問題を解決させることで、対称図の性質の理解を深める。
- つり合いのとれた図形が優位である意識をもたないよう指導する。
- 調べ学習の際、選択した図形の難易度の差だけで、他人を見ないよう指導する。

4 本時の学習

(1) 目標

対称の軸及び対称の中心を知り、それらと各頂点との関係を調べ、理解することができる。
用語：線対称な図形, 対称の軸, 点対称な図形, 対称の中心

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	8分	<p>1 前時の学習事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対応する辺、角、点 自分たちが調べた性質 <p>2 新たな用語を知り、なぜそのような言葉が使われるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線対称な図形、対称の軸 点対称な図形、対称の中心 	<p>○シンジナルな図を使い、時間をかけず、確認を行う。長さや角については、数値を与えての確認も行う。</p> <p>○実際に折り曲げたり、回転させたりさせる。その後、電子黒板を使い、図形の移動の様子を観察させる。</p> <p>○なぜそのような用語となっているのかを連想させ、新たな関係性を予想させる。</p>
	3分	<p>【めあて】 対称の軸や対称の中心との関係を調べよう。</p>	<p>○調べ学習中、線対称についての折り曲げ、点対称における回転の動画を流しておく。</p> <p>○自分が選んだ図形において関係性を見つけた児童については、他の図形でも同様のことかといえるか調べさせる。</p> <p>○関係性を見いだせずにいる児童には、ヒントカード（シンジナルな図形における関係性）を与える。</p> <p>○実際に調べる視点・箇所を提示する。</p>
展開	32分	<p>3 自分が選択している図形を使って、対称の軸・対称の中心との関係を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個で調べる（7分間） ペアや同じ図形を選んだグループ等 <p>【期待される学びの姿】</p> <p>協働して図形を調べている。また、他の図形を選んだ児童・グループに対して、自分たちが得た特徴を情報提供している。</p> <p>自分が見つけた性質や他者からの情報提供をもとに、さらに性質を見出そうとしている。</p>	<p>○調べて分かった特徴はメモをさせ、まとめ・整理に活用させる。</p> <p>【具体的評価規準】観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○軸・中心までの距離、交点における角度についての性質を記載している。（シート） ○性質を活用し、問題を解決している。（ワークシート） <p>【到達していない児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師が用意したまとめ整理シートを配付する。 ○実物大の「星形の図形、Zの図形」を提示し、実際に定規や分度器で測らせる。 ○個で考えさせた後、自由に交流させる【教え合い】。 ○本単元のゴールは、オリジナルのワークを作成することを再確認する。
終末	5分	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが調べた性質を、用語を使ってノートに整理する。 ※軸・中心までの距離 ※対応する点同士の線が軸・中心と交わる角度 <p>5 性質を活用して、問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 星形の図形、Zの図形 ※長さが等しい線分を探す ※交点の角の大きさを求める ※対応する点を探す ※対称の軸となり得る軸を全部探す ※対称の中心を求める <p>6 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナルワークを作成する際に、最も大切な性質は何か、考えながら、振り返りを行う。 	<p>○今まで学習した図形で、線対称・点対称の性質をもった図形はなかったか、思い起こさせる。</p>

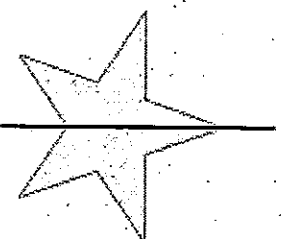
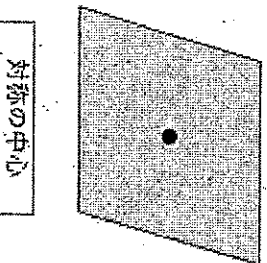
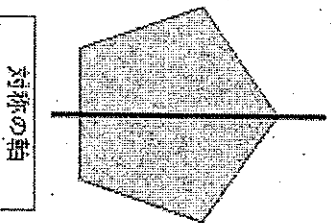
【板書計画】

【めあて】
対称の語や対称の中心との関係を調べよう

- 対応する（上下左右）の辺の長さが等しい。
- 対応する（上下左右）の角の大きさが等しい。
- 上下左右の頂点の数が等しい。

【気づき（まとめ）】
○対応する頂点から対称の軸、対称の中心までの長さが等しい。
○対応する頂点同士を線で結ぶと、対称の軸、対称の中心と直角に交わる。

線対称・点対称の図形ならば、本当にそうなる？



【ICT活用計画】

- 導入時、電子黒板を使い、図形を折り曲げたり、回転させたりする様子を観察させる。また、調べ学習時、性質を見いだすヒントとして、この動画を流しておく。
- 終末時、オリエンテーションで使ったトヨタやスズキ車のエンブレム、野球球団のマーク等を電子黒板で提示し、オリジナルマークづくりへの意欲を高揚させる。

【見方・考え方を働かせて解く問題】

○単元終了時や家庭学習で次の問題に取り組むことで、線対称・点対称な図形の性質について、理解を深めたり、問題解決に活用したりする資質・能力を高める。

(熊本県学力調査)

- 平成28年度 大問 6
- 平成27年度 大問 8
- 平成26年度 大問 5

中学校第2学年 理科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場所 〇年〇組教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	動物の体のつくりと働き		
単元の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
動物の体のつくりと働き	(1) 動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。 (2) 動物の体のつくりと働きについて、見通しをもつて解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現することができる。 (3) 動物の体のつくりと働きに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	動物の体のつくりと働きについて、見通しをもつて解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究し、究している。	動物の体のつくりと働きに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度
単元の目標	動物の体のつくりと働きに着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	動物の体のつくりと働きについて、見通しをもつて解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究し、究している。	動物の体のつくりと働きに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度
単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)			
動物が生命を維持するための体のつくりや働きについての学びを通して、その緻密さや生命の神秘について感じ、生命を尊重し、自分の体の仕組みについて振り返ろうとする生徒。	本単元で働かせる見方、考え方		
単元を通じた学習課題 (単元中心的な学習課題)	動物の体のつくりと働きを関連付けて捉える。		
動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きになっているのだろうか。	動物の体のつくりと働きを関連付けて捉える。		
指導計画と評価計画 (18時間取扱い)			
過程	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 <small>★は記録に添字評価の観点で(具体的評価規程)</small>	
1	「私たち動物が生命を維持するために、絶対に必要な活動を3つ挙げよ。」 ○ 既習の細胞の呼吸や植物の体のつくりと働きについての学習内容を思い出す。 ○ 前時の概念図をもとに、動物が生命維持に必要な主な器官について確認しながら、単元の学習計画を立てる。(本時)	・【態】 (記述分析) ○ ヒトの体の模式図に生命維持に必要な器官等の概念図を表現しようとしている。 ★【態】 (記述分析、行動分析) ○ 動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、既習内容と疑問点を整理し見通しをもつて捉えていこうとしている。	
2	「動物は、どのようにして食物から必要な養分を取り入れているのだろうか。」 ○ デンプンに対する唾液の働きを調べる実験方法を考える。 「動物は、いつも食物にありつけるとは限らない。その場合、どのような器官が必要となるだろうか。」	★【思】 (記述分析) ○ 唾液がデンプンを他の糖に変える働きを確かめる方法を考えることができる。 ・【知】 (行動観察) (記述分析) ・【思】 (記述分析)	
8	「酸素が細胞に届くまでの仕組みはどのようなになっているのだろうか。」 ○ 肺に空気を取り入れる仕組みについて模型を使い考える。 ○ メダカの毛細血管とその中を流れる血液を調べる。 「血液はどのような仕組みで流れているのだろうか。」 ○ 心臓の役割とそのつくりについて理解する。 ○ 体内でできた不要物の排出について理解する。	★【思】 (行動分析・発言分析) ○ 肺への空気の出入りを模型の横隔膜等の動きと関連付けて思考している。 ★【知】 (行動分析; 記述分析) ○ 顕微鏡等を正しく扱って観察し、スケッチや文章で正しく記録している。 ・【思】 (記述分析) ・【思】 (記述分析) ○ 血液循環の経路と物質交換を関連付けて考察している。 ・【知】 (発言分析) (ペーパーテスト)	

3	6	<p>「動物は、食物を得るために植物と体のつくりが異なり、発達している器官は、何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 獲物を得るために、外界の刺激に反応する感覚器官、神経系、運動器官について、各班でテーマを決め調べらる。 ○ ジグソー法を用い互いに発表する。 	<p>★【態】 (行動分析・記述分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を設定し、自ら調べ友達から情報を得て粘り強くまとめたいこうとしている。 ・【知】 (行動分析) ・【態】 (行動分析) ・【思】 (記述分析) (発言分析) ★【知】 (記述分析, 行動分析) ○ 運動器官, 感覚器官, 神経系のつくりと仕組みについて理解している。 ★【思】 (記述分析) ○ 体のつくりと働きについて関係性を見いだし表現している。 ★【知】 (記述分析・行動分析) ○ ヒトの体の模式図に器官の様子を表現し、体のつくりと働きを関連付け体系的に理解している。(記述分析) ★【態】 (記述分析) ○ 学習前後で自己の容容や自己の体について振り返ろうとしている。
4	2	<p>「動物が生命を維持するために体のつくりや働きをそれぞれがつながりを明らかにした説明をしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習後のヒトの体の模式図をそれぞれの働きとつながりを捉えて作成し、説明する。 	<p>★【態】 (行動分析・記述分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を設定し、自ら調べ友達から情報を得て粘り強くまとめたいこうとしている。 ・【知】 (行動分析) ・【態】 (行動分析) ・【思】 (記述分析) (発言分析) ★【知】 (記述分析, 行動分析) ○ 運動器官, 感覚器官, 神経系のつくりと仕組みについて理解している。 ★【思】 (記述分析) ○ 体のつくりと働きについて関係性を見いだし表現している。 ★【知】 (記述分析・行動分析) ○ ヒトの体の模式図に器官の様子を表現し、体のつくりと働きを関連付け体系的に理解している。(記述分析) ★【態】 (記述分析) ○ 学習前後で自己の容容や自己の体について振り返ろうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

<p>中学校学習指導要領 第2分野 [知識及び技能] (3)ア(ウ), [思考力, 判断力, 表現力等] (3)イ</p>		<p>学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等) 教材・題材の価値</p>		
<p>本単元は、動物の消化、呼吸及び血液循環や外界の刺激に対する反応についての観察や実験などを通して、動物の体のつくりの多様性と共通性に気付かせるとともに、動物の体のつくりと働きを関連付けて理解させることが主なねらいである。その際、消化、呼吸、血液循環、排出に関わる器官やそれらが組み合わさっている器官系、更に感覚器官、神経系及び運動器官などが働くことよって、動物の生命活動を維持していることに気付かせることが重要である。また、動物の体のつくりと働きを総合的に理解することを通して、生命の神秘さを感じ生命を尊重する態度を育成できる内容である。</p>				
<p>本単元における系統</p>				
<p>小学校第3学年 「身の回りの生物」</p>	<p>第4学年 「人の体のつくりと運動」</p>	<p>第6学年 「植物の養分と水の通り道」</p>		
<p>【生物の構造と機能】</p>				
<p>中学校第2学年 「生物と細胞」</p>	<p>中学校第1学年 「生物の観察と分類の仕方」 「生物の体の共通点と相違点」</p>	<p>中学校第2学年 「動物の体のつくりと働き」</p>	<p>中学校第2学年 「植物の体のつくりと働き」</p>	
<p>児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)</p>				
<p>■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況</p>				
<p>調査内容</p>				
体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出される。	よく	まあまあ	あまり	ない
食べ物には、体内で消化、吸収、排出される。	—	—	—	—
生物の体が細胞できており、植物と動物の特徴がある。	—	—	—	—
<p>■本単元の学習に関する意識の状況</p>				
ヒトの体のつくりと働きについて不思議に感じることがある。	よく	まあまあ	あまり	ない
課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	—	—	—	—
学んだことを関係付けて、説明することができると思う。	—	—	—	—

■考察

小学校での学習内容や前章の「生物と細胞」、植物の体のつくりと働き」の理解については、概ねできている。しかし、自分の予想を基にして、解決の方法を計画することについては、今後も丁寧な指導が必要である。また、学習した内容を総合的に捉え、関係付けて説明できるまでには多くの生徒が達していない。そのため、断片的な知識にとどまり、個々の知識が生物の生命の営み全体につなげて考えることができていない。課題解決に向け、主体的に単元の見直しをもてるよう学習計画をつくり、課題を解決していく中で、知識の体系化を図る学習が必要である。

3 指導に当たった際の留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)

- 生徒が単元の学習の前後で、自己の容容に気付くよう単元の初めと終わりに同じヒトの体の模式図に概念を記入する取り組みを行う。また、単元を通じた学習課題に対する自分の考えをまとめる時間を設定する。
- 生徒が単元を通して主体的に課題解決に取り組めるように、導入では、動物が生命を維持するために必要な活動を問うことから体のつくりと働きを総合的に捉え、学習計画づくりを行うようにする。

- 生徒が動物の体のつくりと働きを多様性と共通性の視点で捉えることができるように、複数の動物や自分の体との比較を指摘しながら考察を行うようにする。
 - 生徒が自分で選んだ課題について、調べたり、レポートにまとめたりし、友達に互いに発表し合える場を設定する。
- 4 本時の学習
- (1) 目標 動物が生命を維持するために必要な体のつくりと働きについて、既習事項と疑問点を明らかにしていく単元の学習計画を作成することを通して見直しをもち、それぞれが関連した体系的な捉えをしていくこととする。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 単元の課題を確認する。</p> <p>①前時に行ったヒトの体の模式図に記入した概念図を振り返る。</p> <p>◇自分の体の中のものつくりや働きだけど、あまり詳しく知らなかったな。</p> <p>【学習課題】動物が生命維持をするために、どのような体のつくりや働きになっているのだろうか。</p> <p>(単元を通した学習課題)</p> <p>【めあて】 動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれがつながりを明らかにしていく学習計画を作ろう。</p> <p>2 課題解決に向けて活動する。</p>	<p>○呼吸と消化（食べること）は、生きるため必要なエネルギーを生み出すための働きであることを押さえる。（細胞の呼吸）</p> <p>○動物が生命維持のために必要な働きを自分や植物の活動と関連付けて考えるように促す。また、1つ1つの器官が役割をもち、互いに調和しながら生命を維持している視点を与え、課題意識をもたせる。</p> <p>○「○○（器官）」は、□□の働きを行うために必要である。」等、根拠を示して説明するようさせる。</p> <p>○各器官等の体のつくりと働きがどのようなつながりをもっているのかについて視点を与える。</p> <p>○班内での疑問点、詳しく知りたい点を明らかにするようさせる。</p> <p>○全体で発表する際は、1つの班の発表から各班の考えを出し合い、つなぎまとめていくようにする。</p> <p>【具体的評価規準】【態】</p> <p>○動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、既習内容と疑問点を整理しながら、見直しをもって体系的に捉えていることとしている。（方法：ノート・発言）</p> <p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○体のつくりと働きについて、分かっていることを整理させ、その他に生命維持のために必要な活動の場面を示し、関連付けて考えられるようにする。</p>
展開 35分	<p>①班内でヒトの模式図に記入した概念図を互いに説明する。</p> <p>◇呼吸と消化はみんなに共通しているな。</p> <p>◇心臓の働きが、いまひとつ詳しく分からない。</p> <p>◇消化と心臓の働きって関係あるのかな。</p> <p>②班内でヒトの模式図の概念図を作成する。</p> <p>③全体で他の班との情報の交流を行う。</p> <p>◇腎臓、肝臓ってどんな働きをしているのだろう。</p> <p>◇獲物を捕らえる牙も必要だな。</p> <p>④学級全体で、既習内容とこれからの学習で課題を解決していく内容を確認する。</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>生命を維持する体のつくりと働きについて、自分で考え友達と意見を交流する中で既習内容の整理ができ、これから単元の課題を解決していくことで体系的に捉えようとする姿に変容している。</p>	
終末 10分	<p>3 課題を解決していく順序（学習計画）を確認する。</p> <p>【まとめ】動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれのつながりが明らかになる学習計画ができた。</p> <p>◇単元が終了したときには、動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きとなっていくのかを詳しく説明できるようにする。</p>	<p>○生徒自身が単元を見直し、単元終了時の自分の成長した姿をイメージし、意欲をもって課題解決に取り組めるように本時を振り返る。</p>

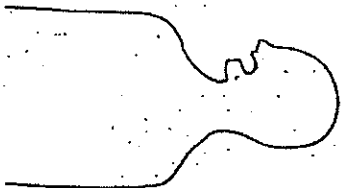
【板書計画】

単元課題 動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きになっているのだろうか

動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれつながりを明らかにしていく学習計画を作るう

単元の学習計画表

1	消化について	
2	呼吸について	
3	心臓について	
4		
5		



- ①班内で互いに説明
- ②班の概念図をつくる
- ③全体発表による交流
- ④単元の学習計画をつくる

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画 | ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- ・デジタル教科書にある写真、図、表等を電子黒板で拡大提示し、共有する。
- ・模式図に記入した概念図を電子黒板で拡大提示し、共有する。
- ・メダカの毛細血管の顕微鏡観察の様子を電子黒板で拡大提示し共有したり、血液の循環の様子を循環経路と心臓のモデル動画で示したりする。
- ・運動器官、感覚器官、神経系について、タブレットPCを活用し、調べ学習を行う。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

○動物の体のつくりの共通性と多様性に気付き、動物の体につくりと働きを関連付けて捉えている過去の調査問題にて定着を図る。

【全国学力・学習状況調査】平成○○年度 大問○

【熊本県学力調査】平成○○年度 大問○

【課題克服プリント】平成○○年度提供 大問○

○単元の終末では、学習を通して学んだことを自分の体の仕組みと日常の働きと関連付けて、振り返りができるようにする。

第5学年 外国語科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日(〇) 第〇校時
 場所 5年教室
 指導者 教諭 ○〇 ○〇

1 単元構想

<p>単元名 Unit 4 He can bake bread well.(p.38-45)</p>	<p>単元の目標</p>	<p>単元的に学習に取り組む態度</p>
<p>(1) 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたと言ったりすることができ。また、文字には音があることに気付く。 (2) 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて話すことができる。 (3) 他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことを紹介し合おうとする。</p>	<p>知識・技能 【聞くこと】 〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 〈技能〉身近な人のできることなどについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 【話すこと(発表)】 〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 などに紹介したい人のできることなどについて、具体的な情報を話す技能を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現 【聞くこと】 友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取っている。 【話すこと(発表)】 自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ち等を含めて話している。</p>
<p>単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)</p>		
<p>自分や第三者のできることやできないことについて、自分の考えや気持ちも含めて、他者に配慮しながら、聞いたリ、話したりする児童</p>		
<p>単元を通じた学習課題(単元のための学習課題)</p>	<p>本単元で動かせる見方・考え方</p>	<p>単元の観点等 ★は記録に表す評価の場面、△は具体的評価場面</p>
<p>指導計画と評価計画(8時間取扱) 本時4/8)</p>		
<p>過 時 間 1</p>	<p>学習活動 ○ 単元のゴールを知り、動作を表す語や「できる」「できない」という表現が分かる。 P38, 39</p>	<p>評価の観点等 【聞くこと】 <知識・技能>(行動観察、振り返りカード) 【話すこと(発表)】 ★<知識・技能>(行動観察、振り返りカード) (知識) I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 〈技能〉身近な人のできることなどについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>
<p>3 本時 3/3</p>	<p>○ あることができるかできないかどうかにかかわらず、尋ねたり答えたりする。 ○ He, She を書き写すことができる。 P40, 41</p>	<p>【聞くこと】 ★<思・判・表>(行動観察、振り返りカード) 友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取っている。 ★<主体的に取り組む態度>(行動観察、振り返りカード) 友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取るうとしてしている。 【話すこと(発表)】 ★<思・判・表>(行動観察、振り返りカード) 自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ち等を含めて話している。</p>
<p>3 本時 3/3</p>	<p>○ 紹介したい人にインタビューするなどして調べることを考える。 ○ 紹介カードを作り、グループでアドバイスし合いながら、発表の練習をする。(毎回相手を褒める) P42, 43 ○ 発表会をする。</p>	<p>★<主体的に取り組む態度>(行動観察、振り返りカード) 自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>

四	1	○世界の町で働く人々について知る。職業や家族を表す語から、英語と日本語の違いについて考える。 P44, 45	【聞くこと】 ＜思・判・表＞(行動観察、振り返りカード) ＜主体的に取り組む態度＞(行動観察、振り返りカード)
---	---	-----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
<p>【知識及び技能】</p> <p>(1) 英語の特徴やよきまりに関する事項 エ 文及び文構造 (フ) 文 e 代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに關する事項 ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。</p> <p>(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ア 開くこと (ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。 エ 話すこと(発表)</p> <p>(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。</p>	<p>【教材・題材の価値】</p> <p>本単元は、できることやできないことを発表することを通して、自分自身を見つめたり、お互いの良さを知り、理解を深め合ったりすることに適している。また、児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を工夫することで、他者と思いを伝え合う楽しさを体験させ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が期待できる。</p> <p>本単元における系統</p> <p>4年 This is my favorite place? お気に入りの場所を紹介しよう。</p> <p>5年 He can bake bread well. 紹介したい人のできることやできないことについて紹介する。</p> <p>6年 Let's go to Italy. おすすめの国を紹介する。</p> <p>5年 Who is your hero? ヒーローを紹介する。</p>

児童の実態(単元の目標)につながる学びの実態)	
<p>■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況</p> <p>調査内容</p> <p>I like を使って、自分の好きなこと・ものを伝えることができる技能</p> <p>スポーツを表す英語を聞いて理解することができると技能</p> <p>スポーツを表す英語を言うことができると技能</p> <p>アルファベットを4線上に書くことができると技能</p> <p>■本単元の学習に関する意識の状況</p> <p>調査内容</p> <p>外国語の学習は楽しい。</p> <p>外国語の授業で学習する内容は分かる。</p> <p>他者に配慮し、伝わるように工夫している。</p> <p>相手の話に反応を返しながら聞いている。</p>	<p>概ね(6割～8割程度) 十分(8割以上)</p> <p>概ね(6割～8割程度) 十分(8割以上)</p>

■考察
意識調査を見ると、外国語科の授業に楽しんで参加している児童がほとんどである。しかし、4年生までの外国語活動の授業に比べると、学習内容に対して難しさを感じている児童も5人いる。知っている英語を使い、伝えるための工夫をすることや相手の話に反応を返しながら聞くことに対しては、約半数の児童が苦手意識を感じている。

3 指導に当たっての留意点

- 単元のゴールを「『私の○○(人)』発表会をしよう」と設定し、児童と共有することで、児童の意欲を喚起し、学習の見通しをもたせる。
- 紹介したい人は、大切な人や尊敬する人等から児童が自分で決め、発表によってお互いの未知な部分を知り合う必然性をもたせることで、主体的な学習活動につながるようにする。
- 学習活動では、ペアやグループ、全体など様々な学習形態を工夫したり、相手を褒めて複数回発表したりすることで、いろいろな友達への考えや工夫を知り、いろいろな視点からのアドバイスをもらえるようにする。
- 中間評価を行い、良いやり取りを取り上げたり、困り感を共有し改善策を全体で考えさせたりすることで、後半の学習活動を充実させる。
- Small Talk等でALERTに友達や家族、故郷や行ったことのある国について話してもらうことで、他国の文化を理解し、興味をもてるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標
友達のできることにについて, インタビューした情報を基に, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図 内容 方法等)
導入	5分	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 Small Talk を聞く。</p> <p>【めあて】「誰でしょうクイズ」で、友達のできることやできないことについて紹介しよう。</p> <p>3 ボインテンションゲームをする。</p> <p>4 デモンストレーションを見る。 ◇ALITの先生が紹介した人は誰かなあ。 ◇ジェスチャーを付けてくれたので、何ができるのかできないかが分かりやすかったなあ。 ◇先生は, can や can't をはつきり言っているから分かりやすい。</p>	<p>○明るく挨拶をかわし, 明るい雰囲気始める。</p> <p>○写真等を用いて話し, 児童が推測しながら話の大体を捉えることができるようにする。</p> <p>○he と she の意味を確かめながら, 聞いたり言ったりすることをねらいとする。 ○ペアで協力し不安なくできる形式にしたり, 出題のスピードを変えるなどしてゲーム性をもたせる形式にしたりなど, 児童の実態に応じて工夫する。 ○児童からボインテンション2人を募り, 実際に児童が活動する4人グループでデモンストレーションを行うことで, 進め方をつかませるとともに, どんな内容をどのように話せばよいかを考えさせる。</p>
展開	30分	<p>5 必要な表現について練習する。 I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~.</p> <p>6 「誰でしょうクイズ」をする。 ①4人グループでクイズを出し合う。 ◇○○さんは, そんなことができるなんてすごいなあ。 ◇○○さんは, □□が苦手だなんて初めて知ったなあ。 ②グループをかえてもう一度クイズを出し合う。 ◇クラスの友達のことをいろいろと知ることができて楽しかったなあ。</p> <p>【期待される学びの姿】 何をどのように工夫して話せばしつかり伝わるか考え, 聞き手の反応をうかがいながら, 友達のできることやできないことを話している。</p>	<p>○デモンストレーションを見て, クイズに入る前にもう一度練習しておきたい表現はないか児童に尋ねながら必要な表現の練習を行う。</p> <p>○友達にしつかり伝えるためにはどんなことに気を付ければよいか確認する。 ○グループで教え合ったり相談したりしながら協力してクイズを進めることを確認する。 ○中間評価を行い, 良いやり取りを取り上げたり, 困り感を共有し改善策を全体で考えさせたりすることで, 後半の学習活動を充実させる。</p> <div data-bbox="616 877 862 1364" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【具体の評価規準】 観点 【話すこと (発表)】 〈知識〉 I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 〈技能〉 紹介したい人のできることなどについて, 具体的な情報を話す技能を身に付けている。</p> </div> <p>【到達していない児童への手立て】 ○児童が出題したクイズをいくつか紹介しながら, できることやできないことを表す表現を確認させる。</p>
終末	10分	<p>7 学習の振り返りをする。 ◇これまで学習した表現を使ってクイズが出せたぞ。伝えたい部分をはつきり言うこともできたから, 友達もよく聞いて答えてくれた。 ◇友達のことをいろいろと知ることができて楽しかった。またやりたいなあ。</p>	<p>○本時の学習で気付いたことや分かったことなどについて振り返らせる。 ○本時の活動の様子から良かった点を紹介し, 次時の意欲をもたせる。</p>

【板書計画】

Unit 4 He can bake bread well.

September, 10th, Friday, sunny

【Today's Menu】

- 1 Greeting
- 2 Small Talk
- 3 Game
- 4 Activity
- 5 Reflection

Today' Goal 「誰でしょうクイズ」で、友達のことやできないことについて紹介しよう。

(ゲームに使うイラスト)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「誰でしょうクイズ」の進め方

He / She can ~

【ICT活用計画】

電子黒板 (デジタル教科書, 写真等の提示)

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

本單元で働かせた見方・考え方を生かして, 自分のこと等についてのスピーチをする。

第4学年 体育科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	走って、踏み切って、ふわっとジャンプ(走・跳の運動「高跳び」)			
単元の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度	
単元の評価規準	① 高跳びの行い方を理解している。 ② 3～5歩程度の短い助走から踏み切り足を決めて上方に強く踏み切ることができる。 ③ 高く跳ぶために振り上げ足を高く振り上げることができる。 ④ 膝を柔らかく曲げて足から着地することができる。	① 自分の課題を見付け、その課題を解決するための活動を選んでいく。 ② 活動後に、運動のポイントや友達への動きのよさを学習カードに記入したり、振り返りの時間に友達に伝えたりしている。	① ふわっと高く跳ぶ運動に進んで取り組もうとしている。 ② きまりを守り誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④ 互いの動きを見合ったり動きのよさや課題を伝え合ったりしようとしている。 ⑤ 運動する場の安全を確かめようとしている。	
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)	単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿) 短い助走で高く跳ぶ楽しさや喜びを感じ、進んで運動に取り組んだり、学んだことを、その他の運動に生かしたりする児童			
過程	学習活動(「問い」を設定しても可) ○ オリエンテーション ・ 学習内容・チーム・安全・約束の確認 ・ 場の準備・片付けの確認 ・ 準備運動・スリットオンスタイム等を行う	指導計画と評価計画(7時間取扱い 本時4/7) 本単元で働かせる見方・考え方 単元で働かせる見方・考え方	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で具体的評価規準	
1	1	ふわっと高く跳ぶためのひみつを見付け、高く跳べるようになる。	ふわっと高く跳ぶためのコツを使って運動を「する」、友達への動きのよいところを「みる」、動きのよさや課題を伝え合う「支える」、運動の行い方を「知る」といった運動との多様な関わり合い方を楽しむこと。	★【能③】(観察) 自分の役割を理解し、友達と一緒に準備や片付けをしようとしている。
2	3	準備運動、スリットオンスタイム場の準備	① 高跳びの行い方や動きのポイントを見付け運動を行う。 ・ 安全な着地の仕方を考え、その動きを行う。 ・ 短い助走から踏み切りまでの仕方を考え、その動きを行う。 ・ 踏み切った後の振り上げ脚の動きを考え、その動きを行う。(本時)	【能⑤】(観察) 【知①④】(学習カード・観察) 【能②】(観察) ★【知①②】(学習カード・観察) 助走から踏み切りの動きが分かり、1, 2, 3パターンと踏み切り足を決めて力強く踏み切ることができる。 ★【知①③】(観察・学習カード) 踏み切った後の振り上げ足の動きが分かり、かかとをお尻より高く上げて跳ぶことができる。 ★【思①】(学習カード) 「助走」「踏み切り」「振り上げ足」「着地」の中から自分の課題を見付け、その課題を解決するための活動(場)を選んでいく。 ★【能④】(観察) ★【思②】(観察・学習カード) 友達への動きで気付いたことを伝えたり学習カードに記入して発表したりしている。 ★【能①】(観察・学習カード) 高跳び運動に進んで取り組もうとしている。
3	3	自分の力に合った課題や練習の場を選んで運動する。 自分の課題や練習の場を選んで運動する。 友達への動きのよさや変化を伝えながら運動する。 単元で身に付けた力を振り返り、まとめの高跳びゲームをする。	チームで「ふわっとゲーム」をする	

2 単元における系統及び児童の実態

小学校学習指導要領第3学年及び第4学年 【知識及び技能】エ 運動の楽しさや喜びに触れ、高跳びの行い方を知るとともに、短い助走から強く踏み切り高く跳ぶこと。 【思考力、判断力、表現力等】ア 自己の課題を見付け、動きを身に付けるための活動を選ぶこと。友達の伝えること。友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりに進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。	
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
体を巧みに操作しながら調子よく跳ぶ心地よさや、仲間と競い合う楽しさを味わうことのできる運動である。	
本単元における系統	
第1学年及び第2学年 走・跳の運動遊び(イ 跳び遊び、ケンパー跳び遊び、ゴム跳び)	跳の運動遊び(イ 跳の運動遊び)
第3学年及び第4学年 跳の運動(ウ 幅跳び)	第3学年及び第4学年 跳の運動(エ 高跳び) 短い助走からの高跳び
第5学年及び第6学年 陸上運動(エ 走り高跳び) リズムカルな助走からの走り高跳び	

児童の実態 (単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	調査内容	概ね (6割～8割程度)	十分 (8割以上)
運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。	運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。		
膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。	膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。		
助走を付けて片足でしっかりと地面をけつて上方に跳ぶことができる。	助走を付けて片足でしっかりと地面をけつて上方に跳ぶことができる。		
友達の考えを認めたり安全に気を付けたりすることができる。	友達の考えを認めたり安全に気を付けたりすることができる。		
■本単元の学習に関する意識の状況	調査内容	概ね (6割～8割程度)	十分 (8割以上)
運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。	運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。		
自分に合った課題を見付けたり、課題解決のための活動を運んだりすることができる。	自分に合った課題を見付けたり、課題解決のための活動を運んだりすることができる。		
友達のよい動きを見付けたり考えを伝えたりできていると思う。	友達のよい動きを見付けたり考えを伝えたりできていると思う。		
運動に進んで取り組み、きまりを守り仲間と運動したりすることができる。	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲間と運動したりすることができる。		

■考察

(資質・能力に関して) 幅跳びの学習経験から、短い助走や着地はできる児童が多いが、踏み切って高く跳ぶ経験は少ないので、楽しみながら経験を重ねたり、自分の伸びを実感できるような場・指導を工夫したりする必要がある。(学びに関して) 運動に意欲的に取り組む児童は多いが、友達のよい動きを見付け伝え合ったり、工夫して課題を解決したりすることについては今一歩である。課題解決場面の設定や対話が活性化するような手立てを行う必要がある。

3 指導に当たっての留意点

- 単元前半では、助走、踏み切り、振り上げ足、着地の4つの動きに絞ってこつやポイントを見付け、動きにつなげるようにする。また、単元後半では、課題解決ができるような4つの場(「助走」「踏み切り」「振り上げ足」「着地」)を準備し、自分の課題に応じて場を選び活動できるようにする。
- 「わかる・できる」につなげるために、あらかじめ動きの視点を与えたり、動きのこつやポイントを発見ボードに掲示したりするなどして、児童がめあてを考えられるようにしていく。
- 主運動に意欲的に取り組むことができるよう、学習の始めは、誰にでもでき、動きにつながるような易しい運動を行う「スイツチョンタイム」を位置付ける。
- 学習の終末では、これまでの学び生かし高跳びを楽しむことができるように、簡単なルールを決めて高跳びゲーム(ふわとゲーム)をする。初めの高跳びの記録をもとに得点化をすることで、自分の伸びを実感できるようにする。
- 学習の前半には、一斉の指導場面を設定し、お互いの動きのよさを見合うことで、技能ポイントを共有化し、動きをしつかり獲得できるようにする。その際、児童が気付いたことや発見したことをもとに、イメージしやすい言葉にするとともに、発見ボードに掲示することで、児童同士の積極的な声かけやアドバイスに生かしていく。
- 授業の終わりに、できるようなったこと、わかったこと、発見したこと、友達の頑張りやよさなどを学習カードへ記入し伝え合う「きらきらタイム」を設定する。
- 運動経験の不足や若手意識により、運動自体に不安を抱え積極的に運動に取り組めない児童や、用具に当たるのが怖いと感じている児童が数名いる。単元初めに安全面の指導を行うとともに、児童が安全に楽しく運動できるように、場や教具の工夫をしたり、個別の支援・声かけ、友達との関わり合いの活性化を行ったりする。

4 本時の学習

(1) 目標

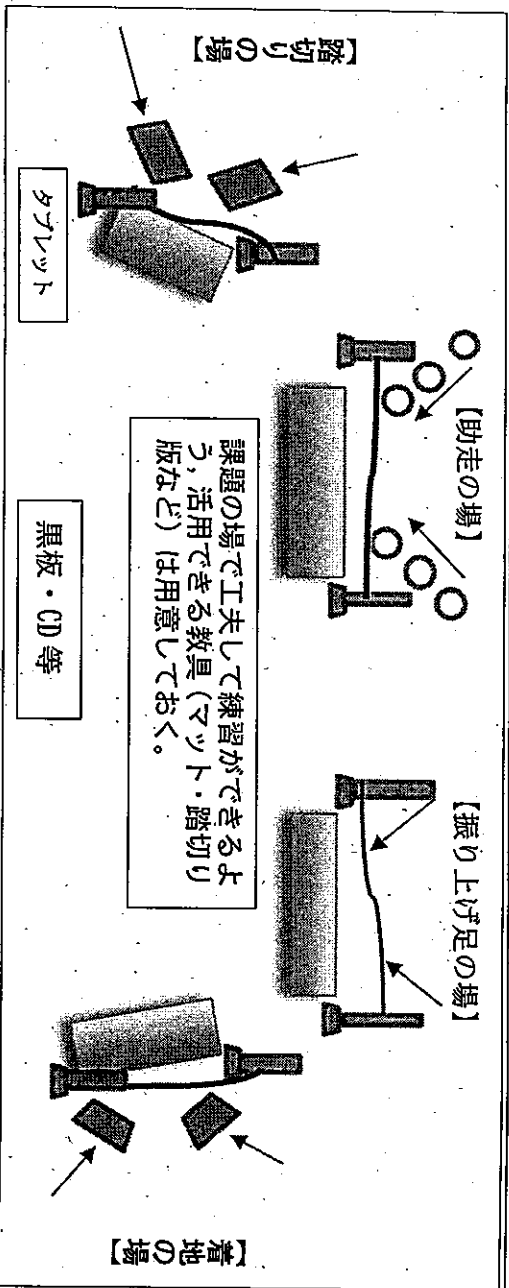
本時の目標：踏み切った後、振り上げ足を高く上げて跳ぶと高く跳ぶことができる。

(知識・技能)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①約束を確認し、場づくりをする。 ◇友達と協力して場づくりをしよう。 ②準備運動・スウィッチオンタイムをする。</p> <p>【めあて】3歩助走から踏み切って、ふわっと高く跳ぶための新しいことを見付けよう。</p> <p>③もつとふわっと高く跳ぶことができるための問いをもつ。</p> <p>【学習課題】 どんなこつを使って運動すると、もつとふわっと高く跳ぶことができるだろうか。</p> <p>◇今日も、もつと高く跳ぶための新しいこつを見付けるぞ。</p> <p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①これまで見付けたこつや、新しいこつを考えながら班でふわっと高くとぶための練習をする。</p> <p>◇今ままで学んだこつを使って練習をしよう。 ②友達の動きのよさや、高く跳ぶための新しいこつを見付け伝え合ったりする。 ◇○○さんは、踏み切った足を高く上げている。 ◇かかとをお尻より高くあげると、ゴムより高く跳べる。 ③新しく見付けたこつを使って運動したり、友達にアドバイスしたりする。 ◇「かかとあげ」のこつを使って運動しよう。 【期待される学びの姿】 かかとがお尻より高く上がっているか友達と伝え合いながら運動している。</p>	<p>○全員で分担し、協力して素早く行えるようにするとともに、場の安全を確認する。 ○スウィッチオンタイムでは、誰でもできる簡単に主運動につながる運動を行うとともに、児童の緊張をほぐし楽しい雰囲気になるように努める。</p> <p>○めあてを確認させ本時の学習への意識化を図る。</p> <p>○これまで見付けたこつを振り返り、もつと高く跳ぶためのこつはないか問う。 ○これまで見付けたこつ以外に高く跳ぶためのひみつはないか考えたり友達の動きから見付けたりすることを確認する。</p> <p>○高く跳ぶためのこつを伝えたり、新しいこつを考えたりしながら練習をすることを確認する。</p> <p>○活動の途中で、よい動きをしている児童を紹介し、一斉の直接的指導(ポイント指導)を行う。その際、どの動きを見るときとよいか、視点を与えるようにする。 ○技能のポイントは、児童の気付きをもとに引き出し、イメージしやすい言葉にすることで、動きにつながるようにする。 ○具体的な子ども姿で見取りを行い、その達成状況に応じて積極的に指導を行う。</p> <p>【具体的評価規準】観点知③ ○踏み切った後の振り上げ足の動きがわかり、かかとを、お尻より高く上げて跳ぶことができる。 (方法：観察、学習カード)</p>
展開	30分	<p>④初めの記録をもとに「ふわっとゲーム」をする。(一人3回測定) ◇今日の目標は、○○cmだ。練習した成果がどれくらいか</p> <p>3 めあてに対する振り返りをする。</p> <p>①「きらきらタイム」で本時の振り返りをする。 ◇○○さんが、かかとをお尻より高く上げるこつを使ったら、跳べなかった高さが跳べるようになったと思います。</p> <p>【まとめ】振り上げ足のかかとを、お尻より高く上げて跳ぶと、これまでよりも高く跳ぶことができることがわかった。</p>	<p>【到達していない児童への手立て】 ○動きのポイントを具体的に伝えながら動きが身に付くようにする。</p> <p>○ルールや役割分担を確認し、協力しながら行うことができるよう指導する。 ○記録を得点化し、それぞれの児童が活躍の機会を与えられるようにする。</p> <p>○学習カードをもとに振り返りをする。 ○互いのよかったこと、頑張ったことなどを認め合う場を設定するとともに、児童の気付きや伸びびについて、教師も賞賛する等し、次時への意欲を高める。</p>
終末	8分	<p>②整理運動、場の片付けをする。 ◇チームで協力して片付けよう。</p>	<p>○協力して安全に行われているか観察し、必要に応じて指導する。</p>

【単元後半の場（課題選択）の（例）】 ○（ケンステツプ） ■（踏切版） ▨（跳び箱） ～（ゴム）



【板書計画（例）】

【あて】【単元計画表】

【課題】見つけたこつを使ってもう一回にひっかかってしまおう

【まとめ】踏切った後、振り上げ足をおりより高く上げると高く跳ぶことができました。

【発見ボード】

【ゲームの進め方】

【ルール】

【ICT活用計画】

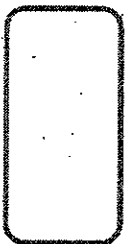
例 教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

例1 【単元前半での活用】

振り上げ足がどこまで上がっているか見てみよう



写真や動画を提示する



児童を集め、動きのこつやポイントを共有化する場面に、事前に撮っておいた写真や動画を見せて、一人一人に考えさせる。

例2 【単元後半での活用】

児童が自分の課題を「助走」「踏切り」「振り上げ足」「着地」の中から選ぶために、練習の時の動きをタブレットで撮影し、おっかけ再生でペアの友達と確認し、自分の課題を見付ける。



例3 【単元後半での活用】

「助走」「踏切り」「振り上げ足」「着地」のそれぞれの課題の場にタブレットを置き、自分の動きをタブレットで撮影し、おっかけ再生でペアの友達と確認する。お互いにアドバイスをし合い、動きが身に付くようにする。

【見方・考え方を働かせて終末や次々以降の学習に生かす計画】

例 単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み

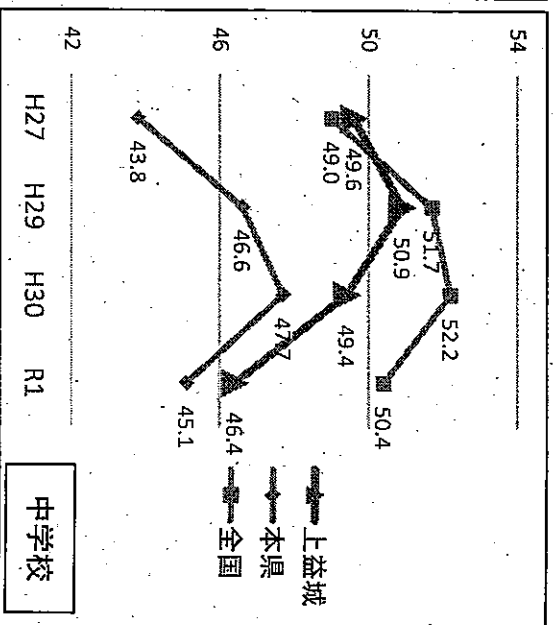
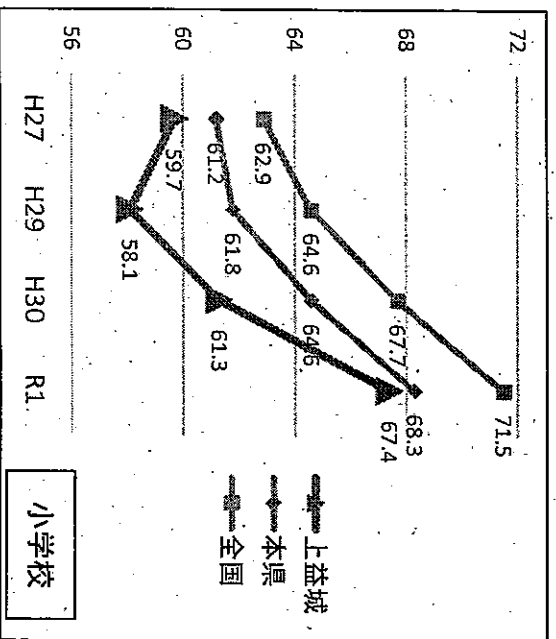
- 例1：学んだことを生かしたり、自分たちでルールを工夫したりしながら、日常的にゴム跳び遊び等をして楽しむ。
- 例2：他の領域での学習で、見付けたこつやポイントを使ってアドバイスをしたり、友達の動きのよさや変化に気付いたことを伝えたりする。

「熊本の学び」の推進に向けて【学習習慣形成の取組】

これまでの全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、本県及び上益城管内の課題として、「家で自分で計画を立てて勉強すること」や読書習慣があげられます。熊本の学びの理念である「能動的に学び続ける力」の育成に不可欠なものです。そのためには、まず、学校で共通理解を図り、家庭と連携して学習習慣の素地となる環境を整えていくことが大切です。

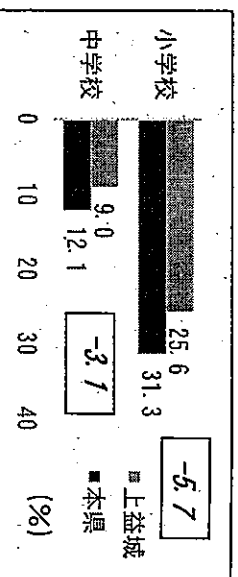
(1) 上益城管内の学習習慣形成の現状

家で自分で計画を立てて勉強していますか 「当てはまる+どちらかと言えば、当てはまる」

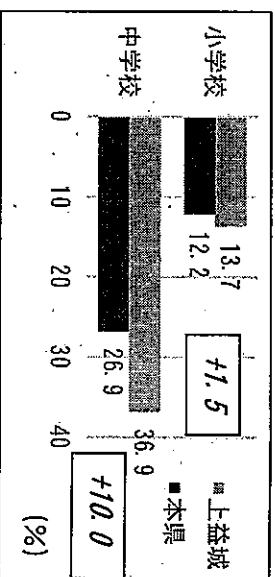


全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果 (H27年度～R元年度) より

1か月(1週間)に何冊くらい本を読みますか。
(マンガや雑誌は除きます)
※小学3、4年生は1週間
「20冊以上(10冊より多い)+10冊以上
(10冊くらい)」



1か月(1週間)に何冊くらい本を読みますか。
(マンガや雑誌は除きます)
※小学3、4年生は1週間
「まったく読まない」



令和元年度熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果より

(2) 木山中学校区の取組

「児童生徒が落ち着いた環境の中で学習に取り組み。」、そのために、小学校から中学校の9年間を系統的・段階的に位置付け、学習環境の整備、日常生活や学習規律、家庭学習の手立ての研究がなされました。

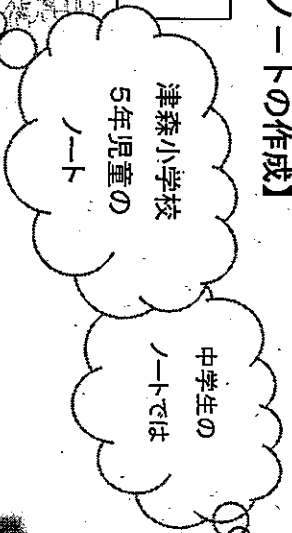
木山中学校区の木山中学校、津森小学校、益城中央小学校の3校（以下、「3校」）では、家庭学習の手立てについて、右の2点を共通実践事項として取組が進められました。

- 【3校共通実践事項】**
- ①家庭学習の充実
 - ②読書活動・ノーマディアの推進

1点目の家庭学習の充実では、自学ノートの作成について、工夫がなされています。小学校中高学年においては、授業のまとめや振り返りを家庭学習につなげることで、中学校では、小学校高学年の取組に加え、予習につなげることが意識されています。

【授業との関連した自学ノートの作成】

その日の授業で習った、社会科資料生産に関わる内容との関連が図られています。



【3校で自学ノートの交流】

工夫された自学ノートは、3校で掲示されました。互いに見合い、書き方やまとめ方の工夫の共有がなされました。



ホームワークボードを活用し、授業の予習・復習に適した内容を、生徒の家庭学習の選択肢として示します。それを基に自学ノートの作成にあたります。

2点目の読書活動・ノーマディアの取組です。益城町では、幼・保等、小、中連携推進の取組の1つとして、ノーマディアが進められてきました。木山中学校区の3校では、0のつく日を重点日として、各家庭でノーマディアに取り組みとともに、読書活動の推進が図られています。

【読書活動・ノーマディアの推進】



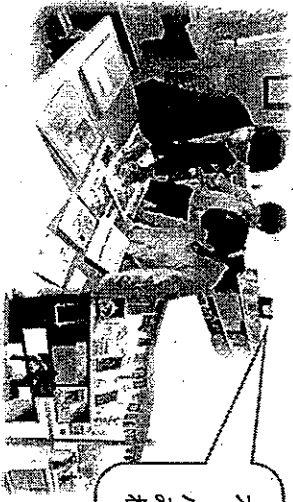
津森小学校
毎日15分間「あさどく」の時間が設定されています。
0のつく日は、カードを活用しメディア視聴時間、読書時間、家庭学習時間を記録します。

益城中央小学校
図書委員会を中心に、様々なジャンルの本を読み、スタンプをためるという読書スタンプラリーを実施しています。



1日読書カードの記入例

日	読書時間	読書内容	感想
10月1日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月2日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月3日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月4日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月5日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月6日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月7日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月8日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月9日	15分	『100年物語』	面白かった。
10月10日	15分	『100年物語』	面白かった。



木山中学校
肥後つ子いき読書ボード
バイザー事業を活用し、親しみやすい図書室設置が図られています。

(3) 蘇陽中学校区の取組

蘇陽中学校区では、保護者と連携を深めながら、9年間を見据えた学習習慣づくりに努めておられます。主に、「学習環境の整備」「山都町学習ルールの徹底」「ノーテレビデーの実施」「家庭学習についての共通理解(手引き)」の4つの視点から取組がなされています。

【家庭学習がんばりカード】

家庭学習がんばりカード

〇〇中学校区(〇〇〇〇) (学年)〇〇 学年(〇〇) 〇〇〇〇

〇〇〇〇(〇〇〇〇〇〇)

学校 宿題

月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
学	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	12時
宿	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	1時	12時

〇、できなかつたら×をつける
学年のめあての時間以上できたら◎をつける

家庭学習の理想プラン

保護者からの欄

【家庭学習の手引き】

山都町立蘇陽地区小・中学校
家庭学習のてびき(概要版)

「かをつける家庭学習のきまり」

1. 家庭学習は、学習の習慣化を図るために行うものである。

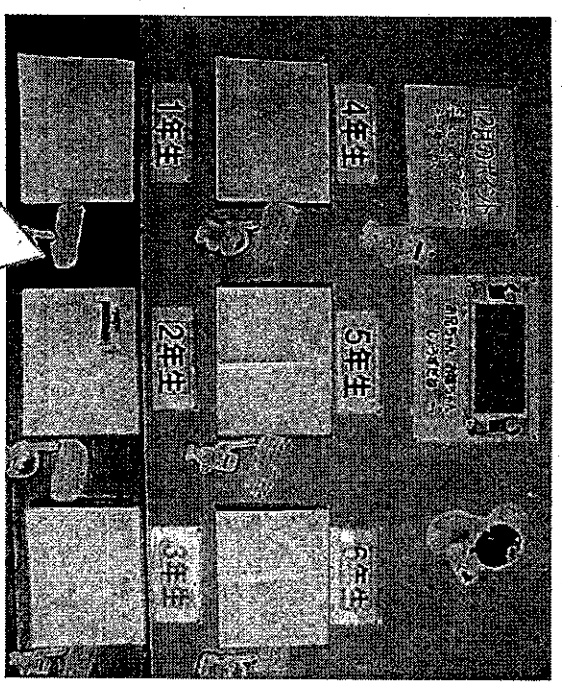
2. 家庭学習は、学習の習慣化を図るために行うものである。

3. 家庭学習は、学習の習慣化を図るために行うものである。

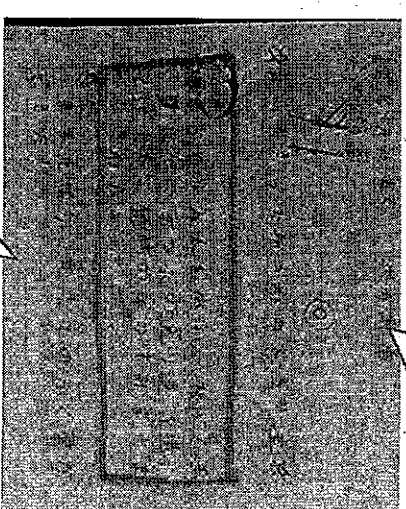
4. 家庭学習は、学習の習慣化を図るために行うものである。

教室に掲示
家庭学習がんばりカードにも貼り付け

【自主学習ノートのコーナー】



月に1回、自主学習の仕方のポイントを設定
ポイントをしっかり押さえて学習している児童のノートを掲示



自分で観察し調べたことをまとめている

本日の学習のめあて、考察の結論、感想まで記載している

令和3年度(2021年度)教育諸計画等の作成に関するチェックリスト

※ 下線・太字：新規または付加

関係項目	チェック項目	チェック
1 教育課程全般	学習指導要領の趣旨に即した教育課程の編成	
	育成を目指す資質・能力の明確化と5者共有 (R1みどりかわ参照)	
	カリキュラム・マネジメントに基づく教科等横断的な教育課程編成の実施	
	各教科等の年間指導計画の作成 (中学校)	
	効果的な学力向上検証改善サイクルの確立	
(参照)* 熊本の学び 推進プラン冊子	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた「学びの保障」について (参照) 文科省令和2年7月17日通知「学習活動の重点化に係る留意事項について(第2報)」 (参照) 文科省令和2年8月13日通知「令和2年度から令和4年度までの間における学習指導要領の特例を定める告示について」	
	2 校内研究・研修	研修方法の更なる工夫改善 県及び全国学力・学習状況調査の結果等の活用 県及び全国学力・学習状況調査の過去問題等の活用
3 道徳教育	主題配列一覧の作成 (『熊本の心』3つ程度)、『地震関連教材』2つの位置付け)	
	全体計画別葉の作成・見直し	
	道徳科の時間の研究授業の実施	
	「熊本の心」を活用した道徳科の時間の全学級の授業公開 「『命を大切に作る心』を育む指導プログラム」の見直し	
4 総合的な学習の時間	全体計画及び年間指導計画の再整備 (R1みどりかわ参照)	
	(参照)* 推進プラン冊子	探究課題とその解決をとおして育成を目指す資質・能力の設定 (R1みどりかわ参照) 移行期間終了前の評価規準の作成 (R1みどりかわ参照)
5 特別活動	小学校：全ての学年で学級活動(1)～(3)の内容の実施 中学校：全ての学年で学級活動(1)～(3)の内容の実施	
	話し合い活動の充実	
6 人権教育	「第三次とりまとめ」及び「人権教育推進資料」の活用	
	「重点的な取組に関する点検・評価項目」を参考にした学校評価項目への位置付け、見直し	
	「差別事象発生に関する対応マニュアル」の見直し 人権教育を通じて育てたい資質・能力の3つの側面(知識的・価値的・技能的側面)からの位置付け	
7 特別支援教育	児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成	
	個別の教育支援計画の作成 ※「合理的配慮」の記載	
	個別の指導計画・自立活動目標設定シートの作成	
	幼・保等、小、中、高の引継ぎ(個別の支援計画、指導計画等)	
8 生徒指導	「子どもの居場所づくり推進テーブル」に示された4つの視点からの取組の明記	
	学校いじめ防止基本方針の見直しと学校評価項目への位置付け	
	心のアンケート・学校独自アンケート実施後の全児童生徒への教育相談の実施 不登校に関する「個別指導記録(不登校支援シート等)」の活用・引継ぎ	

関係項目	チェック項目	チェック
9 環境教育	学校版環境ISO(実態に応じた数値目標の設定と継続的な記録、目標達成に向けた取組の見直し。)	
	水俣病資料館と連携した「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の取組(連絡票の活用と「目指す具体的な子どもの姿」の実現に向けた取組、事前・事後指導の計画的な取組。)(小学校)	
10 就学前教育	園と連携したスタートカリキュラムの見直しと活用(小学校)	
	各町版連携カリキュラムに基づく具体策の実施	
11 キャリア教育	「基礎的・汎用的能力」を踏まえた全体・年間指導計画の見直し	
	(参照)* 推進プラン冊子	「キャリア・パスポート」の例示資料集を参考に作成・実施
12 国際理解教育	外国語(活動)等に関する校内研修の実施(小学校)	
	「KUMAMOTO English Standard」の活用(中学校)	
13 情報教育	ICT環境整備とICTを活用した学習活動の位置付け	
	情報モラル教育の位置付け	
	プログラミング教育の位置付け	
14 学校図書館	読書活動の時間確保	
	推薦図書・必読書リストの作成	
	学校図書館図書標準達成に向けた計画的な図書整備	
15 食育	食に関する指導の全体計画①②の作成及び見直し (参照:「食に関する指導の手引き」(H31文科省)等)	
	16 健康教育	アレルギー疾患への緊急時の組織的対応と研修(実践的な研修等)の年間計画への位置付け(年1回以上)
(1) 学校保健	学校保健委員会の年間計画への位置付け(年2回以上)と活性化(課題解決のための協議)	
	フッ化物洗口の年間計画への位置付けと実施計画の見直し	
(2) 学校体育	体力向上へ向けての学校総体としての取組の明確化(数値目標の設定等)	
(3) 学校給食	衛生管理体制の徹底と充実	
(4) 学校安全	危険等発生時対処要領(学校防災マニュアル)の見直し	
	学校防災年間計画の作成及び見直し 学校安全計画の見直し(新たな危機事象への対応を含む)	
17 性に関する指導	指導内容の見直し(教科等への位置付けを含む)	
18 部活動	方針等に基づく適正で魅力ある部活動の計画(中学校)	

